

地デジ対応 OFDM 変調器

XHEAD-2

エックス・ヘッド・ツー

OFDM for ISDB-T

取扱説明書

第5版

本書はファームウェア「Ver.2.26」以降の製品に対応しています。

この度は、XHEAD-2をお買い上げいただき、誠に有り難うございます。

安全にご利用いただくため、XHEAD-2を使用する前に、本書を必ずお読みください。本書には、本機を安全に使用するための重要な事が記載されています。

本書をお読みいただき、製品内容や取り扱い方法をご理解頂いたお客様のみにご利用頂けます。製品の機能や特性をよくご理解の上、正しくご利用ください。

本機の接続や、設定、お取り扱いに関しては、お客様ご自身がテレビやビデオレコーダーなどを接続・設定できる程度の電器製品に対する知識や経験があり、地デジの仕組みを理解している必要があります。なお、一部の機能や設定において、パソコンや Web ブラウザーを持つ携帯端末、インターネット環境が必要になる場合があります、それらの用語を理解し、操作ができる能力が要求されます。

XHEAD-2 は民生用の機器です (設備・業務でご利用の場合)

製品の特性上、導入前のマナーや手順・準備を理解する必要があります。

本書の 4～17 ページ及び 20～23 ページを必ずお読みいただき、ご理解いただいた上でご利用いただきます様、お願いいたします。

手順やマナーを無視して接続や設定を行うと、周囲に多大な損害やトラブルが発生するだけでなく訴訟の原因となる場合があります。必ずアンテナ設備に実績のある設備業者様に設置・管理を委託するなどしてください。

なお、本製品は業務用製品ではありません。このため弊社による設置、出張修理や出張検査、故障時の代替機の手配、信号の校正作業など業務用のサポートは行っておりませんのでご了承ください。

接続や設定の際は、

18～19 ページの手順や操作で作業を進めることをお勧めします。

※「本書を読まなかった」、「本書の内容や用語を理解できなかった」、「本書の指示に従わなかった」、「本書に記載されていない接続や誤った操作を行った場合」、「法律を逸脱した行為」のトラブルに関しては弊社は責任を負いかねます。

また利用する映像や音声の著作権は法律の範囲内でご利用ください。

もくじ

	ページ
もくじ	2 ~ 3
お取り扱い時の禁止・注意事項と警告（製品の基本的なお取り扱いに関して）	4 ~ 15
禁止事項	4 ~ 6
警告	7
ご注意	8 ~ 9
ACアダプターに関する注意事項	10
その他ご注意いただきたいこと	10
業務や設備で使用されるお客様へ	11
初期不良期間に関して	12
製品保証と保証期間に関して	12
修理可能期間や修理依頼に関して	12
使用する前に必ずお読みください（すべてのお客様へ）	13
ご利用・設置の際の約束事項	13
公共性の高い場所をご利用いただく場合	14
個人でご利用の場合	15
はじめに	16
同梱品一覧	16
XHEAD-2の機能と利用目的	17
接続と設定の手順	18 ~ 19
<基本編>	18
<活用編>	19
<安定・安心を実現するために>	19
接続・設定の前に	20 ~ 21
個人利用の範囲で、専用RF配線で接続する場合	20
設備や業務で利用する場合	20
既存放送信号との混合は自己責任で	20
業務利用の場合のマナーと注意事項	21
対応機器と信号	22 ~ 23
想定する入力側の対応機器と信号	22
想定する出力側の対応機器と信号	22
未対応、または動作保証できない機器や信号	23
ご利用になれない場所、または運用が困難な環境	23
入力信号の解像度と動作	24 ~ 25
各部名称と機能	26 ~ 29
USBによるファームウェア・アップデート	30
正しい設置方向	30
間違った設置例	30
ボタン電池を取り付けて日時を設定する	31
使用前に必ずボタン電池を入れて日時を設定してください	31
3種類の日時設定の方法	31
接続概要	32 ~ 39
テレビに接続する	32 ~ 34
ビデオレコーダーに接続する	35 ~ 37
ACアダプターを接続する	38
アナログ音声を入力する際の接続	38
RF分配器を用いた接続と、信号レベルの低下	39

もくじ

	ページ
LANへの接続	40 ~ 41
Webブラウザからの制御にはLAN環境が必要です	40 ~ 41
方法1：設置場所にイントラネットやインターネット環境がある場合	40 ~ 41
方法2：設置場所にイントラネットやインターネットは無いが「LAN端子を持つパソコン」と「LANケーブル（クロス型）」がある場合	41
方法3：設置場所にイントラネットやインターネット環境は無いが、「スマートフォン」や「無線LAN機能を持つパソコン」、「ポータブルルーター」がある場合	41
本体液晶に表示されるメッセージの意味と操作	42 ~ 47
液晶画面に表示されるステータス表示	42
ボタン操作と液晶画面のメニューの動作	42
設定を変更してみよう1（「選択型」の機能設定を変更する）	43
設定を変更してみよう2（「文字入力型」の機能の設定を変更する）	44 ~ 45
設定を変更してみよう3（「地域設定」を変更する）	46 ~ 47
設定メニューの機能	48 ~ 71
起動時と終了時のメッセージ	48
状態を知らせるメッセージ・アイコン	48
設定メニューの種類	49
設定メニュー一覧	49
Main_Menu（メイン・メニュー）	50 ~ 51
Broadcast（ブロードキャスト）送出の基本設定	52 ~ 53
EPG（イー・ピー・ジー）電子番組表の設定	54 ~ 57
Network（ネットワーク）LANの設定	58 ~ 60
Date/Time（デート/タイム）日付と時刻の設定	61 ~ 62
CopyProtection（コピー・プロテクション）著作権保護の設定	63
Option（オプション）その他の設定	64 ~ 67
Maintenance（メンテナンス）メンテナンスの設定	68 ~ 69
Information（インフォメーション）本体情報の表示	70
Upload（アップロード）OFDM IC 設定情報の更新	71
Webサーバーを使用するには	72 ~ 75
パソコンのWebブラウザを使用する	72 ~ 73
スマートフォンのWebブラウザを使用する	74 ~ 75
電子番組表の機能	76 ~ 79
日時設定の手順	80 ~ 85
NTPサーバー設定の変更方法	86 ~ 89
工場出荷時設定	90 ~ 91
RF信号の混合における留意点	92 ~ 94
アース線を接続する	95
仕様	96 ~ 97
トラブルとQ&A	98 ~ 109
（付録）設置記録メモ	110 ~ 112
BMLのご利用に関して	113
正しく送出できない例	113
修理の依頼方法	114 ~ 115

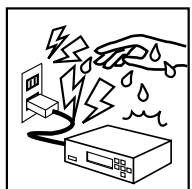
お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

製品の基本的なお取り扱いに関して

XHEAD-2 は、精密な電子機器です。製品のお取り扱いに関しては下記をご覧ください。正しくご使用ください。また、XHEAD-2 は製品の特性上、お取り扱いによっては、大きなトラブルや損害に至る恐れがありますので、必ず 13～23 ページに記載の内容も読みいただき、ご理解・ご了解の上で使用ください。

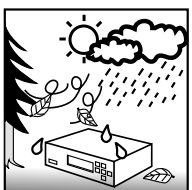

<禁止事項>


禁止事項は、お客様が XHEAD-2 を使用・設置する際に禁止している事項です。禁止事項に記載された内容に従わず本機をご利用頂いた場合、製品が故障するだけでなく、お客様の財産や人命に甚大な被害を被る恐れがあります。また法律に関わる事項では、罰則を受けたり訴訟に至る場合があります。



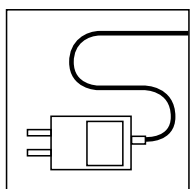
●ぬれた手でさわらない

本機に、ぬれた手で触れないでください。
ぬれた手で触れたり操作すると、感電の恐れがあり、たいへん危険です。



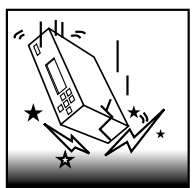
●屋外設置は禁止

本機は、室内での使用を前提として設計されています。このため、屋外など過酷な条件や、極端な温度・湿度条件下で使用した際の動作は保証できません。また自動車内など、きわめて屋外に近い環境での動作保証はいたしません。



●専用 AC アダプター以外は使用禁止

XHEAD-2 をご利用になる際は、必ず専用の AC アダプターをご利用ください。それ以外の AC アダプターを使用した際は、いかなる動作保証もいたしません。



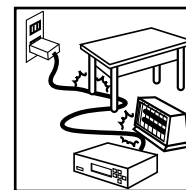
●落下・衝撃禁止

本機は精密機器です。使用中や輸送時に強い衝撃を与えたり、ケーブルを引っ張るなど激しい取り扱いはしないでください。AC アダプターも同様です。落下・衝撃を加えて故障した場合は保証期間内であっても有償修理となります。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

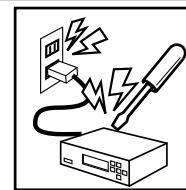
製品の基本的なお取り扱いに関して


<禁止事項>



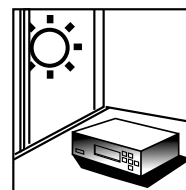
●可動の恐れがある家具や暖房器具などの側は設置禁止

本機やケーブルの上に物が乗った状態で使用しないでください。また、ストーブやファンヒーター、エアコンなどの発熱する機器の側で設置・使用しないでください。



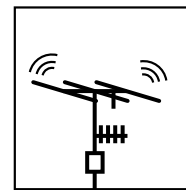
●分解・改造禁止

分解・改造は絶対にしないでください。
分解・改造後の保証・修理はいたしません。
分解・改造によって人体に甚大な被害を被ったり、怪我・感電・火災に至ることがあります。



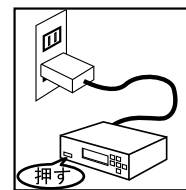
●直射日光の当たる場所への設置は禁止

本機を直射日光の当たる場所に置かないでください。
製品寿命の低下、動作不良、ケースが変形するなどの症状が発生する恐れがあります。また自動車などの車内に長時間放置することは絶対におやめください。



●電波を発信する行為は禁止！

XHEAD-2 で変換した信号は地デジ放送波と同等です。このため、XHEAD-2 から出力される RF 信号をアンテナや増幅器などを用いて電波を送出すると既存のテレビ放送を妨害します。周辺住民や企業に対する迷惑行為となるだけでなく、電波に関する法律に違反する行為となり、法的な処罰を受けたり、訴訟や賠償に至る場合があります。
RF 信号を電波で送信（送出）する行為は禁止されています。



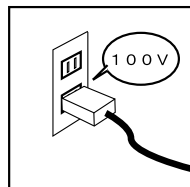
●動作中に電源ケーブルを取り外す行為は禁止！

XHEAD-2 内部ではパソコンの様なファイルシステムを使用しています。このため、突然 XHEAD-2 動作中に電源ケーブルや AC アダプターを取り外すなどの操作で電源が途切れると、本機のフラッシュメモリーで動作しているファイルの管理構造 (FAT) が破損する恐れがあります。ファイルの管理構造が破損すると、本機の設定データや Web サーバーの情報などが破損し、本機が正常に動作しなくなります。停電など予期せぬ事態を除き、本機の通電を止める際は、必ず本機の「電源ボタン」を押して本機を待機状態 (スタンバイ) にしてください。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

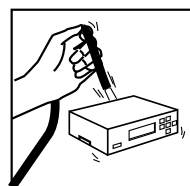
製品の基本的なお取り扱いに関して

⊘ <禁止事項> ⊘



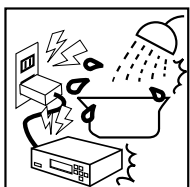
● AC 100V 以外では使用禁止

XHEAD-2 は専用の AC アダプターを AC100V (50/60Hz) の電源コンセントに接続して使用してください。AC 100V 以外の電源コンセントには絶対に接続しないでください。



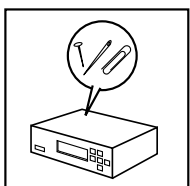
● ケーブルを持って引っ張らない

XHEAD-2 の端子からケーブルを取り外す際に、コードを引っ張らないでください。ケーブルの挿抜は、必ず本体を手でしっかり固定し、ケーブルのコネクタ部（樹脂部）を持って行ってください。



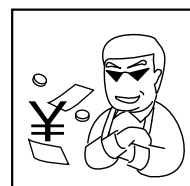
● 水場で使用禁止

XHEAD-2 を、水を多く使う場所（お風呂場や洗面所、キッチンなど）では絶対にご使用にならないでください。本機に水がかかったり、製品内部に水が侵入すると、漏電、感電、火災、故障の原因となります。本機は防水処理されておりません。



● 異物挿入禁止

XHEAD-2 本体の穴などから、異物を入れないでください。また、間違っって異物が入ってしまった場合は、ただちに本機の使用を中止し、弊社へお問い合わせください。



● 有料放送の禁止

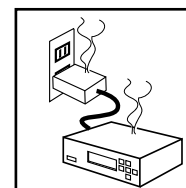
いかなる場合であっても XHEAD-2 に入力する映像・音声・音楽・情報を、それらの権利者に無断で有料（有償）で配信するサービスには使用してはいけません。また有料（有償）でなくとも、他人が作成した著作権のある映像・画像・音楽・情報を商業利用・営利目的で自主放送する場合は権利者の許可が必要です。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

製品の基本的なお取り扱いに関して

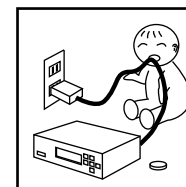
⚠ <警告> ⚠

警告は、お客様が XHEAD-2 を、より安全にご利用いただくため、十分ご配慮いただきたい事項です。配慮を怠ると、他人に迷惑をかけたたり、財産や人命に甚大な被害を被る恐れがあります。



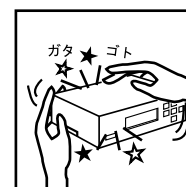
● 煙が出たら使用を中止してください

使用中に、本機から煙が出たり、変な臭いが出るときは、すぐに使用を中止し弊社サポート窓口までご連絡ください。そのままご使用になりますと火災や感電の原因となり大変危険です。



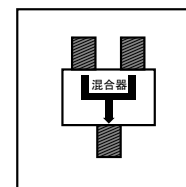
● お子様や幼児の手の届く場所に設置しないこと

本機をお子様のおられる場所へに設置することは大変危険です。やむを得ず設置する場合は手の届かない場所に設置してください。また、使用しないときも、お子様の触れない場所に本機（付属品を含む）を保管してください。特に、電源ケーブルや電池の取り扱いには十分お気をつけください。小さなお子様がいらっしゃる場所では特に配慮が必要です。



● 本体や AC アダプターを振って大きな音がしたら使用中止

製品には万全を期しておりますが、本体を振って、部品が外れているような音がするときは、すぐに使用を中止し、弊社へご連絡ください。製品の落下や衝撃などで部品が割れたり外れてしまった場合も、使用を中止し弊社へご連絡ください。



● 既存放送信号と混合する際は施設や設備管理者の許可が必須。既存放送信号との混合は自己責任です！

XHEAD-2 では、アンテナ端子やアンテナ配線、混合器を用いた既存放送信号（既存館内放送含む）との混合を行うと、物理的に配線が繋がってしまうため、XHEAD-2 で変換した RF 出力信号がアンテナ配線を経由して自動的に他の場所や他の世帯に送出されてしまいます。このため、特に業務でご利用のお客様におかれましては、設置する施設・地域の管理者に本機の機能や特性をご説明のうえ、管理者の許可を得て設置・利用してください（詳しくは 21 ページをご覧ください）。なお、弊社では既存放送信号との混合によるトラブルやお問い合わせには一切お答えできません。既存放送信号との混合は自己責任です。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

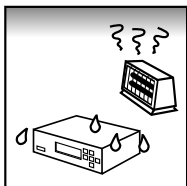
製品の基本的なお取り扱いに関して



<ご注意>

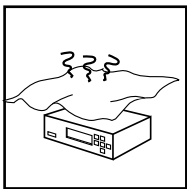


ご注意は、お客様が XHEAD-2 を実際に使用・設置する際、ご注意いただきたい事項です。注意を怠ると、製品が故障したり、お客様が怪我をする恐れがあります。また最悪の場合お客様の財産に損害が発生したり、人命にかかわる場合があります。



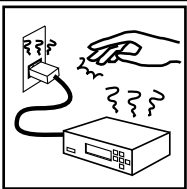
●結露に注意（部品に水滴が付着すると漏電します）

本機を寒い屋外から暖房されている部屋に持ち込むなど、急激な温度変化により、部品や本体表面に水滴がつく（結露する）ことがあります。水滴がついたままご使用になりますと、故障、感電、漏電、火災の原因となります。結露した場合は、一定時間経過してから使用してください。



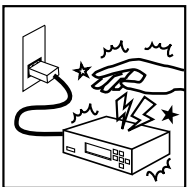
●設置環境に注意（発熱しすぎると出力が停止します！）

本機の上や下に布を置いたり、AV ラックの中に設置するなど、熱のこもりやすい状態で使用しないでください。また、本体の通風口をふさぐような設置（両面テープや粘着テープなどで本体を何かに貼り付けるなどの設置）はおやめください。本機はたいへん発熱しやすい機器であるため、設置状態や設置場所には注意が必要です。なお、安全上の保護機能により、液晶に表示される本体内部が高温になると、本機は送電を停止します（本体を冷却後、再起動が必要となります）。



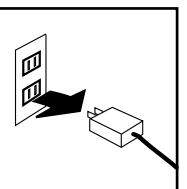
●製品が熱くなります（やけどなどに注意）

本機の使用時や、使用後しばらくは、本体や AC アダプターが高温になることがあります。お手を触れる際には十分ご注意ください。特に、端子などの金属部が非常に熱くなることがありますのでご注意ください。金属部分は設置環境によっては 50℃ 近くになる場合があります。



●静電気に注意（意外と多い静電気による故障）

本機に使用している電子部品は静電気に対して大変デリケートです。特に HDMI 信号にかかわる回路部品の故障の第一原因は静電気などの高電圧による電気的な破壊です。本機に触れる際やケーブルの挿抜時は必ず体内の静電気を取り除く様、心がけてください（本機に触れる前に、金属製のドアノブや鉄の棒などに触れて、体の静電気を放電してください）。



●未使用時は AC アダプターをコンセントから取り外す

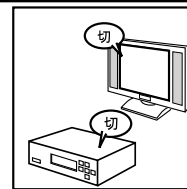
本機をご使用にならないときは、AC アダプターを AC コンセントから取り外し、本機の電源を「切（オフ）」にすることを勧めます。製品には万全を期しておりますが、安全を考慮し、使用しないときは AC アダプターを AC コンセントから取り外すことを勧めます。また、本機の AC アダプターは本体が接続されていなくても、AC コンセントに接続されているだけで若干の電気を消費し、寿命のある部品は劣化しやすくなります。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

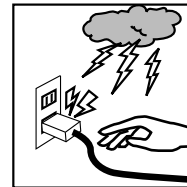
製品の基本的なお取り扱いに関して



<ご注意>

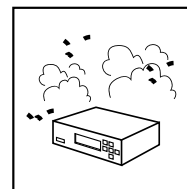


●ケーブル類の挿抜時は「電源オフまたはスタンバイ」に
接続ケーブルの挿抜時は、必ず接続している全ての機器の電源を「オフ（切）」、または「スタンバイ（待機）」の状態で行ってください。接続している機器の電源が「オン」のときにケーブル類を挿抜すると、画面が映らなくなることがあるだけでなく、ショートなどをおこし各機器が故障する恐れがあります。



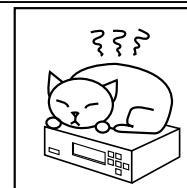
●雷に注意

本機を使用中に雷が鳴り出したら、AC アダプターを取り外して下さい。雷の電気が、電源コンセントを伝って、本機に流れ込むことがあり、火災や発煙の恐れがあります。なお、天災（例えば落雷）によって受けた感電・損害・被害は弊社は保証いたしません。



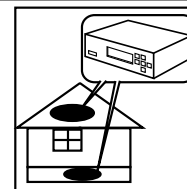
●ホコリ・油煙、タバコに注意

本機を、ホコリの多い場所や油煙のある場所では使用しないでください。故障や漏電、発火の恐れがあります。また、トラッキングなどの原因となる場合があります。特に油煙やタバコのヤニなどがホコリの吸着を促進し、トラッキングによるトラブルに至る場合があります。



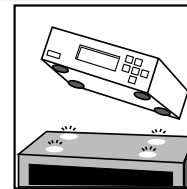
●ペットに注意

ペット（動物）の居る部屋では設置・使用しない、もしくはペットの触れることのできない場所に設置してください。ペットがケーブルをかじるなどして傷を付けたり、糞尿が製品にかかると、ショートや発火、漏電、故障の原因となります。



●操作のできない場所への設置は故障時に困ため注意

本機を、屋根裏や床下等手の届かない場所に設置することはお勧めできません。緊急時の取り外しができなかつたり、漏水、ホコリ、通気性、安全面、メンテナンス等の観点から、お勧めできません。弊社では屋根裏や床下等は室内とは認めません。取り外しが容易な場所や目に見える場所に設置してください。



●ゴム足の吸着や材質移行に注意！

本機下部のゴム足は、吸着性が高いものを使用しています。このため、塗装や印刷のされている家具や機器の上に本機を直接設置すると、それらの塗装や印刷が、はがれるなど破損する恐れがあります。また長期間の設置で材質が張り付くなどの移行の発生が懸念されます。設置場所に注意し、お客様の機器や家具が傷まないよう、板や厚紙などを敷いて設置してください。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

製品の基本的なお取り扱いに関して

AC アダプターに関する注意事項

- 本機をご使用にならないときは、本機の AC アダプターを AC コンセントから取り外してください。
- 分解しないでください。感電・火災の原因となります。
- 同梱の AC アダプターは必ず XHEAD-2 でご使用ください。他の機器でご使用にならないでください。故障・感電・火災の原因となります。
- タコ足配線をししないでください。感電・火災の原因となります。
- 濡らしたり、濡れた手で AC アダプターに触れないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中の AC アダプターを布などでおおったり、包んだりしないでください。火災・発熱の原因となります。
- 短時間にコンセントの抜き差しを繰り返さないでください。故障の原因となることがあります。

その他ご注意いただきたいこと

- 本機を本来の目的意外の用途に使用しないでください。
- アロマランプ等アロマ関連の装置を本体や AC アダプターの近くで使用しないでください。アロマ成分が本体内部や AC アダプター内部に蓄積(付着)し、ショートや発火、漏電、故障の原因となります。
- 接続する端子や手順、接続方法を間違えると、本機や接続した機器が故障する恐れがあります。接続の際は本書をお読みいただき、正しくご利用ください。
- 車載や船舶・航空機でご使用いただいた場合の保証はいたしかねます。
- 長時間映像を表示し続けると、テレビやディスプレイ画面に映像の焼き付きが起こることがあります。使用しないときは、テレビやディスプレイの電源をオフにするか、本機の電源をオフにすることをおすすめします。特にプロジェクション方式・有機 EL 方式・プラズマ方式のテレビやディスプレイでは、焼き付きが起こりやすいためご注意ください。弊社では、表示機器への画面の焼き付きが発生した際のいかなる保証もいたしません。
- HDMI 分配器や切替機(スイッチャー)を接続すると正しく動作しない場合があります。弊社ではどの様な相性や不具合が発生するか予測できません。本機をご利用の際は、HDMI 分配器や切替機(スイッチャー)を接続しないでください。

＜対応外の機器を接続する場合＞

本機が対応できない機器(未対応の機器、弊社の想定しない機器、または動作を保証できない機器など)との接続は、保証・サポートの対象となりません。接続しないでください。

これらの指導を無視して接続する場合は、お客様の責任において、設置・管理を行ってください。トラブル発生時に弊社へお問い合わせいただいてもご回答いたしかねます。

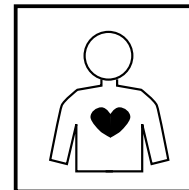
対応外の機器との接続において、不具合や故障、またはお客様の所有する機器や機材に損害などが発生しましても、保証・交換・返品・修理・サポートはいたしかねます。

詳しくは、22～23 ページをご覧ください。なお、電気的に仕様の違いがある機器に接続すると、一見正常に動作していても、長時間・長期間使用すると、お客様の機器が故障したり、本機が故障する場合があります。くれぐれもご注意ください。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

製品の基本的なお取り扱いに関して

業務や設備で使用されるお客様へ(法人様向け)

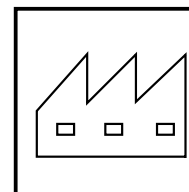


●**人命や人体、財産に影響を及ぼすシステムに使用しないでください**
本機は一般的なオフィス(工事現場や倉庫などではない)や家庭での使用を前提として設計された民生用の装置です。本機を、軍事機器、航空宇宙機器、原子力制御システム、幹線通信機器、交通機器、医療機器および、各種安全装置など、その故障や誤動作が社会・公共性または、直接人命や人体、財産に影響を及ぼすような高い品質・信頼性が要求される用途に使用しないでください。

●民生用の機器です、業務用機器ではありません

本機は、業務用機器ではありません。このため業務用途で使用、された場合の製品寿命や耐久性・保守体制・保守期間において、業務用機器と同等のサービスを受けることはできません。

また、他機器(産業用機器や製造装置など)へ組込み込んで出荷するなど、業務用途で長期に連続稼働が必要とされるシステムへの安易な導入はお勧めできません。やむをえず本機を使用しなければならないときは、本製品が業務用機器ではないことをご理解の上ご利用ください。本機をご利用の法人様におかれましては、「故障時や生産終了時の代替機を各自で事前に準備しておく(交換用の製品を事前に準備しておく)」、など十分考慮の上ご検討ください。弊社による出張修理などの保守サービス(有料無料問わず)はございません。なお、本機の取り扱いや操作を間違えた場合や、本機が故障した場合に発生した二次的な損害に関しては弊社では保証できません。また、本機が故障した際、修理中の代替機などはご用意しておりません。必要な場合はお客様にて代替機をご購入・ご用意ください。



＜メンテナンス担当者が代わっても対応できる様、社内に資料を残しましょう＞

企業において、担当者が配置転換・移動することはよくあることです。しかし、前任の担当者が不在になると、独自の接続を行ったり、製品設定・調整を変更している場合、なんらかのトラブルや故障が発生した際に、別の担当者が再度同じ接続や設定・調整ができなくなります。必ず、配線経路や設置・設定に関する資料を御社社内に残してください(弊社にはお客様のご利用状況を確認する資料はございません)。

設備業者様によっては、担当者や営業所の裁量で製品を設置している場合もあり、設置場所や設備に合わせて独自の接続や設定を行う事も多いため、特に注意が必要です。

また、設定・調整にはパソコンが必要になる場合もあるため、本機を取り扱うユーザー様はパソコンを操作できる知識が必要です。本機の設置・利用は、パソコンの基本的な操作や用語が理解でき、テレビやビデオレコーダーなどの設置・設定(XHEAD-2ではRF信号の測定)の経験がある担当者が行ってください。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

初期不良期間に関して

初期不良期間とは、お買い上げ頂き2週間以内に製造不良などによって故障や動作の不具合が発生した際（保証規定に記載事項に準じて）送料を無償で交換する期間のことです。お買い上げ後2週間以内に弊社へ送付または、お買い上げ頂いた店舗に持ち込んでいただいた不具合品に関しては、送料を弊社負担にて新品交換、または無償修理させていただきます。なお、弊社へ送付されたり、お買い上げ頂いた店舗に持ち込まれる前に、必ずお電話や弊社Webページより、不具合内容や発生している状況をご連絡ください（事前にご連絡のない送料着払いのお荷物は、お受け取りできません。このため、お問い合わせの際は、お客様のご氏名、ご連絡先、製品名を明確に弊社へお伝えください）。

また、製品のご送付に関しては弊社指定宅配業者にてお願いいたします。

なお、単に仕様上やむを得ず発生してしまう問題や、機器の接続・設定の間違ひによって発生している場合もあり、初期不良ではない可能性もあります。必ず、事前に弊社へお問い合わせいただき、担当者の指示に従ってください。

製品保証と保証期間に関して

- 本機の保証期間は、保証規定に従い、お買い上げ日から1年以内となります。それ以降は有償修理となります（保証規定は保証書をご覧ください）。
- 保証規定は、日本国内においてのみ有効です。
- 修理時の検査の結果「静電気」や「高電圧（雷を含む）」、「お客様の不注意による破損や改造」が見られた場合、「保証書規定で有償修理」と記載された内容に対しては、保障期間内であっても修理費用を請求させていただきますのでご了承ください。

修理可能期間や修理依頼に関して

- 本機のサポート期間は、ご購入後（使用の有無にかかわらず）5年以内とさせていただきます。それ以降は、本機の製造終了などに伴う部品などの入手性の問題から修理できない事があり、その際は弊社の後継機への買い換えを検討されるか、後継機が無い場合は別のメーカーの製品への買い換えをご検討ください。なお、店頭在庫などで本製品の生産終了後に購入された場合は保証期間（1年）を含め製造終了後5年以内が修理受付可能期間となります。なお、いずれの場合も部品メーカーの都合などで部品が入手できなくなった場合は5年未満でもサポートを終了する場合があります。ただし、本機ご購入後5年を経過しても製造や販売（弊社の通常出荷）を継続している場合は、修理サポート（有償修理）を継続しておりますので弊社までお問い合わせください。
- 弊社では有償無償を問わず出張修理や出張サポートは行っておりません。
- 本機の仕様や概観を改良のため予告なく変更する場合があります。また、予告なく本機の生産や販売を終了する事があります。ご了承ください。
- どうしても本機が正常に動作しないときや、操作がよく分からないとき、本書をご覧になっても解決できない問題は、まず弊社にご連絡ください。
- 故障に際してお取り扱いミスなどがあって壊した場合や、誤った使用をしてしまった場合は、隠さずご説明ください。また、接続している機器などを偽らさずお教えください。
- 本機を長期に利用していて、画面が乱れがちになってきたり、お客様側で故障の可能性があると判断したときは、弊社へご相談ください。故障したままご使用になりますと、故障箇所が各部に広がってしまうことがあり、最悪の場合、製品を修理できなくなる恐れがあります。製品には、電源回路や映像回路に電解コンデンサーなど、寿命のある部品を使用しております。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

重要

使用する前に必ずお読みください（すべてのお客様へ）
ご利用・設置の際の約束事項

重要

- ご利用に際しては本書をお読み頂き、注意事項・機能・使用方法を正しくご理解の上、ご使用ください。
- 本機は、お客様の責任において接続・設定・利用してください。
- XHEAD-2の利用範囲は館内（一つの建物内または、一つの施設内）での自主放送にのみ限らせて頂きます。なお、XHEAD-2は日本国内でのみ利用可能です。
- 本機のRF信号を混合器を用いるなどして地デジ放送と混合したり、建物のアンテナ配線に接続する場合は自己責任でご利用いただくこととなります。なお、やむを得ず建物のアンテナ配線に接続する場合は、どのような利用目的であっても、事前に建物などを管理する設備業者や、管理者に許可を得てから設置・使用してください（ビル、集合住宅、施設、共同アンテナの地域など）。
- 既存放送との混合がある場合や、業務でご利用の際は、個人の判断で設置しないでください。必ず、設備業者や管理者に相談の上、それらの指示に従ってください。また、事前に設置場所の設備環境を調査し、本機を使用可能であることを確認してください。
- 法律、注意事項、本機の使用方法を正しく理解せず使用した場合の、いかなる苦情・トラブル・訴訟にも弊社は一切感知いたしません（「知らなかった」、という事では許されないため、十分な知識をもって、取り扱いを行ってください）。
- 業務で設置や接続・設定をされる場合は、事前に本機を使用して動作確認・接続方法の学習・設定や操作の練習をしてください。
- 本製品が故障した場合に発生した二次的被害・損害は補償いたしません。（放送信号を用いたサービスの停止による損害の補償や補填は行いません）
- 本製品は業務用製品ではありません。このため、「出張修理や出張サポート」、「代替機の手配」、「製造期間の保証」、「製造・販売終了のご連絡」、「機器の校正」、「保守期間の保証」などの業務向けサービスは行いません。また事前の連絡無しに製造を終了したり、弊社の業務上の都合でサポートを終了することがあります。
- 故障の際は、所有者か担当管理者が取り外して弊社まで送付してください。その際の代替機や代替方法はお客様にてご用意・ご検討ください。弊社では代替機をご用意しません。なお修理には一週間以上かかる場合があります。業務でご利用の際は、これらの事項をご理解の上、導入してください。
- 本機の修理や検査をご依頼頂いた場合、正しい検査を行うため、お客様が設定された内容などがすべて工場出荷時の設定に初期化されます。本機を修理や検査ご依頼頂く前に、必ず本機の設定内容などをメモするなどし、再設定ができるようにしてください。
- 映像や音声の圧縮処理の特性上、変換した映像と音声は0.5秒以上遅延します。このような特性をご理解の上、用途や利用方法をご検討ください。
- 著作権保護のある映像や音声を業務で自主放送する場合は、お客様自身が著作者に申請して許可を得る必要があります。
- これまで出荷されたすべての地デジ製品で使用できることを保証するものではありません。受信機の世代や出荷時期、相性などにより、本機で変換した信号を正しく受信できない場合があります。法人用途などで設備にご利用の際は、事前に実際に使用する機器を用いた動作確認を行うことをお勧めしています。
- 既存放送と混合する時はリモート・チャンネルを重複させないでください。また、RFチャンネル（UHF帯、VHF帯、C帯）などを重複させないでください。
- 特別な理由がない限り、地域設定は受信機と同じになるよう設定してください。
- LANを使用する際は他の機器とIPアドレスを重複させないでください。

お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

重要

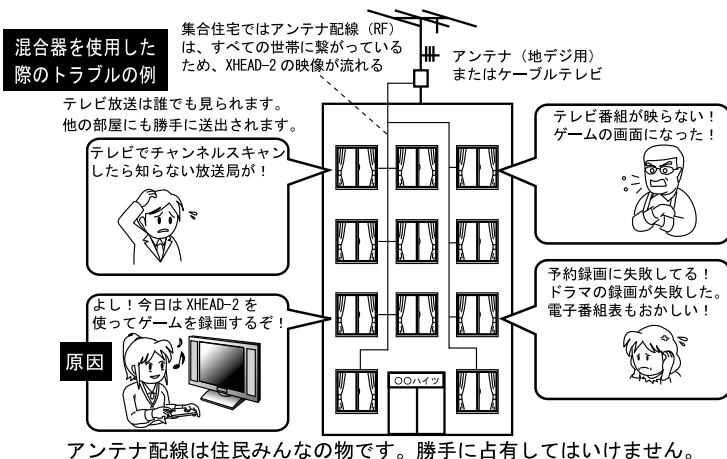
使用する前に必ずお読みください
公共性の高い場所でご利用いただく場合

重要

設置場所が、「ビル」、「マンションやアパート（集合住宅）」、「共同アンテナを利用している住宅（地域）」、「学校、病院、公共施設など公共性の高い場所」、「旅館、ホテル」、「店舗」の場合は、必ず設置する建物や場所、または地域の管理責任者の許可を得てください。なお、弊社製品には混合器を内蔵していないため、混合器のご利用は自己責任となります。やむをえず混合器を使用して既存放送信号と混合する場合は、下記をお読みいただき慎重に接続してください。混合器は、内部が電気的に繋がっています。このため、XHEAD-2 で変換した映像（著作権のある映像も含む）を、地デジの帯域で集合住宅の他の部屋や、共同アンテナが繋がっている別の住宅に勝手に配信したり、設定を間違った場合は接続されているすべての機器の地デジの受信を妨害したりします。これはアンテナ配線を利用した場合に方式上やむをえず発生する事象です。

自主放送は RF 配線の接続されている機器に勝手に流れますのでご注意ください。設備や放送に関して知識の無い方の館内放送工事や設置作業はお勧めできません。特にケーブルテレビ (CATV) による放送サービスなどが、すでに館内に提供されている場合は、これらのサービスを阻害する恐れがあるため原則本機を接続できません。また、XHEAD-2 を業務に使用するためビル・建物の管理事務所などに設置することはあっても、各部屋（各世帯）のアンテナ端子（壁面のアンテナ端子）に直接接続したり、アンテナを取り付けしないでください。XHEAD-2 をアンテナ線につなぐだけで、特別な処理をしない限り同じ配線上の別の機器や部屋に自主放送が開始されてしまいます。意図せず自主放送を開始してしまったり、館内の放送システムやテレビ受信に障害が発生するため、近隣住民とのトラブルの原因となったり、著作権法を逸脱する行為に至る恐れがあります。知らないうちにテレビの放送サービスを妨害して法律に違反したり、著作権を侵害することが無い様、くれぐれもご注意ください。混合器は弊社製品ではないため、既存放送と混合した場合に発生したトラブルは、お客様側で解決していただく様お願いいたします。これらの場所や設備でご利用の際は必ずアンテナ配線や放送の知識を持ち、長期保守サービスが可能な専門業者に工事を依頼してください。

図 1



お取り扱い時の禁止・注意事項と警告

重要

使用する前に必ずお読みください
個人でご利用の場合

重要

個人で（趣味などで）本機をご利用のお客様は使用方法に制限があります。恐れ入りますが、下記の事項を守ってご利用ください。下記事項を守らない場合、お客様が知らないうちに法律に違反してしまったり、放送によるトラブルにより訴訟などに発展する場合があります。これらの事例に関して弊社は一切責任を負いかねます。

●個人でご利用のお客様は接続や使用方法を制限させて頂きます。

個人でのご利用のお客様におかれましては、XHEAD-2 で変換した映像は下記の接続でご利用ください。下記以外の接続で利用された場合や、想定しない接続によるトラブルには対応いたしません。弊社では想定しない接続でのトラブルや不具合には対応できません。

接続 1：映像・音声ソース (HDMI) → XHEAD-2(RF) → ビデオレコーダー → テレビ (任意)

接続 2：映像・音声ソース (HDMI) → XHEAD-2(RF) → テレビ

●絶対に住宅のアンテナ端子に接続したり既存放送に混合しないこと (図 1 もご覧ください)。

アンテナに繋がった RF ケーブルに接続しないでください。個人でのご利用のお客様におかれましては、「絶対に XHEAD-2 を住宅などのアンテナ端子（アンテナに繋がったケーブルや機器も含む）に接続しないでください」。また「XHEAD-2 に直接アンテナを接続しないでください（混合器などを使用してアンテナ線を一旦分配している場合も繋がっていると同じ見なします）。XHEAD-2 をアンテナ線上に配線しているだけで、本人の意思とは関係なく同じ配線上の他の世帯や他の部屋へ地デジによる自主放送が始まります。市販の地デジ用の「混合器」は、内部が電気的に繋がっています。このため、XHEAD-2 で変換した映像（著作権のある映像も含む）を、地デジの帯域で集合住宅の他の部屋や、共同アンテナが繋がっている別の住宅に勝手に配信したり、設定を間違った場合は接続されているすべての機器の地デジの受信を妨害します。これはアンテナ配線を利用した場合にやむをえず発生する事象です。知らないうちに著作権を侵害したり、放送を妨害して法律違反となる恐れがあります。自主放送は配線の下流・上流の区別無く流れますのでご注意ください。近隣の家のテレビが突然映らなくなってしまったり、人に見られたくない自分の映像や著作権のある映像を勝手に他人に配信してしまう事もあります。また、放送を妨害すると、映らないだけでなく電子番組表の情報が壊れてしまい、それに関連づけられた予約録画が正しく動作しない恐れもあります。「集合住宅（マンション、アパート）」、「ビル」、「公共施設」、「ケーブル・テレビのある施設や場所」、「共同アンテナのある施設や場所」ではご注意ください。特に慎重に対応しなければならない事例は、ケーブル・テレビによる放送サービスを受けている施設や場所の場合です。ケーブル・テレビ業者のサービスや業務を妨害する恐れがあり、お客様がケーブル・テレビを利用していなくても、ケーブル・テレビが導入されている施設や場所では、大規模なトラブルや訴訟などに至る恐れがあります。絶対に XHEAD-2 をアンテナ配線（アンテナに繋がった端子・ケーブル、混合器、分配器など）に接続しないでください。弊社では、原則、個人におけるアンテナ配線への工事・接続を想定しておりません。ビデオレコーダーやテレビには、アンテナ配線に繋がっていない独立した機器を RF ケーブルで接続してください。

●著作権保護された映像・音声に関して。

著作権保護された映像 (Blu-ray や DVD のソースなど) は本機で自主放送することは可能です (録画はできません)。しかし、業務とみなされる自主放送に関しては著作権元の許可が必要です。個人利用であっても業務とみなされる行為 (複数の部屋に配信する業務行為 (簡易宿泊所、民泊施設、店舗、上映会などでの自主放送、集合住宅でのビデオ配信など) は、お客様自身が作者者に申請して許可を得る必要があります。著作権保護のある映像や音声のご利用は、法律の範囲内で、お客様の自己責任でご利用ください。弊社では、個人利用の場合、一般家庭内での視聴のみを想定しております。

●ゲーム映像・音声の取り扱いに関して。

ゲーム映像には著作権保護の無いものがありますが、著作権はゲームの製作・販売元にあります。変換・録画した映像や音声に関しては、各ゲームメーカーの指針に従って取り扱いをお願いいたします。

はじめに

この度は、XHEAD-2 をお買い上げいただき、誠に有り難うございます。

XHEAD-2 は、低価格で手軽に購入できる民生用の「地デジ帯域用変調器」として開発されました。これまで高額で業務用しか販売されていなかった OFDM を、家庭や小さな規模の会社や施設でも利用できるようになりました。より多くの方が、簡単に館内放送を実現できるようになりました。

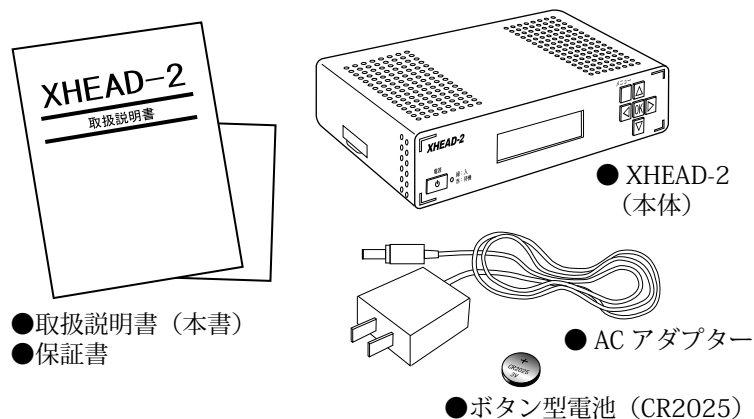
XHEAD-2 は大変便利な装置ですが、RF 信号の特性上、ご利用時に注意しなければならない事項がたくさんあります。XHEAD-2 のご利用の際は、本書をよく読みになり、正しく接続・使用してください。

同梱品一覧

XHEAD-2 の製品には下記の物が同梱されております。

製品をご利用になる前に、ご確認ください。

製品には万全を期しておりますが、万一欠品が確認された場合は、大変お手数ですが、弊社ユーザー・サポート係までご連絡ください。



※同梱のボタン型電池は動作確認用です。電池切れになったら市販品をお買い求めください。

なお、同梱のボタン電池は XHEAD-2 の RTC (時計機能) の動作確認用です。他の用途には使用しないでください。

本製品には接続ケーブルが含まれておりません。「HDMI ケーブル」や、「RF ケーブル」などは、ご利用環境にあわせて、最適な物を家電店などでお買い求めください。なお「HDMI ケーブル」は信号の特性上延ばせないため「2～3m 以下」の長さのケーブルをご用意ください。

XHEAD-2 の機能と利用目的

XHEAD-2 は、HDMI 信号を地デジ信号 (ISDB-T) に変換し、RF 信号で個人宅内、または館内の自主放送を実現する民生用の装置です。

本製品は下記の利用目的に使用します。

- 一般家庭の宅内で映像や音声を視聴したり録画する用途。
- 使用者の責任の範囲内で管理責任者に許可を得た館内 (学校、医療施設、ホテル、アミューズメント施設、集合住宅、公民館など) で自主放送や館内放送を利用する用途。
- 使用者の責任の範囲内で会議室や体育館の様な広い場所で、映像や音声を延長する用途。

自主放送・館内放送とは・・・

自主放送とは、テレビの特定のチャンネル (本製品の場合は地デジ) に任意の映像と音声を送信することです。また、館内放送とは「一つの建物、または一つの施設」内にて自主放送を行うことです。XHEAD-2 は、館内にて自主放送を行う装置です。それ以外の目的では使用しないでください。なお、許可無く館外に自主放送してしまうと、放送局とみなされ法律違反となるためご注意ください。

OFDM とは・・・

「OFDM (オー・エフ・ディー・エム)」とはテレビ放送の帯域を利用し、テレビの特定のチャンネルから映像や音声を送信・視聴する変調システムのことです。XHEAD-2 は日本国内仕様の地デジ (ISDB-T) で利用可能です。これまでの代表的なシステムとして宿泊施設や学校などでの自主放送や館内放送 (放送室→各教室へのビデオの送信など) に利用されてきました。昨今は有線 LAN や無線 LAN などが発達しており、IP 方式の館内放送が増えていますが、OFDM 方式は「既存のアンテナ配線を利用できる」、「映像や音声を安定して送信できる (通信負荷や外部からのノイズに左右されにくい)」、「LAN に比べてシステムがわかりやすい」、「テレビ用の安価な増幅器を使用でき、ケーブルを延長しやすい」などのメリットがあります。ただし、オープンなチャンネルで送信されるため、秘匿性の高い映像や音声の送信には向きません。

免責事項

- 自主放送や館内放送を行った場合の法的責任。
- 既存放送信号 (地デジ信号を含む) との混合を行った際のトラブルや損害。
- 業務利用におけるトラブルや損害。
- 著作権や肖像権に関わるトラブルや損害。
- 映像変換に伴って発生する画質劣化によるトラブルや損害。
- XHEAD-2 を医療施設でご利用の際のトラブルや損害 (「顧客の呼び出し掲示」や「案内」、「予定表示」など直接医療行為にあたらな場所でもご利用ください)。
- XHEAD-2 が故障・不具合などで発生した二次的損害。
- XHEAD-2 を業務でご利用の際に発生した際の損害。
- 本書の記載や指示に従わなかった場合の損害や、誤設定、誤操作、天災による損害。
- XHEAD-2 をアンテナに接続したり、アンテナに接続されている配線に接続した際のトラブルや損害、及び既存放送信号との混合の際に発生したトラブルや損害。

接続と設定の手順

はじめて接続して使用する際は、下記の手順を参考にしてください。

<基本編>

手順1：OFDMの取り扱いで十分注意しなければいけないこと

使用する前に必ずお読みください / 接続・設定の前に・・・13～15/20～21 ページ

手順2：正しく設置しよう

正しい設置方向 / 間違った設置例・・・30 ページ

手順3：どんな映像信号を入力できるの？動作を保証できない信号は？

対応機器と信号・・・22～23 ページ
 入力信号の解像度と動作・・・24～25 ページ

手順4：各部の名称や機能を知っておきましょう

各部名称と機能・・・26～29 ページ

手順5：電池を入れて日時を設定しましょう

ボタン電池を取り付けて日時を設定する・・・31 ページ
 日時設定の手順・・・80～85 ページ

手順6：映像機器を接続しよう

テレビに接続する・・・32～34 ページ
 ビデオレコーダーに接続する・・・35～37 ページ

●本体液晶画面に表示されるメッセージを理解しよう（要確認）

液晶画面に表示されるステータス表示・・・42 ページ
 起動時と終了時のメッセージ・・・48 ページ
 状態を知らせるメッセージ・アイコン・・・48 ページ

●本体液晶画面のメニューを操作しよう（操作を勉強しよう）

ボタン操作と液晶画面のメニューの動作・・・42 ページ

設定を変更してみよう1

（「選択型」の機能の設定を変更する）・・・43 ページ

設定を変更してみよう2

（「文字入力型」の機能の設定を変更する）・・・44～45 ページ

設定を変更してみよう3

（「地域設定」を変更する）・・・46～47 ページ

●RFチャンネル、リモコンのチャンネル、地域設定を設定する（重要）

Channel_Set（RFチャンネル）・・・52 ページ
 Remote_Channel（リモートチャンネル）・・・52 ページ
 AREA_SET（地域設定）・・・53 ページ

接続と設定の手順

<活用編>

●放送にかかわる文字情報を変更しよう（必要な場合のみ）

Service_Name（サービス名）・・・54 ページ
 EPG_REC_MARK（番組日時名）・・・54 ページ
 Content_Set（番組ジャンル）・・・55 ページ
 Event_Name（番組タイトル）・・・56 ページ
 Event_Content（番組内容）・・・56 ページ
 Content_Set2（次番組のジャンル）・・・56 ページ
 Event_Name2（次番組のタイトル）・・・57 ページ
 Event_Content2（次番組の番組情報）・・・57 ページ

●電子番組表の時間割りを変更してみよう（録画に影響：必要な場合のみ）

Event_Time・・・55 ページ
 Event_Time2・・・56 ページ

●設定メニューの様々な機能の意味を知っておきましょう

設定メニューの機能・・・49～71 ページ

●もっと使いやすく！Webサーバーを利用しよう

Webサーバーを使用するには・・・72～75 ページ
 パソコンのWebブラウザを使用する・・・72～73 ページ
 スマートフォンのWebブラウザを使用する・・・74～75 ページ

●RF分配器を使用して複数の受信機を接続しよう

RF分配器を用いた接続と、信号レベルの低下・・・39 ページ

●アナログ音声を入力してみよう

アナログ音声を入力する・・・38 ページ

●送出するRF信号に著作権保護を追加するには

CopyProtection（コピー・プロテクション）著作権保護の設定・・・63 ページ

●RF信号の混合に関して

RF信号の混合における留意点・・・92～94 ページ

<安定・安心を実現するために>

●アース線を接続しよう

アースを接続する・・・95 ページ

●設置した後のメンテナンスをわかりやすくしよう。

（付録）設置記録メモ・・・110～112 ページ

故障かな？と思ったら
 <お問い合わせの前に>

●修理をご依頼の際は修理に依頼方法（114～115 ページ）をご覧ください。

接続・設定の前に

接続や設定は下記の様な利用を前提に設計・販売されております。それ以外の用途での利用は、おやめください。

個人利用の範囲で、専用 RF 配線で接続する場合

個人利用にて趣味、及び法人・団体利用において、宅内でのみ利用する場合や特定の室内でのみ完結する接続で利用する場合（既存放送信号との混合を行わない場合）は、下記の点にご注意ください（14～15 ページも参照してください）。

- 一般家庭の宅内で映像や音声を視聴したり録画する用途の場合。
- 公民館や会議室、体育館の様な広い場所で、映像や音声を延長する用途の場合。

既存放送信号との混合を行わない場合は、限定された部屋や場所で使用されるため、室外への悪影響やトラブルは発生しないと考えられます。

このため、テレビやビデオコーダーの操作・設定・ケーブルの接続などが可能な方であれば、どなたでも接続・設定することができます。

なお、より便利な操作や運用を実現するためにパソコンやネットワーク環境（LAN）が必要になる場合があります。

接続方法は、「32～41 ページ」をご覧ください。

設備や業務で利用する場合

XHEAD-2 は業務用機器ではありませんが、お客様の責任の範囲内で業務でご利用いただくことは可能です。ただし、運用や業務利用時に発生したトラブルや不具合は、お客様ご自身で解決していただくこととなります。また、ご利用の際は設置場所の管理者や管理会社などと、よく話し合い、事前の調査や動作確認を行った後に RF 信号に関する専門の知識を持った担当者が責任をもって接続・保守を行ってください。設備や業務で利用する場合は、アンテナ設備に実績のある設備業者様依頼して導入することをお勧めします。なお、製品の保証期間や修理可能期間が業務用製品より短いことを理解し、製造終了時や故障時の代替案も事前に協議しておきましょう。

既存放送信号との混合は自己責任で

市販の RF 混合器を用いることによって、既存放送信号（地デジ信号や既存の館内放送を含む）と本機の信号を混合することは理論上可能です。しかし、放送信号の混合は、ノイズや誤設定などによるトラブルの影響の及ぶ範囲が広いため、専門家による慎重な作業が必要とされます（21 ページも参照してください）。

弊社では、既存放送信号との混合に関しては、原則サポートいたしません。

既存放送信号との混合を行う場合はお客様の自己責任にてご利用いただくようお願いいたします。既存放送信号との混合に関するお問い合わせは弊社では受け付けておりません。

「14～15 ページ」も必ずお読みください。

接続・設定の前に

業務利用の場合のマナーと注意事項 （事前の調査や打ち合わせ、導入前の設定が必須）

設置の際は周囲や周辺の住民・企業・団体の迷惑にならない様に事前連絡・調査

- ビルやマンションなどの集合住宅、商業施設、病院、アミューズメント施設などの場合は、建物や施設の管理責任者（または所有者）に連絡してください。
- 学校の校内放送や自主放送にご利用の際は、学校の管理責任者や放送設備に関わる担当者に連絡してください。
- 共同アンテナをご利用の地域は自治体やアンテナの管理者（管理会社）に連絡してください。
- ケーブル・テレビの設備が導入されている場所は原則本機を接続できません。やむを得ず本機を設置する場合はケーブルテレビ業者に館内に OFDM 装置を設置しても問題無いか、相談してください。ケーブルテレビ業者が OFDM の設置を禁止している場合は、XHEAD-2 を利用することはできません。
- 複数の放送サービスが混在する環境で使用する場合は、設置する地域や建物の VHF 帯 4～12ch、UHF 帯 13～62ch、ケーブルテレビ帯（C23～32ch）の地デジが放送されていないチャンネルを把握してください。UHF 帯の空きチャンネル（13ch～62ch の物理チャンネル）の空きは通常のテレビやビデオレコーダーでは確認できないことが多いため、総務省のホームページなどで各地域のチャンネルの利用状況を確認してください。ケーブルテレビなどのサービスを利用している場合はケーブルテレビ業者にご相談ください。なお放送が無いチャンネルとは、データ放送なども無いチャンネルのことです。
- 混合器の性能や動作に関しては弊社は分かりません。混合器メーカーにご相談ください。
- テレビやビデオレコーダーの「リモコンの未使用の番号ボタン（1～12）」に一つ以上空きがあることを確認してください（ユーザーが独自で設定変更している場合を除く）。
- 地域事業者識別（ステーション ID）の「14 番」に空きがあることを確認してください（96 ページ参照）。なお、本機を設置予定の施設に、すでに OFDM がある場合は本機と共存できない場合があります。また、既存の OFDM や放送に対してサブチャンネルを追加することはできません。
- 導入前に、設置場所と同じ機材と、できるだけ同じ環境で機材を仮組みし、設定を済ませてください。その際、テレビなどに接続して XHEAD-2 が正常動作することを確認してください。準備せずに XHEAD-2 を持ち込んで、いきなり設置・設定した場合、時間がかかったり、作業が予定通りにいかない場合があり、様々なトラブルの原因となります。必ず事前に現場で調査やテレビの放送状況を確認してください。現場で困っても、弊社がお客様の元に出張することではできません。

作業担当者が設置する場所の管理責任者に伝えたり確認する内容

- 接続や設定（設定変更を含む）の際、一時的に館内のテレビ放送などが映らなくなることや、XHEAD-2 の利用目的を伝えてください。
- 館内放送や自主放送に関する法的な説明や、著作権に関する注意事項、XHEAD-2 の機能・特性について説明してください。
- 故障した際のリスクや、問い合わせ先（弊社ではなく、設置した企業とや担当者への連絡先や実際に作業する人 [保守担当者]）を伝えてください。
- 故障した際の緊急の対応策（代替機を事前に準備しておく）などを話し合ってください。
- エンドユーザーのテレビのチャンネルやリモコンの番号ボタンに割り当てられるチャンネル情報に変更（追加される場合がある）ことを伝えてください。
- エンドユーザーのすべての受信機でチャンネルのスキンのやり直しが必要であることを伝えてください。
- 自主放送は館内のエンドユーザー（テレビやビデオレコーダーを持った人）であれば誰でも視聴できるものであることを伝えてください。
- 自主放送する局番を割り当てるリモコンの番号ボタンや地域事業者識別の番号（ステーション ID）を話し合ってください。
- XHEAD-2 で使用（設定）する、事業者名、局名、放送名を話し合ってください。（標準設定でも良いですが、エンドユーザーが分かりやすいものが理想です）
- XHEAD-2 の設定内容や、設置場所接続経路などを簡単な流れ図（ブロック図）などを記録した書類を作成してください（110～112 ページは参考です）。設置場所の管理者に渡し、それらを記録として大切に保管するように伝えてください。作業担当者が代わった場合や、メンテナンス、故障時の再設定の際に役立ちます。

対応機器と信号

XHEAD-2 に接続できる映像・音声機器や信号は下記の様になります。

想定する入力側の対応機器と信号

XHEAD-2 には下記の機器や信号を入力し RF 信号に変換することができます。その他、信号などの電氣的仕様は、96 ページの仕様表をご確認ください。

- HDMI 出力端子を持つ家庭用の AV 機器や家庭用ゲーム機で 480p, 720p, 1080i, 1080p の画面解像度 (各 59.94Hz) を出力可能な機器 (ビデオレコーダー、ビデオカメラ、DVD/Blu-ray プレイヤー、家庭用ゲーム機、パソコン)。
音声はリニア PCM (48kHz [16bit]) 2ch [ステレオ] 対応。

※ HDMI 端子を持つ機器でも相性や信号仕様の違いによって対応できない場合があります。
※ 1080p は 30p に自動変換されるか、本機の設定により 1080i に変換して送出されます。

- ステレオのアナログ音声 (家庭用のビデオレコーダー、ビデオカメラ、DVD/Blu-ray プレイヤー、ゲーム機、パソコン、CD プレイヤーなどから出力される RCA 端子またはステレオミニピン端子のライン信号)。

※ ヘッドフォン用の音声信号には対応できません。また、音声のみの送出はできません。

想定する出力側の対応機器と信号

XHEAD-2 の出力端子は下記の機器との接続を想定しています。

その他、信号などの電氣的仕様は、96 ページの仕様表をご確認ください。

< XHEAD-2 の「RF 出力端子」に接続できる機器 >

- 日本国内向けの地デジ (ISDB-T) 対応の受信機 (家庭用テレビやビデオレコーダー)。
- 地デジ対応のブースターや分配器。

※ 地デジ対応の機器でも相性や配線設備の問題によって映らない場合があります。

※ XHEAD-2 ではビットレートなどの画質は調整できますが、地デジの画質に依存します。また受信側のテレビやビデオレコーダーの性能や設定、映像ソースの品質も画質に影響しますので、その旨ご了承ください。

※ ビットレートを上げて高画質にすると画面のガタツキ (滑らかな動きにならない) が増加したり、映像や音声途切れるなどの症状が発生します。

< XHEAD-2 の「HDMI 出力端子 (パススルー)」に接続できる機器 >

- HDMI 入力端子を持つ家庭用テレビや、HDMI 入力端子を持つパソコン用ディスプレイ (本機の入力解像度に対応した機種)。

対応機器と信号

未対応、または動作保証できない機器や信号

XHEAD-2 は、下記の機器や信号には未対応、または動作を保証できません。これらの機器との接続に関するお問い合わせを頂きましても対応が難しいため、やむをえずご利用の際は、お客様にて動作を確認された上で、お客様の責任においてご利用ください。弊社では接続をお勧めしていません。なお、HDMI 端子を持つ機器でも対応できない機器や組み合わせもありますのでご了承ください。

- HDMI 出力端子を持たない機器や DVI 端子の機器。
- HDMI 出力端子を持っているが信号の規格が HDMI ではない機器 (VESA 方式 [DVI 方式] の信号や、独自仕様の信号の機器など)。

例：業務用機器

- ・アーケード・ゲーム機
- ・パチンコ/スロット機器
- ・開発基板
- ・特殊な信号を出力する監視カメラや顕微鏡
- ・医療用機器 (エコー装置など)
- ・なんらかの製造装置や検査装置

- DisplayPort などから変換アダプターなどを使用して HDMI に変換した信号。
- USB 端子経由の映像出力 (変換アダプターや変換ケーブルを使用した場合)。
- 「DVI → HDMI 変換コネクタ」や「DVI → HDMI 変換ケーブル」を使用した場合。
- HDMI の分配器 (スプリッター)、切換器 (セレクター)、延長器を使用した場合。
- 未対応の音声フォーマットや周波数 (bit 数を含む) を含んだ HDMI 信号。
- 映像信号が PAL 方式や SECAM 方式の機器の HDMI 信号。
- Microsoft 社 Xbox シリーズの HDMI 信号で解像度が 480p の信号。
- Nintendo 社クラシックミニファミコン/スーパーファミコンの HDMI 信号。
- ビデオテープレコーダーなどのアナログ映像信号を、何らかの装置で HDMI に変換した信号。
- Apple 社 MAC の HDMI 信号 (DisplayPort → HDMI 変換含む)、及び AppleTV。
- 音声コーデックの無い HDMI 信号。
- 映像のリフレッシュレートが 59.94Hz に対応していない HDMI 信号や機器

※ 本機の構造上、特殊な信号に対応するカスタム改造などは行えません。

ご利用になれない場所、または運用が困難な環境

本機をご利用の際、下記の環境 (施設や設備) ではご利用頂けないか、運用中に外的な原因による、不具合や物理的な故障、トラブルが発生する場合があります。下記の様な環境ではご利用にならないか、導入前に十分な動作検証を行い、お客様の責任においてご利用ください。

- すでにリモコンのチャンネル・ボタン (1 ~ 12) をすべて利用済みの場合。
- 何らかの理由で、地域事業者識別の番号 Station Id「14」が使えない場合。
- アナログ放送の信号しか利用 (送信) できない設備・施設・受信機の環境。
- 日本以外の地域 (地域設定の無い地域も含む)。
- 映像や音声の情報の機密性を要求される設備や環境。
- 強い電波や電磁波 (レーダーやマイクの無線放送など) が日常的に利用される場所 (駅の構内、飛行場、防衛施設、電波塔、携帯電話基地局など)。
- 電源の瞬断や停電、雷の被害を受けやすい場所 (鉄道や道路交通システムなど)。
- 公道を挟んでの運用 (自治体への申請などが必要)。
- 医療・飛行機・車載・軍事装置など生命に関わる場所や乗り物。
- 電気設備の業者や専門家によって接続が困難と判断された施設や場所。

入力信号の解像度と動作

本機へは、HDMI 映像を入力可能ですが、対応解像度やそれらの利用方法には制限があります。

<地デジの画面解像度>

地デジの標準解像度は 1080i(59.94Hz) であり、1920x1080 ピクセルのインターレース映像が該当しますが、480p、720p、1080p のプログレッシブ映像も放送規格にはあるため、利用可能です（1080p[30p] の信号は、受信を想定していない受信機があります）。

本機では、変換プロセッサの性能上、動画の利用が多い場合は、720p や 1080p などプログレッシブ解像度での利用をお勧めしています。解像度ごとに推奨される用途や、画質に関しては下記の表を参考にしてください。

<映像の入力解像度と RF 出力の解像度>

HDMI 入力の映像は下表の様に变换して出力されます。

入力解像度	リフレッシュレート	入力ピクセル数	RF 送出解像度 (ISDB-T)	主な利用用途 (推奨)	静止画面画質
1920x1080p (60p) プログレッシブ	59.94Hz	1920x1080p	1080p (30p 変換)	静止画向き	高
			1080i (インターレース変換)	静止画と動画向き	高
1920x1080i (60i) インターレース	59.94Hz	1920x1080i	1080i	動画向き	高
1280x720p (60p) プログレッシブ	59.94Hz	1280x720p	720p	静止画と動画向き	中
720x480p (60p) プログレッシブ	59.94Hz	720x480p	480p	動画向き	低

※ 480i での入力と送出には対応しておりません。

※映像のリフレッシュレートが「59.94Hz」ではなく「60Hz」の映像を入力すると、正しく変換できません。「映像の乱れ (画面の点滅)」、「著しいフレーム飛び」、「激しいがたつき」、「実用に耐えない画質の低下」が発生します。地デジ放送の基準リフレッシュレートは「59.94Hz」であるため、同じリフレッシュレートの映像を入力してください。パソコンやゲーム機などの映像を入力する際は「60Hz」のみの機器があるためご注意ください。本機は「60Hz」の入力に対応できません（「24Hz」も対応できません）。

※映像の MPEG-2 エンコードは VBR 方式（可変ビットレート）となります。

※マイクロソフト社ゲーム機 Xbox シリーズの HDMI 映像「480p」解像度は対応できません。

※ DVI 端子の信号や、端子形状が HDMI でも DVI 方式の信号は対応しておりません。XHEAD-2 が使用している HDMI 信号の AVI インフォフレームという情報が無いため対応できません。

入力信号の解像度と動作

本機の HDMI 入力と RF 出力の信号の変換・流れは下図のようになります。



※①または②のとき、RF 出力は解像度やフレームレートが変換されますが、HDMI OUT（スルー出力）の映像は変換されません。パススルーとなります。

※①と②の設定は本機の設定で選択可能です。

※①④⑤は、ビデオレコーダーなどでの録画を前提とした用途の場合、これらの解像度は TS モードでの録画に対応できない場合があります。

※①の解像度はテレビの機種によっては視聴できません。

<音声の解像度>

音声は、HDMI から入力する際、リニア PCM のデジタル音声フォーマットに対応しています。

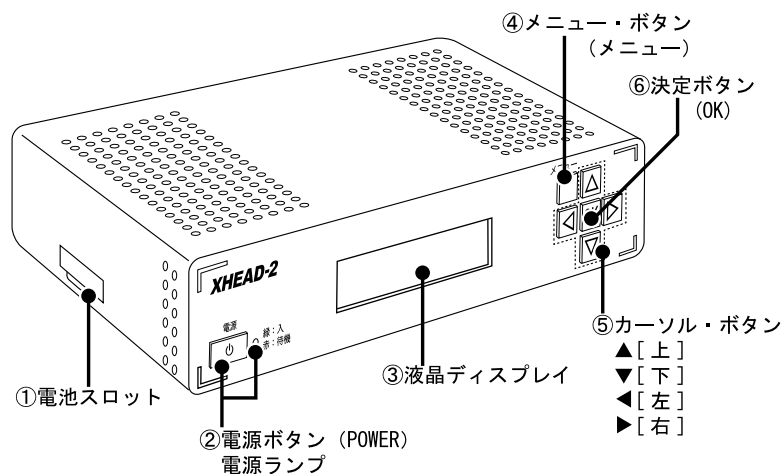
音声入力フォーマット	入力周波数 (bit 数)	RF 出力 (ISDB-T)
アナログ / HDMI (リニア PCM [2ch])	48kHz(16bit)	MPEG-2 AAC ステレオ 48kHz(16bit)

※サラウンド音声やモノラル音声のフォーマットには対応しておりません。

※デジタル音声信号はリニア PCM で入力してください。

各部名称と機能

XHEAD-2 の各部名称と機能は、下記のようになります。それぞれの名称や機能は 26～29 ページにてご確認ください。



①電池スロット

XHEAD-2 には時計機能 (RTC) を内蔵しているため、電池が必要です。電池スロットには正しい極性で「ボタン型電池 (CR2025)」を挿入してください。電池スロットの正しい取り扱いは 31 ページを参照してご確認ください。

※ XHEAD-2 が通電時は電池を節約できます。

※ 同梱のボタン電池は動作確認用です。電池切れの際は市販品をお買い求めください。

②電源ボタン、電源ランプ (POWER)

電源ボタンは、XHEAD-2 の電源を「入 (オン)」、「待機 (スタンバイ)」を切り換えるボタンです。XHEAD-2 が通電状態 (AC アダプターが接続され、動作可能な状態) の時に使用できます。

電源ランプは「入 (オン)」、「待機 (スタンバイ)」を確認するランプです。

赤色 / オレンジ色：待機 (スタンバイ) の意味です。

緑色：入 (オン) の意味です。

各部名称と機能

③液晶ディスプレイ

液晶ディスプレイは、XHEAD-2 の状態やメニューなどを表示する部分です。XHEAD-2 を一定期間操作を行わないと、液晶ディスプレイのバックライトは自動で消えるように設定されています (工場出荷時設定)。

④メニュー・ボタン (メニュー)

ボタンを押すことで、メニューから各種機能を操作できるようにしたり、操作を終了 (またはキャンセルする) ボタンです。

XHEAD-2 の設定を変更したいときは、このボタンを押すことで液晶ディスプレイのメニューから各種設定を操作できるようになります。

※ Web サーバーから設定を行っているときは、ボタンには触れないでください。

⑤カーソル・ボタン (▲[上]、▼[下]、◀[左]、▶[右])

ボタンを押すことで、本体液晶に表示されたメニューの各種機能を操作するボタンです。

XHEAD-2 の設定を変更したいときは、本体の液晶ディスプレイを見ながらこれらのボタンでメニューを操作します。

▲[上]: 本体液晶のメニュー操作時にカーソルを「上」方向に操作します。

メニューを操作していないときは、日時を表示可能。

▼[下]: 本体液晶のメニュー操作時にカーソルを「下」方向に操作します。

メニューを操作していないときは、プロバイダーネームとサービスネームを表示可能。

◀[左]: 本体液晶のメニュー操作時にカーソルを「左」方向に操作します。

メニューを操作していないときは、映像の入力解像度を表示可能。

▶[右]: 本体液晶のメニュー操作時にカーソルを「右」方向に操作します。

メニューを操作していないときは、本機の IP アドレスを表示可能。

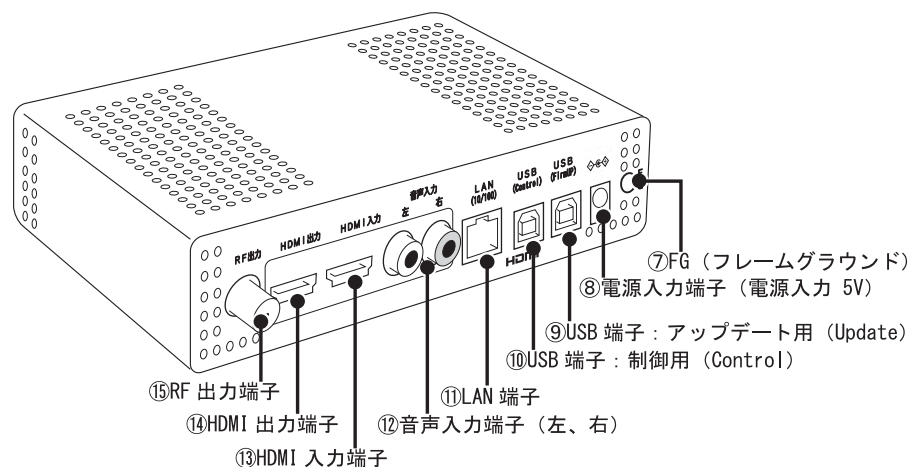
※ Web サーバーから設定を行っているときは、ボタンには触れないでください。

⑥決定ボタン (OK)

本体液晶のメニューを表示したり、メニュー操作・設定の際に変更した内容を「決定」するボタンです。または、下層に別のメニューがある場合は下層のメニューに移動することができます。

※ Web サーバーから設定を行っているときは、ボタンには触れないでください。

各部名称と機能



⑦フレーム・グラウンド (FG)

GND に接続 (接地) する端子です。市販のアース線をご購入いただき、室内のアースに接続してください。動作をより安定させたり、静電気、雷対策などに効果があります。

⑧電源入力端子 (電源入力 5V)

XHEAD-2 に電源を入力する端子です。同梱の AC アダプターを接続する端子です。

※ AC アダプターは、必ず本製品に同梱されているものをご利用ください。他製品の AC アダプターは使用しないでください。

⑨ USB 端子 : アップデート用 (USB [Update])

XHEAD-2 の制御プログラム (ファームウェア) のアップデートを行うときに使用します。アップデートにはパソコンが必要です。USB2.0 に対応しています。ファームウェアのアップデート方法に関しては、弊社の Web ページをご覧ください。

※この端子には、ファームウェア・アップデートを行うときだけケーブルを接続してください。

⑩ USB 端子 : コントロール用 (USB [Control])

機能拡張用の USB 端子です。現在は使用しません。弊社から指示があるまで、この端子には何も接続しないでください。

各部名称と機能

⑪ LAN 端子 (LAN)

XHEAD-2 に内蔵の Web サーバーをパソコンなどから操作・設定を行うときに使用します。家庭や会社のルーターやネットワークに接続された、スイッチング・ハブなどに有線で接続できます。

また、インターネット回線を通じて、XHEAD-2 内蔵の時計機能 (RTC) を NTP サーバーに同期する事が可能です (日時の補正や設定を自動化できます)。対応可能なネットワーク環境に関しては 40 ~ 41 ページを参照してください。NTP サーバーの使用に関しては 80 ページと 86 ~ 89 ページを参照してください。

※ LAN 端子は「Ethernet 端子 (イーサネット)」と記載されることがあります。
 ※ 100BASE-T に対応可能です。接続に使用する LAN ケーブルは CAT5 以上をご利用ください。
 ※ NTP サーバーを利用する前に、ボタン電池を挿入してください。

⑫音声入力端子 (音声入力 [左 (白)] [右 (赤)])

XHEAD-2 にアナログ音声 (ステレオ音声対応) を入力するための端子です。HDMI 信号に音声が含まれない場合や、HDMI とは別のアナログ音声を入力したいときに使用します。

⑬ HDMI 入力端子 (HDMI 入力)

XHEAD-2 に HDMI 信号を入力する端子です。HDMI1.4、 HDCP1.4 に対応しています。この端子から入力された信号を地デジ信号 (RF 信号) に変換できます。入力可能な対応解像度に関しては 24 ~ 25 ページを参照してください。

⑭ HDMI 出力端子 (HDMI 出力)

XHEAD-2 に入力された HDMI 信号をスルー出力する端子です。HDMI1.4、 HDCP1.4 に対応しています。
 ※アナログで入力した音声を出力することはできません。

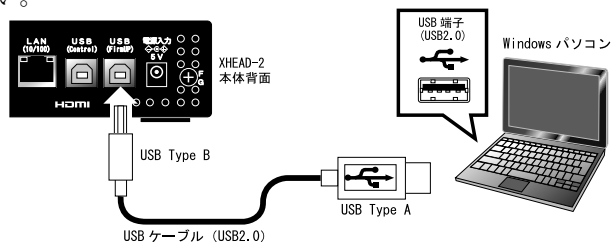
⑮ RF 出力端子 (RF 出力)

XHEAD-2 で変換した映像や音声を地デジ信号 (ISDB-T 方式の RF 信号) で出力する端子です。この端子から出力された信号は、市販の「RF ケーブル」を使用して、テレビやビデオレコーダーの「RF 入力端子 (地デジ用アンテナ入力)」に接続することができます。

USBによるファームウェア・アップデート

<ファームウェア・アップデートは自己責任です>

XHEAD-2はファームウェア・アップデート専用のUSB端子を備えています。ファームウェアは弊社Webページにて、機能アップや改良が加えられたときに公開します。弊社Webページをご確認ください。ファームウェアは、お客様のUSB端子を持つパソコンでアップデートすることが可能です。ただし、お客様がファームウェアをアップデートする際に、発生したトラブルや故障（作業に失敗して動作しなくなってしまうなど）は修理費用・送料はお客様ご負担となりますのでご注意ください。なお、弊社にてファームウェア・アップデートをご依頼いただく際は、送料と作業費用が発生します。アップデートの更新情報や手順は弊社Webページをご覧ください。



※ USB ケーブルは別途ご用意ください。「USB2.0」対応のUSBケーブルが必要です。
 ※ LAN ケーブルや Web サーバーによるファームウェア・アップデートには現在対応しておりません。
 ※ ファームウェアをアップデートすると、これまでお客様が設定されたすべての設定内容が初期化されます。再設定が必要となりますのでご了承ください。ファームウェアをアップデートする前に、必ず 110～112 ページの様な記録を取り、再設定ができるよう心がけてください。

正しい設置方向

本体を設置するときは、下図の様に地面に対して水平に設置してください。それ以外の設置方法は、通風を妨げる恐れがあるためお勧めできません。また、本機の上に物を置いたり、柵の中など通風の無い場所に設置しないでください。本機は、たいへん高温になる製品であるため、ご了解ください。

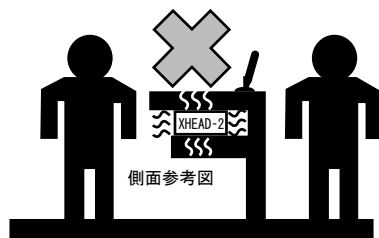
XHEAD-2 本体



本機下部のゴム足は、吸着性が高いものを使用しています。このため、塗装や印刷のされている家具や機器の上に本機を直接設置すると、それらの塗装や印刷が、はがれるなど破損する恐れがあります。また長期間の設置で材質が張り付くなど材質移行の発生が懸念されます。設置場所に注意し、お客様の機器や家具が傷まないよう、板や厚紙などを敷いて設置してください。

間違った設置例

本製品は大変発熱が大きい製品であるため、本体内部の温度が一定以上になると、保護機能が働き、RF 信号の出力を強制的に停止します（映像が表示されなくなります）。下図の様に狭い柵や机の隙間に詰め込んだり、機器と機器の隙間に押し込むようなことは、絶対におやめください。



例：ホテルのフロントの受付机の中など。

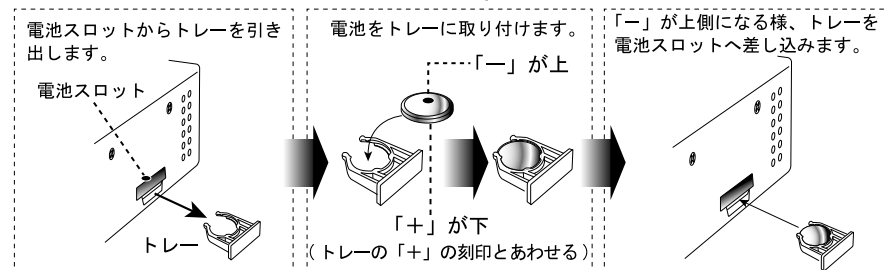
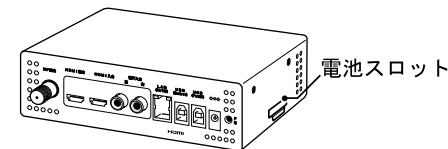
ボタン電池を取り付けて日時を設定する

重要

使用前に必ずボタン電池を入れて
日時を設定してください

重要

XHEAD-2のご利用において、日時設定は大変重要な役割があります。XHEAD-2には時計機能（RTC）を内蔵していますが、動作・維持させるには電池が必要です（XHEAD-2が通電時は電源があるため電池は利用されません）。このため、XHEAD-2をご利用になる前に、まずは「ボタン型電池（CR2025）」をXHEAD-2の電池スロットへ正しく挿入してください。挿入方法は下図の解説を参考にしてください。



※同梱のボタン型電池は、動作確認用です。電池切れの場合は市販品をお買い求めください。

3種類の日時設定の方法

日時設定を省略してXHEAD-2をご利用頂くことはできません。自主放送も含め、ISDB-Tでは放送情報に時刻を含めることが必須となっています。

日時は、録画時間のための情報に利用されたり、電子番組表表示の際に利用されます。このため、日時の設定が間違っていたり、差異（ズレ）がある場合や、設定されていない場合は、どのようなトラブルが発生するか想定できません。XHEAD-2の日時設定の方法には主に3種類があります。お客様のご利用環境に最適な方法で、必ず日時設定を行ってください。

- 本体のボタン操作で、メニューから手動設定する・・・81ページ
- LANを利用し、NTPサーバーで自動設定する・・・80ページ
- WEBブラウザからパソコンや携帯端末の日時を転送する・・・82～85ページ

※日時設定は、規定により実際の時刻と自主放送との差異が「±500ミリ秒（0.5秒）」以下でなければいけません。本機は放送する側の装置であるため、正確な日時設定を必要とします。弊社ではNTPサーバーへの接続をお勧めしています。

接続概要

XHEAD-2 を独立した RF ケーブル（既存の放送サービスと共存しない配線）で接続する場合の接続と初期設定を解説します。

なお、接続の前に「13～15 ページ」の重要な注意事項をご確認ください。

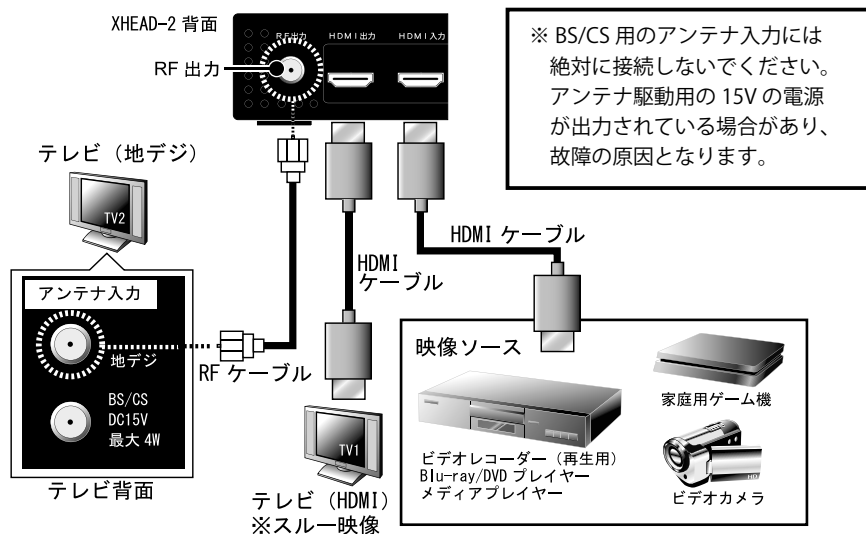
機器やケーブルを接続するときは、全ての機器の電源を「切（オフ）」または、「待機（スタンバイ）」の状態で行ってください。静電気にもご注意ください。

テレビに接続する

手順 1: 接続する前に必ず「ボタン電池の取り付け」と「日時設定」を済ませてください（日時設定は大変重要な設定であるため、必ず最初に設定が必要です）。

※「ボタン電池」の取付方法は 31 ページ、「日時設定の手順」は 80～85 ページを参照してください。

手順 2: 下図を参考にして、XHEAD-2 をテレビの「RF 入力（アンテナ入力：地デジ）」に接続します。



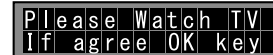
※ TV1 と TV2 は同じテレビを使用し、入力チャンネルを切り替えて使用しても構いません。
 ※複数の分配やケーブル延長によって RF 信号のレベルが低下した場合は、市販の RF ブースターを使用するか、XHEAD-2 のメニュー設定から「Output_Level (53 ページ)」を調整してください。
 ※ご利用の機器や配線上の問題により、正しく表示できない場合があります。
 ※ RF 配線の分配や延長に伴って発生した不具合は、ケーブルや分配器の品質や仕様に依存する場合がありますため、弊社では対応いたしかねます。
 ※接続に使用するケーブルは、別途ご注意ください（HDMI ケーブルは 2～3m 以下を推奨）。

手順 3: XHEAD-2 に AC アダプターを接続します。AC アダプターは AC コンセント（100V）に接続します（AC アダプターの接続方法は 38 ページ参照）。

<次ページへ続く>

接続概要

手順 4: XHEAD-2 とテレビの電源ボタンを押して、電源を「オン（入）」にします。（本機を購入後、初めて電源を「入（オン）」する場合は本体液晶に下図のメッセージが表示されますが、テレビ画面はまだ映らないため、「OK」ボタンを押しておきます。）



手順 5: XHEAD-2 のメニューを操作して（本体前面のボタンと液晶または Web サーバーから）「地域設定 (AREA SET)」と「RF チャンネル (Channel Set)」、リモート・チャンネル (Remote Channel: 地デジ・チャンネル) を設定します。プロバイダーネームなどは必要に応じて設定してください。

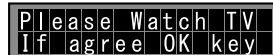
手順 6: XHEAD-2 の設定を「アップロード (Upload)」します（アップロード方法は「45 ページ」を参考にします）

手順 7: テレビ側の操作を行い、地デジ放送の「チャンネルスキャン（「初期スキャン（UHF 帯のスキャン）」、または「全てのチャンネルをスキャン」など）を行います。

※チャンネルスキャンの操作方法は、機種ごとに異なるためテレビの取扱説明書をご覧ください。
 例: 「地域設定 (AREA SET)」が「東京 (Tokyo)」の場合は受信機側（テレビやビデオレコーダー）の地域設定を「関東-東京」に設定した後、チャンネル・スキャンしてください。
 ※信号が途切れがちになるため、映像が表示されるまで、画面が何度も点滅したり、受信エラー (E202 など) のメッセージが表示されることがありますが、しばらくお待ちください。

手順 8: 受信したチャンネル（地デジ）をテレビのリモコンのチャンネルボタンなどで選局しご利用ください。映像（映像ソース）が入力されていないときは、画面に下図の様な「XHEAD-2 使用上のご注意」、または「カラーパターン」もしくは「真っ黒な画面」が表示されます（「XHEAD-2 使用上のご注意」が表示されている場合は、テレビ画面のご注意を読んだ後「OK」ボタンを押します）。

※テレビのチャンネル・スキャンを行っても該当チャンネルが見つからないときは「接続」、「設定」XHEAD-2 の電源が「入（オン）」になっているか？などご確認ください。



本機を初めて使用する場合や設定を初期化した場合に本体の液晶に表示されるメッセージ。

XHEAD-2 使用上のご注意

本機は使い方を誤ると公共の電波やテレビシステム、著作権に関わる重大な問題を発生させる恐れがあります。以下の項目をご確認いただき、同意の上でご使用ください。

- 取扱説明書をお読みいただき、正しい設定でお使い下さい。
- アンテナを接続し、電波を送出してはいけません。
- 著作権に関係がないか事前に確認した映像をご使用ください。
- HDCP 保護のある HDMI 映像は録画できません。

OK ボタンで同意し、次に進みます。

※ XHEAD-2 を工場出荷時の設定に初期化した場合もこのメッセージが表示されます。

以前に本機を起動したことがあり、左記の「ご注意」を了解している場合で、HDMI 信号未入力時の場合は以下のカラーパターンが表示されます。

カラーパターン



<次ページへ続く>

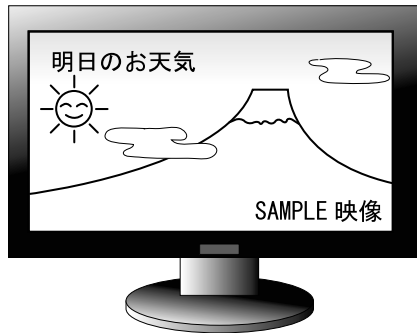
接続概要

手順 9：「映像ソース（入力）」側の機器の電源を「入（オン）」にして、XHEAD-2 に映像を入力してください。

お客様が利用したい映像や音声、番組表がテレビに正しく表示されていれば、作業は完了です。

<送出映像を確認する>

お客様が入力した映像が映っていることを確認してください。

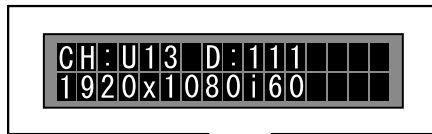


<番組表を確認する>

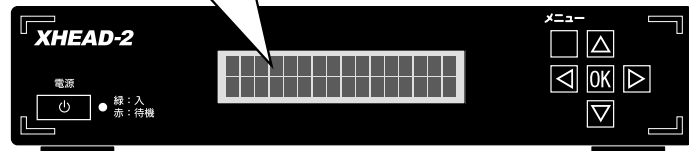
ビデオレコーダーの「番組表ボタン」を押してチャンネルや番組情報が表示されていることを確認してください。



<本体の液晶ディスプレイを確認する>



念のため本体の液晶ディスプレイも確認しましょう。入力があれば入力信号の解像度が表示されます。



※入力する映像信号の解像度確認は、本体前面の液晶ディスプレイをご確認ください（表示方法は 42 ページ参照）。メニュー表示以外の時は、入力信号の解像度などを確認できます。上記は入力解像度が 1080i のときの例です。

※入力する映像信号の解像度が「0 x 0」と表示されている場合は映像が入力されていないことを示します。この様な時は、「HDMI ケーブルが正しく接続されているか？」また、「HDMI 信号が正しく入力されているか？」などご確認ください。

ビデオレコーダーと接続する場合は、次ページ（35 ページ）を参照してください。

接続概要

ビデオレコーダーに接続する

下図を参考にして、XHEAD-2 をビデオレコーダーに接続します。

手順 1: 接続する前に必ず「ボタン電池」、「日時設定」を行ってください。（日時設定は大変重要な設定であるため、必ず最初に設定してください）

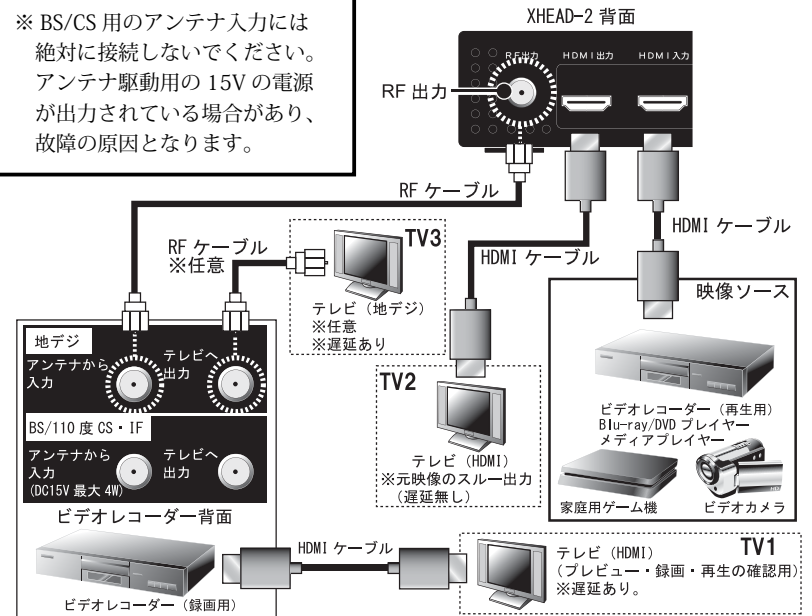
※「ボタン電池を取り付けて日時を設定する（31 ページ）」、「日時設定の手順（80～85 ページ）」を参照してください。

手順 2: 下図を参考にして、XHEAD-2 をビデオレコーダーの「RF 入力（アンテナ入力：地デジ）」に接続します（表記は様々ですが「アンテナから入力」に接続）。

手順 3: テレビにも RF ケーブルで接続したいときは、ビデオレコーダーの RF スルー（任意）出力（表記は様々ですが「テレビへ出力」に接続）

※テレビに RF ケーブルで接続するときはテレビのチャンネル・スキャン作業も必要になります。

※ BS/CS 用のアンテナ入力には絶対に接続しないでください。アンテナ駆動用の 15V の電源が出力されている場合があり、故障の原因となります。



※ TV1、TV2、TV3 は、1 台のテレビにまとめて接続し、テレビの入力（チャンネル）を切替えて使用しても結構です。また、お客様が必要としないテレビとの接続は不要ですが、動作確認のためにも TV1（スルー）と TV2（プレビュー／録画確認／再生）の接続を推奨します。

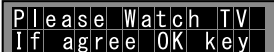
※複数の分配やケーブル延長によって信号のレベルが低下した場合は、市販の RF ブースターを使用するか、XHEAD-2 のメニュー設定から「Output_Level（53 ページ）」を調整してください。※ご利用の機器や配線上の問題により、正しく表示できない場合があります。

※接続に使用するケーブルは、別途ご用意ください（HDMI ケーブルは 2～3m 以下を推奨）。

<次ページへ続く>

接続概要

- 手順 4: XHEAD-2 に AC アダプターを接続します。AC アダプターは AC コンセント (100V) に接続します (AC アダプターの接続方法は 38 ページ参照)。
- 手順 5: XHEAD-2 とテレビの電源ボタンを押して、電源を「オン (入)」にします。
(本機を購入後、初めて電源を「入 (オン)」する場合は本体液晶に下図のメッセージが表示されますが、テレビ画面はまだ映らないため、「OK」ボタンを押しておきます。)



- 手順 6: XHEAD-2 のメニュー操作 (本体前面のボタンと液晶または Web サーバー) で「地域設定 (AREA SET)」と「RF チャンネル (Channel Set)」、「リモート・チャンネル (Remote Channel: 地デジチャンネル)」を任意に設定します。
プロバイダーネームなどは必要に応じて設定してください。
- 手順 7: XHEAD-2 の設定を「アップロード (Upload)」します (アップロード方法は「45 ページ」を参考にします)。
- 手順 8: ビデオレコーダーのリモコン操作で「地デジのチャンネル・スキャン」を行います (チャンネル・スキャンなどの設定方法は、機種ごとに異なるためビデオレコーダーの取扱説明書をご覧ください)。

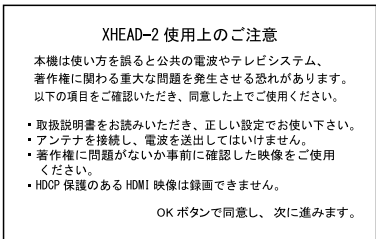
例: 「地域設定 (AREA SET)」が「東京 (Tokyo)」の場合は、受信機側 (ビデオレコーダー) の地域設定を「関東-東京」に設定した後、「全チャンネルをチャンネル・スキャン (初期スキャン)」してください。
※ RF チャンネル (Channel Set) の初期設定は「13ch (UHF)」です。
※ テレビ (TV3) に RF ケーブルで接続を行っている場合は、テレビ側の「地デジのチャンネル・スキャン」も必要となります。
※ テレビやビデオレコーダーのチャンネルスキャンを行ってもチャンネルが見つからないときは、「接続」、「設定」、XHEAD-2 の電源が「入 (オン)」になっているか? などご確認ください。

- 手順 9: 受信したチャンネル (地デジ) をビデオレコーダーのリモコンのチャンネルボタンなどで選局し、ご利用ください。映像 (映像ソース) が入力されていないときは、画面に下図のような「XHEAD-2 使用上のご注意」または、「カラーパターン」、もしくは「真っ黒な画面」が表示されます (「XHEAD-2 使用上のご注意」が表示されている場合は、テレビ画面のご注意を読んだ後「OK」ボタンを押します)。

※ 信号が途切れがちになるため映像が表示されるまで、画面が何度も点滅したり、受信エラー (E202 など) のメッセージが表示されることがありますが、しばらくお待ちください。



本機を初めて使用する場合や設定を初期化した場合に本体の液晶に表示されるメッセージ。



※ XHEAD-2 を工場出荷時の設定に初期化した場合もこのメッセージが表示されます。

以前に本機を起動したことがあり、左記の「ご注意」を了解している場合で、起動時に HDMI 信号未入力時の場合は以下のカラーパターンが表示されます。

カラーパターン



<次ページへ続く>

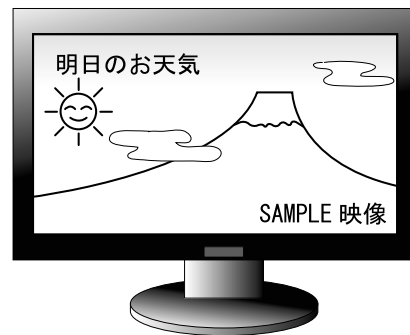
接続概要

- 手順 10: 「映像ソース (入力)」側の機器の電源を「入 (オン)」にして、XHEAD-2 に映像を入力してください。利用したい映像や音声、番組表がテレビに正しく表示されていれば、作業は完了です。

※ 映像が表示されるまで、映像が何度も点滅したり、受信エラーのメッセージ (E202 など) が表示されることがありますが、映像が表示されるまでしばらくお待ちください。

<送出映像を確認する>

お客様が入力した映像が映っていることを確認してください。

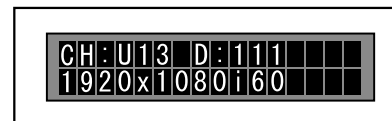


<番組表を確認する>

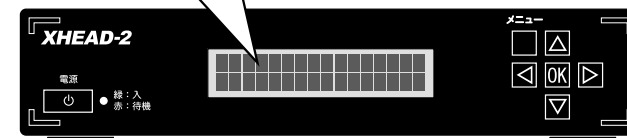
ビデオレコーダーの「番組表ボタン」を押してチャンネルや番組情報が表示されていることを確認してください。



<本体の液晶ディスプレイを確認する>



念のため本体の液晶ディスプレイも確認しましょう。入力があれば入力信号の解像度が表示されます。



※ 入力する映像信号の解像度確認は、本体前面の液晶ディスプレイをご確認ください (表示方法は 42 ページ参照)。メニュー表示以外の時は、入力信号の解像度を確認できます。上記は入力解像度が 1080i の時の例です。

※ 入力する映像信号の解像度が「0 x 0」と表示されている場合は映像が入力されていないことを示します。この様な時は HDMI 信号が正しく入力されているか、確認してください。

- 手順 11: 「TV1」の画面を見ながらビデオレコーダーのリモコンの「録画」ボタンなどを操作して、録画を行ってください。正常に録画 (及び録画した映像の再生) がされていれば、正しく動作していると判断できます。

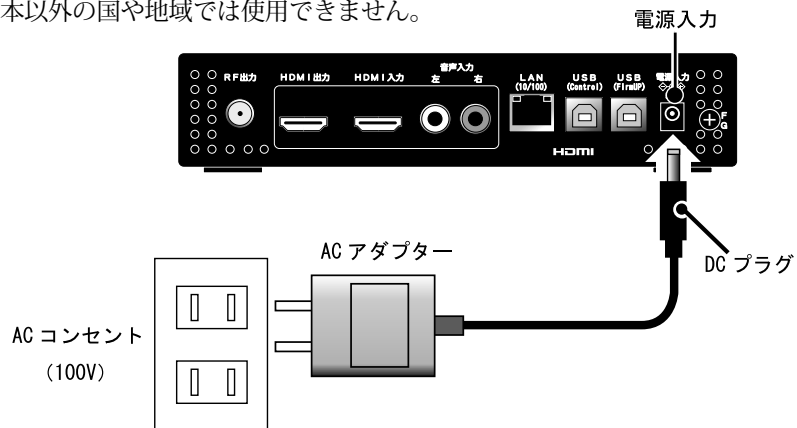
※ 著作権保護のある映像はビデオレコーダーで録画できません。または録画が自動停止します。

接続概要

AC アダプターを接続する

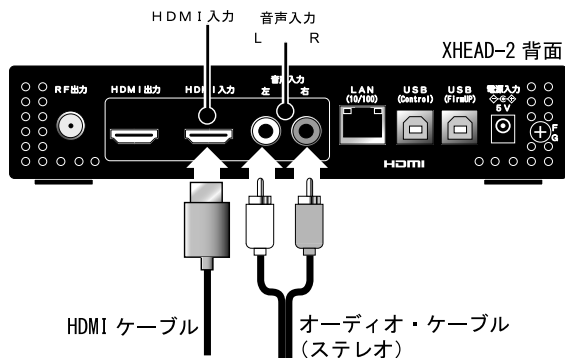
すべての接続が完了した後に、AC アダプターを接続してください。

同梱の AC アダプターは「AC 100V 専用（日本国内専用）」となっておりますので、日本以外の国や地域では使用できません。



アナログ音声を入力する際の接続

入力している HDMI 信号に音声が含まれないときや、別の音声を入力したいときは、XHEAD-2 の「音声入力端子」からアナログ音声を入力することができます。



接続が完了したら、XHEAD-2 のメニュー設定「Option_Menu」→「Audio_Input」の設定を「ANALOG（アナログ）」に変更してください。

<ご注意>

ヘッドフォン端子用（またはイヤフォン端子用）の音声信号は、インピーダンスが異なるため、音量を上げて無音、または極めて小さな音量となり、音声が出されません。必ず本製品の仕様に沿った音声信号（RCA 端子のライン信号）を入力してください。

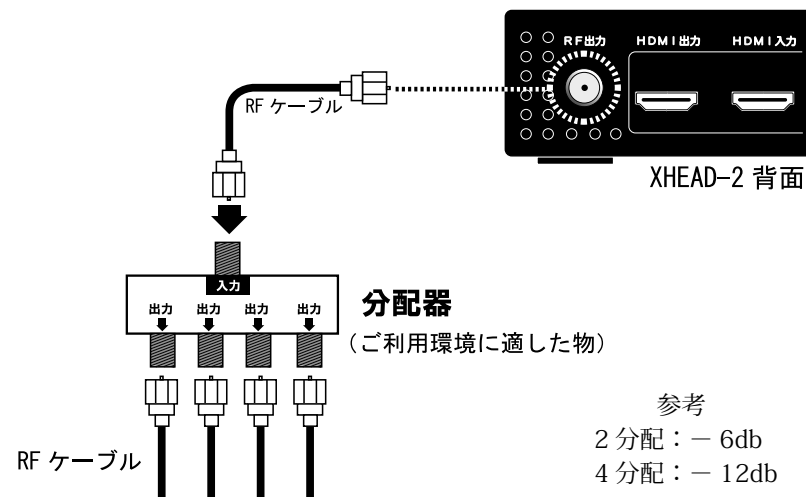
接続概要

RF 分配器を用いた接続と、信号レベルの低下

XHEAD-2 から出力された RF 信号は「地デジ」と同等であるため、市販の RF 分配器（アンテナ用の分配器）を使用する事で、簡単に安価に分配することができます。

しかし、RF 信号の特性上、ブースターを内蔵しない安価な分配器で分配を行うと下図の様に、分配するごとに信号レベルが「1/2」に低下します（4 分配の場合は 1/4 に低下します）。

このため、レベルが低下した場所は、「市販のブースター（増幅器）」を挿入して信号レベルを補正し、信号レベルを上げる必要があります。



テレビなどの設定メニューで「信号レベル」を確認できる場合は、接続した状態で、テレビの受信レベルをご確認ください。

- ※信号レベルと信号品質（デジタル情報の状態）はイコールではありません。
- ※信号に含まれる情報のエラーレート（BER）の確認には業務用の測定器が必要です。
- ※ RF 分波器は分配器として使用できません。必ず地デジ対応 RF 分配器をご利用ください。
- ※アナログ放送用の RF 分配器は使用できません。購入時期が定かでない分配器や、古い分配器がお手元にある場合は使用せず、地デジ対応の新しい分配器をご購入ください。
- ※分配による信号レベルの低下が懸念される場合は、ブースター内蔵の分配器をご利用ください。ただし、ブースターを使用すると、配線などによって含まれるノイズなども増幅されます。このため館内放送など大規模なシステムを構築する場合は高度なアンテナ配線設計や、高度なノイズ対策が必要となり、個人での設置は不可能です。専門業者に作業依頼することをお勧めしています。

LAN への接続

Web ブラウザーからの制御には LAN 環境が必要です

XHEAD-2 は制御用の「LAN 端子(100BASE-T 対応)[イーサネット端子とも言う]」と「Web サーバー」を備えており、LAN 接続によって、簡単に設定や制御を行うことができます(動画のストリーミングはできません)。LAN 端子からの制御には、本機が設置されている場所にネットワーク環境が必要です。

ご利用可能なネットワーク環境には、主に以下の3種類(方法1~3)があります。なお、ネットワーク環境や接続ケーブルなどは、お客様側でご用意ください。

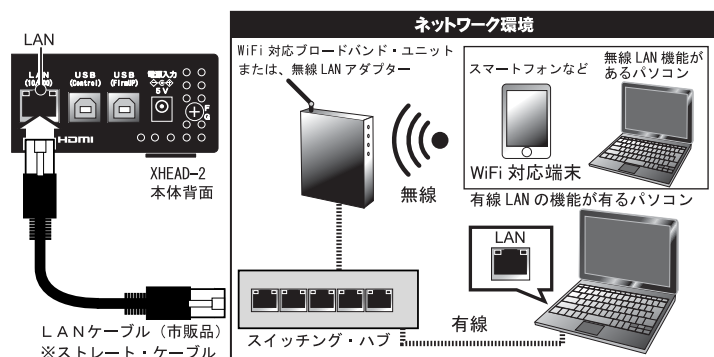
Web サーバーからの操作方法は 72 ~ 75 ページ参照

ご注意:DHCP をご利用の場合、IP のリース期間が終了すると、本機の IP アドレスが変化することがあります。このため DHCP をご利用の場合で、本機が数日以上連続稼働している場合は、LAN 経由での制御を行う(Web サーバーを使用する)前に、本体前面の液晶画面で IP アドレスを確認してください。Web ブラウザーのブックマークや履歴から Web サーバーを利用することはお勧めできません。

方法1: 設置場所にイントラネットやインターネット環境がある場合

自宅や会社で、一般的なインターネット・サービス(企業の場合はイントラネットなど)がある場合は下記の様な接続で LAN による設定や制御が可能です。

本機は有線 LAN 接続しかできませんが、ブロードバンド・ユニットなどに「無線 LAN 機能」がある場合は、ブロードバンド・ユニット経由で無線 LAN を持つパソコンやスマートフォンのブラウザから制御することも可能です(スマートフォンまたはパソコン[無線]→ブロードバンド・ユニット[無線→有線]→スイッチング・ハブ→XHEAD-2 の様に)。また、DHCP を利用することで XHEAD-2 の IP アドレスも自動で設定されます。



※ブロードバンド・ユニットにスイッチング・ハブが内蔵されている場合は、そちらに接続して使用する事ができます。

※ネットワークに関わる機材や LAN ケーブルは別途ご用意ください。

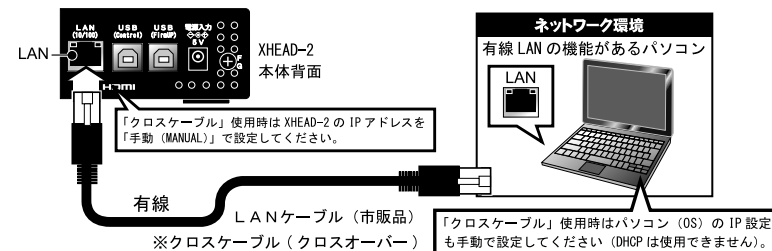
※インターネット環境(常時接続)があれば内蔵の時計機能を NTP サーバーに同期可能です(80 ページ/86 ~ 89 ページ参照)。なおインターネット接続に費用がかかる場合は、お客様の費用負担が必要です。

※企業などで IP アドレスの独自設定やアクセス制限を行っている場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

LAN への接続

方法2: 設置場所にイントラネットやインターネットは無いが「LAN 端子を持つパソコン」と「LAN ケーブル(クロス型)」がある場合

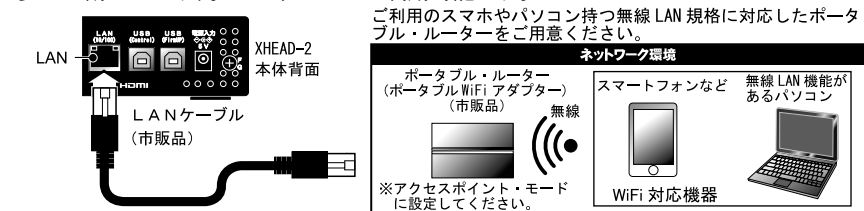
設置する場所や環境によってはネットワーク環境や、有線 LAN を利用できないことがあります。その様な時でも、「LAN 端子を持つパソコン」と「クロス型の LAN ケーブル」があれば設定や制御が可能です。DHCP は使用できないため、「XHEAD-2 の IP アドレス」と「パソコンの IP アドレス」及び、サブネットマスクなどを手動で設定する必要があります。ネットワークの知識を持った上級者向けの利用方法です。



※パソコンと XHEAD-2 を直接接続する際の LAN ケーブルは「クロスケーブル」を用いてください。

方法3: 設置場所にイントラネットやインターネット環境は無いが、「スマートフォン」や「無線 LAN 機能を持つパソコン」、「ポータブル・ルーター」がある場合

設置する場所や環境によってはネットワーク環境や、有線 LAN が利用できないことがあります。その様な場所でも「スマートフォン」または「無線 LAN 機能を持つパソコン」、「ポータブル・ルーター」、「LAN ケーブル」があれば、設定や制御が可能です(日常の業務で本機の様な装置の設置を頻繁に行う方には作業の効率化のため、これら機材の持参をお勧めします)。また、DHCP を利用可能です。



※ここに記載する「ポータブル・ルーター」とは、無線 LAN を有線 LAN に変換する小型の機器のことです。SIM 機能を内蔵したモバイル・ルーターではありません。

※ LAN ケーブルを挿抜したり、ポータブル・ルーターの電源を再起動すると、無線 LAN 側のアクセスポイントが切断されてしまうため、パソコン側から WiFi の再接続作業が必要となります。

※「ポータブル・ルーター」が複数のモードを持つ機種の場合は「アクセスポイント・モード」に設定してください。また、事前に「ポータブル・ルーター」とパソコン、またはスマートフォンの設定を行い、動作確認を行うことをお勧めします。

<初期設定の IP アドレスに関して>

ルーターなどがある場合は DHCP を使用できますが、クロスケーブルなどを使用した一対一での接続(方法2など)の際は、本機の IP アドレスなどを手動で設定して下さい。IP アドレスはユーザーが任意で変更可能ですが、出荷時の IP アドレスは下記となります。

工場出荷時の IP アドレス: 192.168.0.88

※ IP アドレスは手動で任意の数字に変更できます。変更方法は 58 ページ参照。

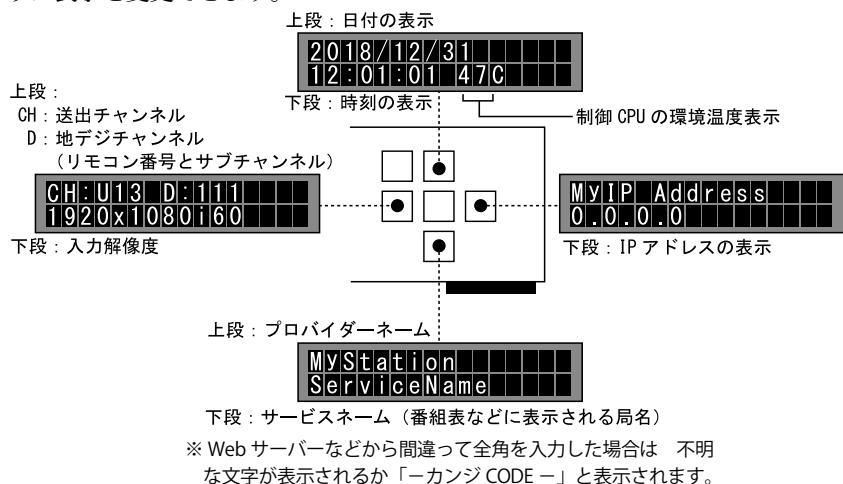
※ LAN 環境内の他の機器と IP アドレスが重複していると制御できません。

※ IP アドレスの設定を変更した場合は、必ず本機や接続している機器の再起動が必要です。

本体液晶に表示されるメッセージの意味と操作

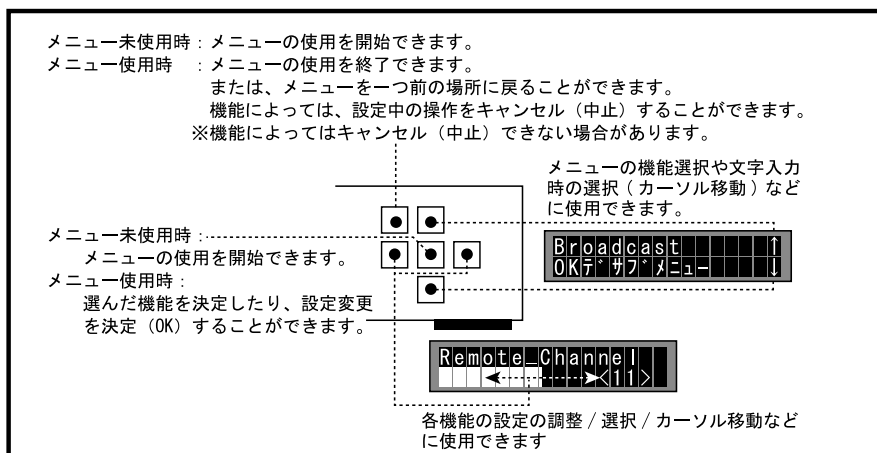
液晶画面に表示されるステータス表示

メニュー操作を行っていないときに表示されるステータス・メッセージや、その意味は下記のようになります。「▲」、「▼」、「◀」、「▶」ボタンを押すことで、下記のように表示を変更できます。



ボタン操作と液晶画面のメニューの動作

本体前面のボタンで、本体前面の液晶画面のメニュー操作を行うことができます。

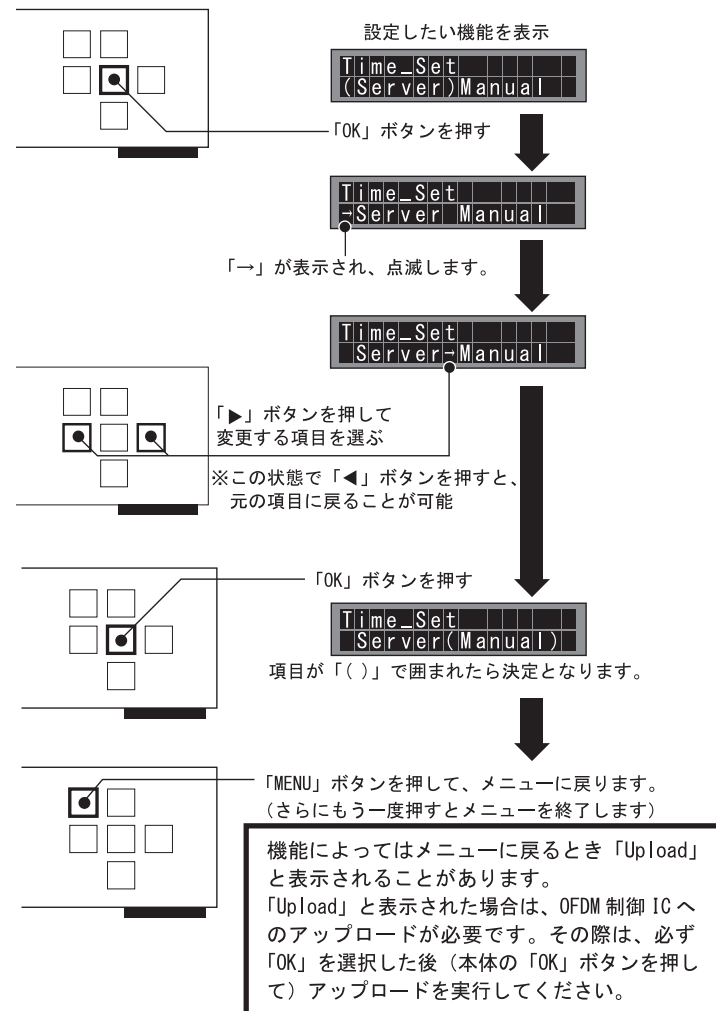


本体液晶に表示されるメッセージの意味と操作

設定を変更してみよう 1 (「選択型」の機能の設定を変更する)

各機能の設定を変更してみましょう。

下記は「Time_Set」の様に、機能を選んで決定する、選択型の操作を行う場合の例です。

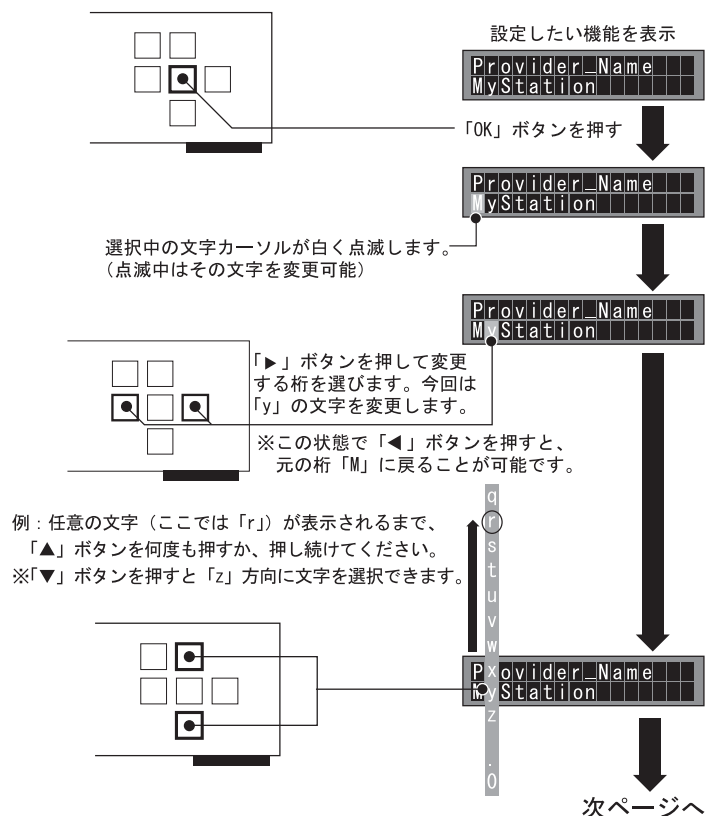


本体液晶に表示されるメッセージの意味と操作

設定を変更してみよう2 (「文字入力型」の機能の設定を変更する)

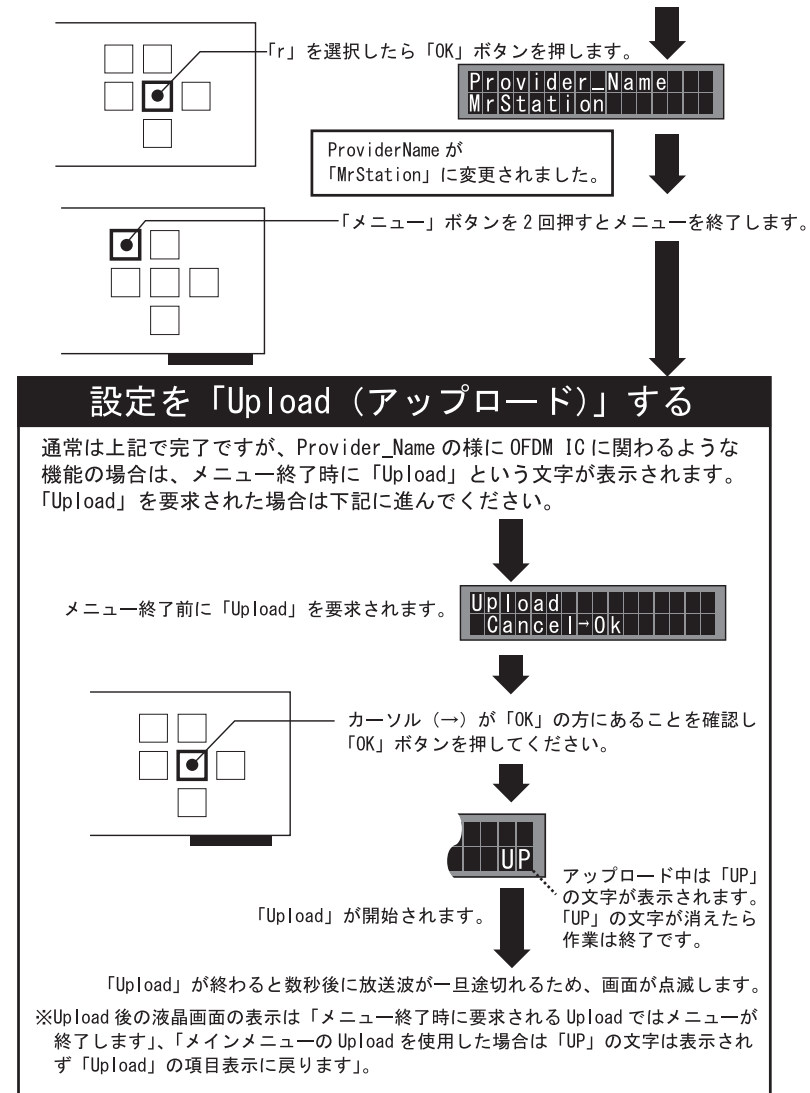
下記は「Provider_Name」、「Service_Name」、「NTP Server」の様に、文字を入力する機能の操作を行う場合の例です。

通常、複数の文字を扱う場合は入力に時間がかかるため、Web サーバーの利用をお勧めしています。しかし、やむをえず本体のボタン操作で文字や数字の変更を行う場合は下記の操作を参考にしてください。



※空白（スペース）を選択すると、それ以降の文字がすべて消去されます。
 空白（スペース）は、それ以降の文字がすべて消去する機能として動作します。
 このため、本機では空白（スペース）は文字として使用できません。

本体液晶に表示されるメッセージの意味と操作



<ご注意>

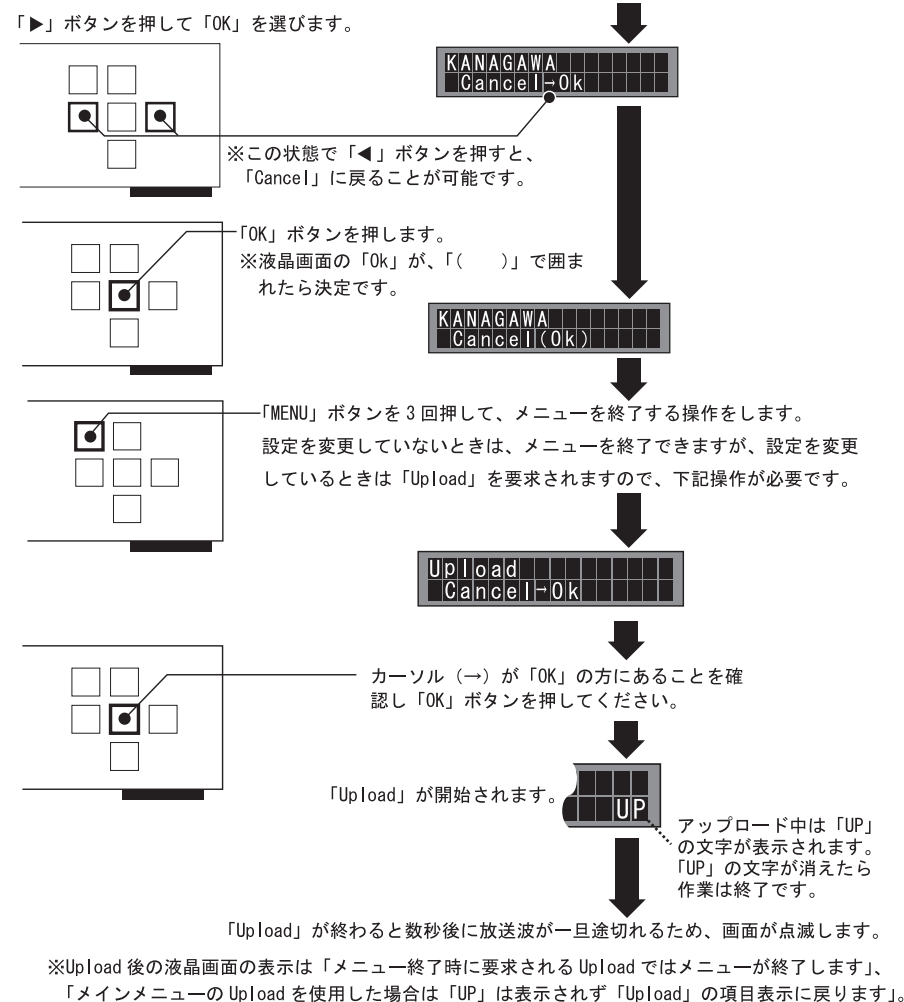
「Upload」をキャンセルすると、表示上の設定は変更されている（電源を切っても設定は残ったままとする）が、実際には「OFDM 制御 IC には設定が反映されていない」という特殊な状態となります。この様な状態で放置するとトラブルの元となりますので、必ず「Upload」を実行してください。

本体液晶に表示されるメッセージの意味と操作

本体液晶に表示されるメッセージの意味と操作

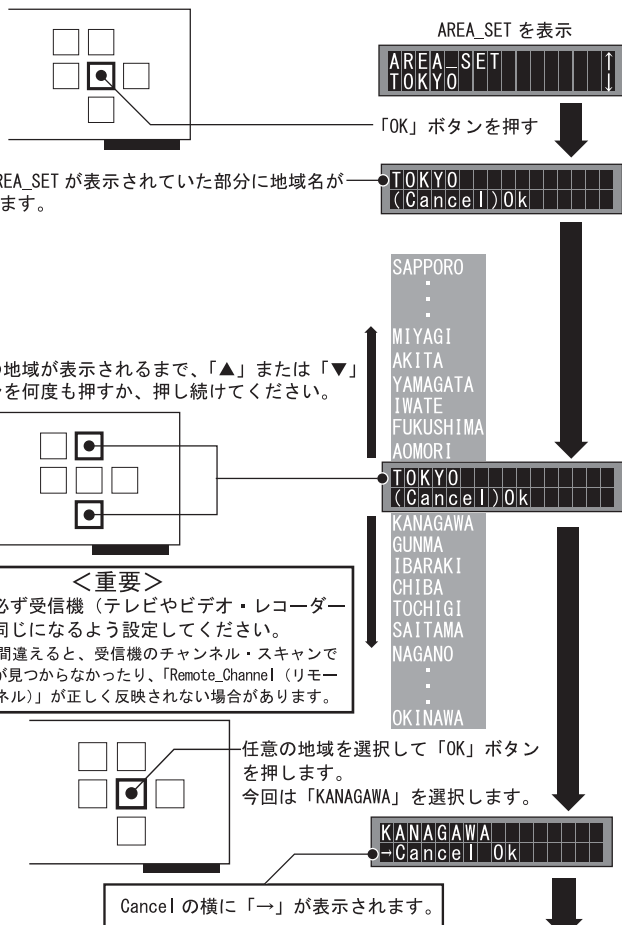
設定を変更してみよう3 (「地域設定」を変更する)

本体液晶に表示される多くの機能は「43～45ページ」の本体のボタン操作を参考に操作できますが、「地域設定 (AREA_SET)」は若干操作が異なるため、特別に解説いたします。



<ご注意>

「Upload」をキャンセルすると、表示上の設定は変更されている（電源を切っても設定は残ったままとなる）が、実際には「OFDM 制御 IC には設定が反映されていない」という特殊な状態となります。この様な状態で放置するとトラブルの元となりますので、必ず Upload を実行してください。



<重要>
 地域設定は必ず受信機（テレビやビデオ・レコーダーの設定）と同じになるよう設定してください。
 ※地域設定を間違えると、受信機のチャンネル・スキャンでチャンネルが見つからなかったり、「Remote_Channel（リモート・チャンネル）」が正しく反映されない場合があります。

設定メニューの機能

起動時と終了時のメッセージ

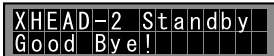
本機の電源操作の際、本体液晶ディスプレイには以下のようなメッセージが表示されます。



本機を初めて起動したとき、または工場出荷時に初期化した後の起動時に表示されます。テレビ画面を確認(了解)し、OK ボタンを押します。



左記以外で本機を起動したときに表示されます。下段は、ファームウェアのバージョンです。

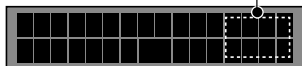


本機を電源ボタンを押してスタンバイ(待機)に移行する際に表示されます。

状態を知らせるメッセージ・アイコン

本体液晶の右側に、ときどき表示される「2文字」の暗号のようなアイコンがありますが、これらは本機の動作を示す情報で、下記のような意味があります。

各種メッセージアイコン表示位置



設定の保存作業中



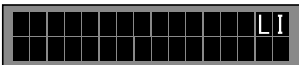
設定変更した情報をCPU用フラッシュメモリに書き込んでいるとき表示されます。このアイコンが表示されているときは、電源を切らないでください。

アップロード必要の通知



OFDM に関わる設定を変更した後、設定内容をOFDM 制御 IC に転送する必要があるときに表示されます。この表示があるときは、設定は変更されているが RF 出力の動作には反映されていない状態です。このため、必ず「Upload」を実行してください。

ログイン中



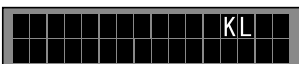
Web サーバーによるアクセスで、ログインされているときに表示されるアイコンです。

著作権保護有り



HDMI 端子から入力される映像信号に著作権保護信号(HDCP)を含む場合に表示されます。「CP」が表示されているとき、送出される放送波はビデオレコーダーなどで録画することができません。「CP」は「KL」と同じ場所に表示されます。

キー・ロック中



誤操作防止用の「キー・ロック」機能が動作しているときに表示されます。このアイコンが表示されているとき、本体のボタンは操作できません(キー・ロックの解除方法は65ページを参照)。「KL」と「CP」が同時に表示された時は「CP」表示が優先されます。

設定メニューの機能

設定メニューの種類

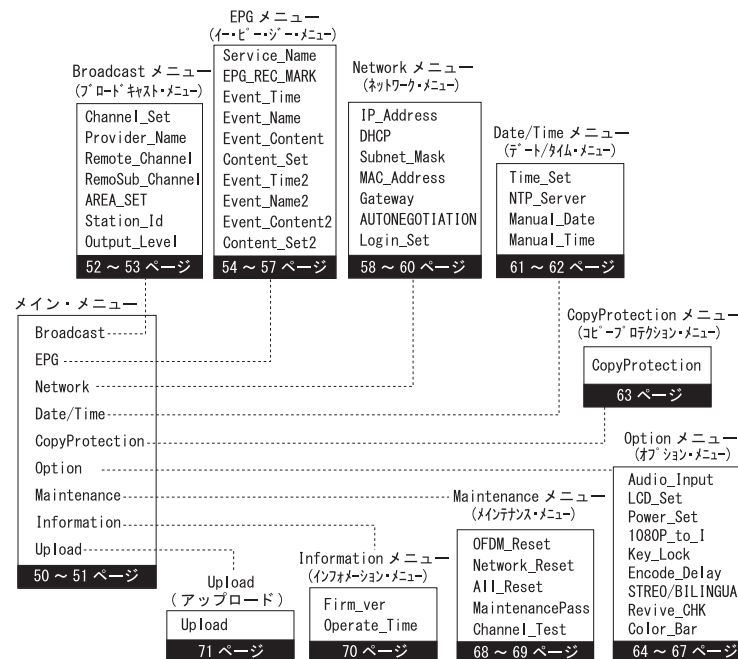
設定メニューの操作方法は、「本体前面の液晶画面とボタン操作による設定」と、「Web ブラウザーによる Web サーバーの設定」の2種類があります(一部の機能は Web サーバーでのみ設定可能なものがあります)。

ご利用方法にあわせて、それぞれの解説ページをご覧ください。

- **本体前面の液晶画面とボタン操作**・・・42～47ページ参照
パソコンや携帯端末などは不要(ネットワーク環境[LAN]も不要)ですが、操作画面が小さいため、機能によっては設定しづらいことがあります。
- **Web ブラウザーによる Web サーバーの操作**・・・72～75ページ参照
パソコンや携帯端末、ネットワーク環境(LAN)などは必要ですが、マウスやタッチパネルなどで設定変更でき、操作画面も広いため設定しやすくなります。本体の液晶画面とは項目名の表記が異なる場合があります。

設定メニュー一覧

本体の液晶画面やボタン操作で使用可能な機能は下記となります。各機能に関しては、それぞれのページでご確認ください。



設定メニューの機能

Main_Menu (メイン・メニュー)

メインメニューには下記の機能やメニューがあります。

Broadcast (ブロードキャスト)

送出の基本設定

「Broadcast」には、運用の際必須となる重要な基本情報(送出する RF チャンネル、プロバイダ名、リモコンのボタン番号、地域設定、地域事業者識別の ID) が含まれます。本機を設置する前に必要な基本情報を設定してください。

本体からの設定：52～53 ページ参照

Channel_Set
Provider_Name
Remote_Channel
RemoSub_Channel
AREA_SET
Station_Id
Output_Level

EPG (イー・ピー・ジー)

電子番組表の設定

「EPG」には、電子番組表に必要な情報(チャンネルの局名など)や、番組の時間(長さ)の設定が含まれます。

本体からの設定：54～57 ページ参照

Service_Name
EPG_REC_MARK
Event_Time
Event_Name
Event_Content
Content_Set
Event_Time2
Event_Name2
Event_Content2
Content_Set2

Network (ネットワーク)

LAN の設定

「Network」には、ネットワーク制御(LAN)の設定があります。Web サーバーを使用した制御に影響する機能です。IP アドレスなどの設定を行ったり、MAC アドレスを確認できます。

本体からの設定：58～60 ページ参照

IP_Address
DHCP
Subnet_Mask
MAC_Address
Gateway
AUTONEGOTIATION
Login_Set

ご注意：LAN に関わる設定であるため、設定を変更したり設定を忘れると、パソコンなどから Web サーバーの操作ができなくなります。設定を忘れてしまったり、操作できなくなった場合は、本体のボタン操作と液晶画面をご利用ください。

Date/Time (デート・タイム)

日付と時刻の設定

「Date/Time」には、自主放送に必須の時刻情報を設定する機能があります。地デジによる自主放送では放送時の情報に「日付と時刻」を含めることが必須となっています。本機にボタン電池を挿入後、必ず設定を行ってください。

本体からの設定：61～62 ページ参照

Time_Set
NTP_Server
Manual_Date
Manual_Time

設定メニューの機能

Main_Menu (メイン・メニュー)

CopyProtection (コピープロテクション)

著作権保護の設定

「CopyProtection」には、著作権保護が無い映像を入力した際に、送出側(地デジ信号)に著作権保護を適用するかどうかを設定できます。ダビング 10 や録画禁止などを設定できます。

本体からの設定：63 ページ参照

CopyProtection

Option (オプション)

その他の設定

「Option」には、本機をご利用いただく上で、便利な機能があります。電源に関する設定や、アナログ音声入力に関わる機能、特殊な設定などがあります。

本体からの設定：64～67 ページ参照

Audio_Input
LCD_Set
Power_Set
1080P_to_I
Key_Lock
Encode_Delay
STREO/BILINGUAL
Revive_CHK
Color_Bar

Maintenance (メンテナンス)

メンテナンスの設定

「Maintenance」には、設定をリセット(工場出荷時の設定に初期化)する機能や、チャンネル・テスト機能があります。

本体からの設定：68～69 ページ参照

OFDM_Reset
Network_Reset
All_Reset
MaintenancePass
Channel_Test

Information (インフォメーション)

本体情報の表示

「Information」には、本体の状態を表示する機能があります。

本体からの設定：70 ページ参照

Firm_ver
Operate_Time

UpLoad (アップロード)

OFDM IC 設定情報の更新

OFDM IC へ設定情報を送信する機能です。

本体からの設定：71 ページ参照

設定メニューの機能

Broadcast (ブロードキャスト)
送出の基本設定

「Broadcast」には下記の機能があります。

Channel_Set (チャンネル・セット)

「Channel_Set」は、信号波を送出する物理チャンネルを選択する機能です。
局番は VHF「V4～V12ch」、UHF「U13～U62ch」、「C23～C32ch」となります。
初期設定は UHF「U13ch」です。



※「空きチャンネル(未使用のチャンネル)」は事前に調査してください。

※ VHF 帯はテレビ以外の用途で使用されているため地デジ放送との混合時はご注意ください。

Provider_Name (プロバイダー・ネーム)

「Provider_Name」では、自主放送の放送事業者名を入力します。任意の文字を入力してください。本体のボタン操作で使用できる文字は半角の「アルファベット」、「数字」、「アットマーク@」、「ピリオド.」、「スペース」" "、「アンダーバー_」" で、10文字以内です。なお、Web サーバーを使用することで全角文字を使用できますが5文字以内です。また、全角と半角は混在しないでください。



本体からの文字入力操作：44～45ページ参照

※本体の液晶画面は、全角の日本語表示に対応できないため、全角の文字が設定された場合は、「-カンジ CODE-」と表示されます。

※文字数制限は97ページ参照。

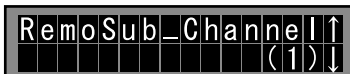
Remote_Channel (リモート・チャンネル)

「Remote_Channel」は、テレビやビデオレコーダーなど受信機のリモコンのチャンネルボタン(番号ボタン)「1～12」を設定する「リモコン・キーID」の設定機能です。設定前に、お手元の受信機のリモコンの、使用していない番号ボタン(空き番号)を調べてください。初期設定では最も利用例の少ない「11」となっています。なお、ここで設定した番号は、地デジ放送チャンネルとイコールとなります。例えば、「11」の場合、地デジ・チャンネルは「D:111」となり十と百の桁に反映されます。なお、XHEAD-2と受信機の地域設定が異なる場合や、受信機の持つ地域設定の使用チャンネル一覧に使用中のチャンネルがある場合は、そのチャンネルを使用できないため受信機が自動で別番号(空き番号)を割り当てる場合があります。



※すでに「11」が使用されている場合は変更してください。
※地デジの規格上の制限により、リモコンのキーに空きがない場合は本機を利用できません。

RemoSub_Channel (リモート・サブ・チャンネル)



「RemoSub_Channel」は、地デジチャンネルのサブチャンネル番号(1～8)を指定できます。なお、本機はMPEG-2エンコーダーが1系統であるためマルチチャンネルの送出はできません。

※既存の地デジ放送や、他社のOFDMの放送局に対してサブチャンネルを指定することはできません(混合した場合など)。

設定メニューの機能

AREA_SET (エリア・セット)

「AREA_SET」は、本機が設置されている地域を選択する機能です。
地デジ放送の情報には、放送局がある「地域」情報を含める決まりになっています。自主放送においても、これに合わせるため地域情報の設定が必要となります。事前に受信機側の地域設定を確認し、本機が同じ地域になるよう設定してください。地域設定を間違えて設定すると受信機側でチャンネル・スキャンする際「リモート・チャンネル(リモコン・キーID)」が正しく適用されない場合があります。初期設定は「東京(Tokyo)」です。



本体からの文字入力操作：46～47ページ参照

※ XHEAD-2 を複数使用して混合する場合は特殊な地域設定が必要です。詳細は92ページ参照。

Station_Id (ステーション・アイディー)

「Station_Id」は、地域事業者識別IDを設定する重要な機能です。初期設定は「14」です。1～15の範囲で設定を変更できますが通常は初期設定でご利用ください。

地域事業者識別IDは放送環境や、サービス状況などによっても設定を変更しなければならない場合があります。すでに放送サービスを受けている場合や、地デジ放送と混合する場合は、各放送事業者の窓口にお問い合わせ、現在使用されている地域事業者識別IDを確認(把握)し、本機とIDが重ならないようにする必要があります。なお、ARIB規格によると館内放送は「14」を使用する決まりです。



※94ページ「Station Id (地域事業者識別ID)とは何ですか?」もご覧ください。

※地域事業者識別ID 14 が使用済の場合(他のOFDMがある場合など)は本機を利用できません。

Output_Level (アウトプット・レベル)

「Output_Level」は、出力されるRF信号のレベルを調整する機能です。
初期設定は「80」ですが、画面が乱れがちときに調整すると改善する場合があります。レベルは「64～96」の範囲で調整可能です。
むやみに調整すると、かえって画面が乱れる原因となりますので、調整しても効果がなかった場合は、「80」に戻すことをお勧めします。



設定メニューの機能

EPG (イー・ピー・ジー)
電子番組表の設定

「EPG」には下記の機能があります。76～79 ページもあわせてご覧ください。

電子番組表に関わる設定を変更したときは受信機を再起動しましょう
電子番組表 (EPG) にかかわる設定を変更する際、タイミングによっては、受信機の電子番組表が更新されない場合があります。または、受信機の機種によって更新に時間がかかる場合があります。

このため、設定変更後は受信機の電子番組表を再表示する操作を行うか、それでも更新されない場合は受信機を再起動してください。

電子番組表に依存する録画の制限に関して

電子番組表を使用した、録画開始 (または予約録画) は、ビデオレコーダーの仕様上、番組をまたいで長時間録画を行うことができません (ビデオレコーダーの機種によっては録画時間や予約時間を手動で変更できる場合があります)。また、リモコンの「録画ボタン」を使用した録画開始も、ビデオレコーダー側が電子番組表に依存する 경우가多く、番組をまたいで長時間録画ができない場合があります。

Service_Name (サービス・ネーム)

「Service_Name」は、電子番組表などに表示される「サービス名」を設定する機能です。初期設定では「ServiceNam」の文字列が登録されていますが、文字列は任意に変更可能です。本体のボタン操作で使用できる文字は半角の「アルファベット」、「数字」、「アットマーク "@"」、「ピリオド "."」、「スペース " "」、「アンダーバー "_"」で 10 文字以内です。なお、Web サーバーを使用することで全角文字を使用できますが 5 文字以内です。また、全角と半角を混在しないでください。



「◀」や「▶」で桁を選択。
「▲」や「▼」で文字を選択。

本体からの文字入力操作 (参考) : 44～45 ページ参照

※本体の液晶画面は、全角の日本語表示に対応できないため、全角の文字が設定された場合は、「カンジ CODE-」と表示されます。

※文字数制限は 97 ページ参照。

EPG_REC_MARK (イー・ピー・ジー・レック・マーク)

「EPG_REC_MARK」は、電子番組表などに表示される「番組名 (Event Name)」に「日時 (年と秒を除く)」を追加する機能です。本機では EPG の番組名に変化が少ないため、ビデオレコーダーなどで録画すると、録画一覧などに複数の同じ名前の番組が表示されてしまいます。本機能では、番組名に番組の開始「月・日・時・分」を自動で追加します。録画した番組の管理を容易にします。



NoREC : Event_Name のみを使用。
RECORD : Event_Name の後ろに月日時分を追加。

※同じ番組内で、何度も録画をやり直すとタイトルが同じとなりますのでご了承ください。

設定メニューの機能

Content_Set (コンテンツ・セット)

「Content_Set」は、現在放送中の番組の種類 (ジャンル) を指定する機能です。番組内容 (コンテンツ) には「ニュース」や「スポーツ」などのジャンルがあります。これらがコンテンツです。コンテンツは番組検索に使用したり、電子番組表などで閲覧がしやすい様に分野わけする場合に使用します。自主放送においても、コンテンツ情報を含める必要があります。

項目は「▲」や「▼」ボタンで選択することができます。

本体液晶表示	Web サーバー
News	ニュース / 報道
Sports	スポーツ
Info	情報 / ワイドショー
Drama	ドラマ
Music	音楽
Variety	バラエティ
Movie	映画
Animation	アニメ / 特撮

本体液晶表示	Web サーバー
Documentary	ドキュメンタリー / 教養
Theater	劇場 / 公演
Hobby	趣味 / 教育
Welfrare	福祉
Reserve1	予備 1
Reserve2	予備 2
Expansion	拡張
Others	その他 (未定義)



※本体液晶画面の性能により、画面には英語、またはローマ字のアルファベットで表示されます。

Web サーバーからの設定の場合は日本語で表示されます。

※初期設定は「NEWS (ニュース / 報道)」に設定しています。

※コンテンツは実際の放送内容とジャンルが違っていても問題はありません。本機のような装置の場合、番組ごとに個別にコンテンツを設定することは難しいため、希望するものを選んでご利用ください。

※ Reserve1、Reserve2、Expansion、Others はテレビ側で正しく表示しないことがあります。

Event_Time (イベント・タイム)

「Event_Time」は、現在放送中の番組の「時間割り」を指定可能です。

1 時間～8 時間の区切りを指定できます。

設定を変更すると、受信機の電子番組表に数十秒～数分で反映されます。

ビデオレコーダーなどで番組を録画する際、機種やメーカーによっては6 時間以上は録画できないなどの制限がある場合があります。このような時、ビデオレコーダーの対応できる長さで自主放送の時間帯を区切るようにしてください。

初期設定は3 時間に設定されています。なお、本番組が終了した後は、もう一度同じ時間割りで、同じ番組表が繰り返し送出されます。



電子番組表 (EPG) の時間割りを変更してみよう
76～79 ページ参照

※電子番組表の時間割りは、単に映像を表示・視聴するだけの場合 (録画を前提としない場合) は、必ずしも変更する必要はありません。

設定メニューの機能

Event_Name (イベント・ネーム)

「Event_Name」は、現在送出中の番組の「番組名(タイトル名)」を設定可能です。本体の液晶画面では全角文字を表示できないため、変更する際は Web サーバーで設定してください。

初期設定では全角で「自主放送1」となっています。

E	v	e	n	t	_	N	a	m	e					↑
P	l	e	a	s	e	s	e	t	W	e	b			↓

※使用できる文字は「全角」のみです。半角を入力したり文中に半角を混ぜたりしないでください。タイトル名が長すぎると一部が表示されない場合があります。

Event_Content (イベント・コンテンツ)

「Event_Content」は、上記「Event_Name」の番組の「番組の情報」を設定可能です。初期設定では全角で「自主放送1」となっています。

本体の液晶画面では全角文字を表示できないため、Web サーバーで確認・設定してください。

E	v	e	n	t	_	C	o	n	t	e	n	t		↑
P	l	e	a	s	e	s	e	t	W	e	b		↓	

Content_Set2 (コンテンツ・セット2)

「Content_Set2」は、「Content_Set」で設定した番組の次の時間帯の番組(予告)の「種類(ジャンル)」を指定する機能です。

初期設定は「NEWS(ニュース/報道)」に設定しています。

「Content_Set(55ページ)」を参考にして設定してください。

C	o	n	t	e	n	t	_	S	e	t	2			↑
N	e	w	s										↓	

Event_Time2 (イベント・タイム2)

「Event_Time2」は、「Event_Time」で設定した番組の次の番組(またはそれ以降の番組)の「時間割り」を設定できます。

「Event_Time(55ページ)」を参考にして設定してください。

初期設定では3時間に設定されています。

E	v	e	n	t	_	T	i	m	e	2				↑
										(3)			↓	

設定メニューの機能

Event_Name2 (イベント・ネーム)

次の時間帯(またはそれ以降の時間帯の番組)の「番組名(タイトル名)」を設定可能です。本体の液晶画面では全角文字を表示できないため、Web サーバーで確認・設定してください。

初期設定では全角で「自主放送2」となっています。

E	v	e	n	t	_	N	a	m	e	2				↑
P	l	e	a	s	e	s	e	t	W	e	b		↓	

※使用できる文字は「全角」のみです。半角を入力したり文中に半角を混ぜたりしないでください。タイトル名が長すぎると一部が表示されない場合があります。

Event_Content2 (イベント・コンテンツ2)

「Event_Content2」は、「Event_Content」で設定した番組の次の時間帯の番組(またはそれ以降の時間帯の番組)の「番組情報」を設定可能です。

初期設定では全角で「自主放送2」となっています。

本体の液晶画面では全角文字を表示できないため、Web サーバーで確認・設定してください。

E	v	e	n	t	_	C	o	n	t	e	n	t	2	↑
P	l	e	a	s	e	s	e	t	W	e	b		↓	

< 次の時間帯の番組「Event_Name2」の放送は開始されない >

本機で設定できる番組表の時間割りは「A: 現在送出中の番組(現在の番組: Event_Name)」と、「B: 次の時間帯の番組: Event_Name2」があります。これらの二つの番組は、地デジ放送の便宜上必要であるため番組表に記載されています(番組表の情報が無い場合、録画作業などに支障が発生するため)。

しかし、本機の仕様上「A」の時間帯が過ぎると、電子番組表が更新され、「A」の時間割りが、くり返し設定されます。

「B」の時間割りはあくまで便宜上の番組情報であり、実際に番組が開始されることはありません。

このため、「B: 次の時間帯の番組」の時間割りを使用してビデオレコーダーなどで予約録画することはお勧めできません。

設定メニューの機能

Network (ネットワーク)
LAN の設定

「Network」は LAN を使用して本機を制御する際の通信設定を行う項目です。
本機の Web サーバーを利用する際は、設定を行ってください。なお、ネットワークに関する設定を間違えて変更すると本機の Web サーバーなどにアクセスできなくなるため、設定変更は慎重に行ってください。なお、ネットワークに関する設定を変更すると、メニュー終了時に「Reboot (再起動)」が要求されます。

IP_Address (アイ・ピー・アドレス)

「IP_Address」は、LAN 接続時のローカル IP アドレスを設定できます。
「DHCP」を使用しているときは自動で取得した IP アドレスが表示され、手動では設定変更できません。「DHCP」の設定が「MANUAL」に設定されているときに手動で設定可能です。「IP_Address」を直接設定する場合は、必ずネットワーク管理者に相談し、利用していない IP アドレスを提供してもらってください (通常は自動設定可能な「DHCP」の使用をお勧めします)。なお、ネットワーク接続が無い場合や DHCP でも IP アドレスが確認されるまでは「0.0.0.0」と表示されます。

IP_Address
0.0.0.0

参考: IP アドレスが手動のとき、初期設定は「192.168.0.88」となっています。なお、XHEAD-2 を、同じ LAN 環境内で複数使用する場合は、IP アドレスが重ならない様ご注意ください。
注意: ネットワーク管理者の許可なく手動で IP アドレスを設定すると、ネットワーク上の他の機器が正常に動作しなくなる場合があります。施設全体のネットワーク障害にいたる場合があるためご注意ください。業務目的でご利用の際は、事前にネットワーク管理者に相談してください。

DHCP (ディー・エイチ・シー・ピー)

「DHCP」を使用して IP アドレスを自動で取得するかどうかを設定する機能です。
設定が「DHCP」の時は、ルーターなどから提供される IP アドレスを使用します。
設定が「MANUAL」のときは「IP_Address」の項目に手動で IP アドレスを設定してください。本設定を「MANUAL」で利用する場合はネットワークに関する知識が必要です。また「MANUAL」で利用すると DNS を利用できなくなります。

DHCP
(DHCP) Manual

DHCP : IP アドレスを自動取得します。
MANUAL : IP アドレスを手動で設定できます。

重要: 設定変更後は必ず、本機とパソコン両方を再起動してください。
参考: 「MANUAL」に設定する場合は「ネットマスク (Subnet_Mask)」などの設定確認も必要です。ネットワーク管理者に相談の上パソコンの設定も変更してください。
参考: クロス型 LAN ケーブルでパソコンと直接接続する場合はパソコン側も DHCP をオフに設定し IP アドレスなどを手動で設定する必要があります。
ご注意: DHCP をご利用の場合、IP アドレスのリース期間が終了すると、本機の IP アドレスが変化する場合があります。このため DHCP をご利用の場合で、本機が数日以上連続稼働している場合は、LAN 経由での制御を行う (Web サーバーを使用する) 前に、本体前面の液晶画面で IP アドレスを確認してください。Web ブラウザーのブックマークや履歴から Web サーバーを利用することはお勧めできません。

設定メニューの機能

Subnet_Mask (サブ・ネット・マスク)

ネットワーク上のネットマスクを設定します。複数のネットワーク環境が混在する環境で設定が必要です。手動による設定変更には専門的な知識を必要とするため、ネットワーク管理者に相談してください。初期設定は「255.255.255.0」です。

Subnet_Mask
0.0.0.0

MAC_Address (マック・アドレス)

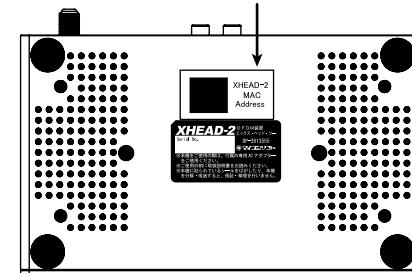
XHEAD-2 には、MAC アドレスが組み込まれています。MAC アドレスは、世界で一つしかない XHEAD-2 の個体識別番号とお考え下さい。

ネットワークアドレス上に複数の XHEAD-2 があっても、MAC_Address で識別できます (DHCP 下でも IP アドレスに左右されず個体を識別できるメリットがあります)。

MAC アドレスは固定であるため、お客様が変更することはできません。

MAC_Address
???????????

本体背面図
(MAC アドレス・シールの場所)



※ネットワーク管理者が MAC アドレスを利用したインターネットへのアクセス制限 (MAC アドレスのフィルタリングによるセキュリティー対策) などを行う場合にも利用されます。
※ MAC アドレスは、本体の底面に貼られている「MAC Address ラベルシール」の二次元コード (QR コード) と同じ番号となります。このシールは再発行できないため、シールをはがしたり、汚さないでください。

Gateway (ゲートウェイ)

ネットワーク上のネットマスクを設定します。複数のネットワーク環境が混在する環境で設定が必要です。手動による設定変更には専門的な知識を必要とするため、ネットワーク管理者に相談してください。初期設定は「192.168.0.1」です。

Gateway
0.0.0.0

設定メニューの機能

AUTONEGOTIATION (オート・ネゴシエーション)

LAN の通信速度の切替方法を選択する機能です。
互換性やアクセスの安定性を重視する場合は「Off」でご利用ください。

Off : 通信速度を低速に固定し、安定した通信ができます。
On : 「off」よりも通信速度を改善できる場合があります。

AUTONEGOTIATION ↑
OFF (ON) ↓

Login_Set (ログイン・セット)

この機能を「On」にすることで、Web サーバーに強制的にログインすることができます。一時的にユーザー ID とパスワードなしでパソコンから Web サーバーを利用することができます。

XHEAD-2 を Web サーバーからアクセスする際、ログインのユーザー ID やパスワードを忘れてしまった場合にも利用できます。

なお、ユーザー ID やパスワードの有無に関わらず、Web サーバーにログイン中は常に「On」となります。

Off : ログイン時に必ずユーザー ID とパスワードを要求します。もしくは、現在 Web サーバーにログインしていません。
On : Web サーバーにユーザー ID やパスワード無しでログインできます。または、現在 Web サーバーにログイン中です。
ログアウトまたは、電源がオフ (切) またはスタンバイ (待機) になるまで有効です。

Login_Set ↑
(Off) On ↓

※ ID とパスワードは本体からは変更できません。Web サーバーをご利用ください。
※ ID とパスワードは工場出荷時の設定に初期化すると初期設定 (admin) に戻すことができます。

< Web サーバー・ログイン初期設定 >

ID : admin
パスワード : admin

< ネットワーク設定後の再起動 >

ネットワークに関わる設定を変更した後、メニューを終了すると、必ず「Reboot (再起動)」を要求されるため、一旦電源が「スタンバイ (待機)」となります。このため、本体の電源ボタンを押して XHEAD-2 を「起動」してください。

設定メニューの機能

Date/Time (デート / タイム)
日付と時刻の設定

「Date/Time」には、自主放送に必須の日時情報を設定する機能があります。地デジによる自主放送では放送時の情報に「日付と時刻」を含めることが必須となっています。

特に時刻は正確な設定が要求されるため、LAN 接続で NTP サーバーを利用するか、パソコンなどを使用し Web サーバーで設定作業を行うことを推奨しています。また、日時設定する前に、必ず本体にボタン電池を挿入してください (ボタン電池の挿入方法は 31 ページをご覧ください)。

Time_Set (タイム・セット)

「Time_Set」では、日付や時刻を NTP サーバーを使用して設定するか、手動で設定するか、を選択することができます。

Server : インターネット上の NTP サーバーを使用します。

Manual : 本体のボタン操作などで直接日時を設定することができます。

Time_Set ↑
(Server) Manual ↓

日時設定の手順 : 80 ~ 85 ページ参照

※ NTP サーバーを利用するには、インターネットに接続された LAN 環境が必要です (40 ~ 41 ページ参照)。

NTP_Server (エヌ・ティ・ピー・サーバー)

「NTP_Server」では、NTP サーバーを変更することができます。

NTP_Server ↑
ntp.jst.mfeed.ad ↓

NTP サーバーの使用方法 : 86 ~ 89 ページ参照

※ NTP サーバーは、各団体や教育機関によって提供される無償のサービスです。ご利用は自己責任となりますのでご注意ください。
※ 初期設定の NTP サーバーが、なんらかの理由でサービスを停止している場合は、他の NTP サーバーの URL を設定してください。
他の NTP サーバーに関してはインターネットの検索機能を利用するなどし、探してください。
※ 標準の NTP サーバーは「ntp.jst.mfeed.ad.jp」です。

< 以下の場合には「IP アドレス」を入力してください >

XHEAD-2 では、「DHCP」を「MANUAL」に設定していると DNS が動作しません。恐れ入りますが、「DHCP」を「MANUAL」に設定している場合は、NTP サーバーの設定を URL を使用せず「IP アドレス」入力してください。

設定メニューの機能

Manual_Date (マニュアル・デート)

「Manual_Date」では、手動で日付を変更することができます。
「Time_Set」が「Manual」のときに設定可能です。



本体ボタンによる設定方法：81 ページ参照

Web サーバー設定：82 ~ 85 ページ参照

※「Time_Set」の設定が「Server」でも設定可能ですが、NTP サーバーの日時が確認されたとき自動的に NTP サーバーからの情報（年・月・日）に更新されます。

Manual_Time (マニュアル・タイム)

「Manual_Time」では、手動で時刻を変更することができます。
「Time_Set」が「Manual」のときに設定可能です。



本体ボタンによる設定方法：81 ページ参照

Web サーバー設定：82 ~ 85 ページ参照

※「Time_Set」の設定が「Server」でも設定可能ですが、NTP サーバーの日時が確認されたとき自動的に NTP サーバーの情報（時・分・秒）に更新されます。

設定メニューの機能

CopyProtection (コピー・プロテクション)
著作権保護の設定

著作権保護の無い HDMI 信号に対して著作権保護を適用する機能です。

CopyProtection (コピー・プロテクション)

「CopyProtection」では著作権保護されていない HDMI 信号に対して、著作権保護の種類を選んで適用することができます。

自主放送において録画を防止したり、複製できないようにする保護機能としてご利用ください。

NONE：著作権保護を使用しません。

COPY_ONECE：ダビング 10（コピー 9 回、ムーブ 1 回）に指定します。

Prohibited：録画禁止に指定します。



※選択項目の文字数が多いため、本体の液晶画面には一度に表示されません。

「◀」や「▶」ボタンを操作することで、画面外の設定項目を選ぶことが可能です。

※ HDMI 信号に HDCP などの著作権保護が元々含まれている場合は、本設定に関わらず強制的に「録画禁止（コピー禁止）：Prohibited」の状態で出力されます。

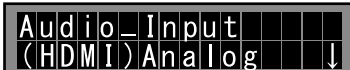
設定メニューの機能

Option (オプション)
その他の設定

「Option」には、本機をご利用いただく上で、便利な機能があります。
電源に関する設定や、アナログ音声入力に関わる機能、特殊な設定などがあります。

Audio_Input (オーディオ・インプット)

「Audio_Input」では、音声入力を選択することができます。



HDMI : HDMI のデジタル音声を使用します。
Analog : アナログ音声を使用します。

※ HDMI に音声コーデックが含まれない (オフ) の場合はアナログ音声を入力しても音声は変換・出力されません。パソコンなどでは、標準で音声コーデックが「オフ」であり、動画や音声を利用された場合のみ音声コーデックが「オン」になる仕組みとなっているためご注意ください。

LCD_Set (エル・シー・ディー・セット)

「LCD_Set」では、本体の液晶ディスプレイのバックライトを、どの様に制御するかを設定します。

Auto_Off : 一定時間本体のボタンを操作しないと、自動でバックライトを「オフ (切)」します。
再度本体のボタンを操作すると消灯したバックライトが点灯します。
On : 常にバックライトを点灯します。

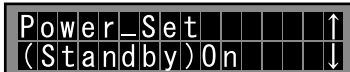


※ Web サーバーからの操作時は、消えたバックライトが点灯することはありません。
※ 「Auto_Off」に設定することでバックライトが自動消灯するため、省電力の効果があります。

Power_Set (パワー・セット)

「Power_Set」では、本機が通電された際の電源動作を設定できます。

Standby: AC アダプターが接続されて通電されたとき、前回電源が「オン (入)」であった場合は電源を「オン (入)」にします。
前回電源が「スタンバイ (待機)」であった場合は電源を「スタンバイ (待機)」にします。
On : AC アダプターが接続されて通電されたとき、常に電源を「オン (入)」にします。本機の電源ボタンを押しても、電源を「スタンバイ (待機)」にすることはできません。



設定メニューの機能

1080P_to_I (1080P・トゥー・アイ)

「1080P_to_I」では、HDMI 端子から 1080p (60p[59.94Hz]) の映像が入力された際、「1080i」で出力するか、「1080p[30p]」で出力するかを選択する機能です (ISDB-T に 1080p (60p[59.94Hz]) の規格が無いため)。ISDB-T の一般的な放送では 1080i を使用するため初期設定は「ON」に設定しています。

OFF : 「1080p (60p[59.94Hz])」を「1080p[30p]」に変換して出力します。
ON : 「1080p (60p[59.94Hz])」を「1080i」に変換して出力します。



※受信機の機種によっては地デジでの 1080p 入力に対応しない機種があります (表示しない、または音声しか出力しないなど)。
対応できない受信機で弊社が確認している機種に関しては、107 ページに記載されています。これらの受信機をご利用の際は、本設定を必ず「ON」にしてください。

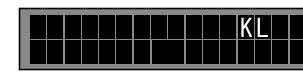
※ W チューナー (または二つ以上のチューナー) を搭載した受信機を使用した場合、複数あるチューナーの内、一つは 1080p (30p) での受信が可能です。他のチューナーでは 1080p (30p) の受信ができない場合があります (受信機の仕様上の制限と思われる)。ユーザーは複数のチューナーの内、使用するチューナーを選べないため表示できないことがあります。このような受信機では本設定を常に「ON」でご利用ください。

Key_Lock (キー・ロック)

「Key_Lock」は、本体のボタン操作ができないようにする機能です。
間違ってボタンに触れるなどの誤操作を防止する目的で使用します。
むやみに使用すると「故障」と勘違いする場合もあるため、ご注意ください。

Off : キー・ロックを使用していない状態です。

On : キー・ロックを使用します。本体のボタンでメニューなどを操作できなくなります。なお、キー・ロック中は、本体の液晶画面に、「KL」と表示されます。メニューを終了するとキー・ロックが動作します。



キー・ロック動作中は本体液晶ディスプレイに「KL」の文字が表示されます。

※ 「KL」は「CP (著作権保護)」のメッセージ表示と同じ場所に表示されます。HDMI 入力信号にコピープロテクトが有る場合は、「CP」の表示が優先されるためキー・ロック中でも「KL」は表示されません。

<キー・ロックの解除方法>

キー・ロックを解除するには、本体の「メニュー」ボタン、または「OK」ボタンを約 3 秒間押し続けてください。

設定メニューの機能

Encode_Delay (エンコード・ディレイ)

「Encode_Delay」は、HDMI映像をMPEG-2に圧縮する際の時間(どれくらいの時間をかけて映像を圧縮作業するか)を設定できます。数値が高くなれば、圧縮に余裕があるため映像が滑らかになります。映像や音声の遅延が多くなります。

逆に数値が低くなれば、圧縮に余裕がなくなるため(バッファータを取りたいため)全般的に映像に滑らかさが失われ、がたつきなどが発生しやすくなります。

ただし、映像や音声の遅延が少なくなります。

調整にはMPEG-2に関する詳しい知識が必要です。



参考：むやみに設定を変更すると、テレビの機種によっては映らなくなったり、映像が点滅するなどの症状が発生する場合があります。通常は「40」でご使用ください。

<画質調整機能はございません>

XHEAD-2は、ファームウェア Ver.1 では、MPEG-2エンコード時の画質調整機能を搭載しておりましたが、Ver2以降では削除いたしました。Ver2以降では、エンコード画質を改良したため、画質調整機能は不要と判断しました。本製品での画質調整機能は「ディレイ (Encode_Delay:エンコード・ディレイ)」のみとなります。

STREO/BILINGUAL (ステレオ/バイリンガル)

「STREO/BILINGUAL」は、音声方式を選択する機能です。



STREO：音声を「ステレオ」モードで送出します。

BILINGUAL：音声を「二か国語」モードで送出します。

「日本語+英語」の様なコンテンツで利用します。

テレビなどのリモコンで、音声切り替えができるようになります。

※入力される音声ソースが「二か国語」に対応している必要があります。

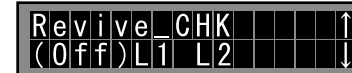
設定メニューの機能

Revive_CHK (リヴァイヴ・チェック)

XHEAD-2に入力されるHDMI信号が、信号元の機器の不調や停電、ケーブルの接触不良などによって瞬間的に途切れたとき、再度入力されたHDMI信号を正しく認識できず放送データの送出が正しく行われなくなる場合があります。「Revive_CHK」は、これらの症状が発生した際、強制的に再起動し放送を復旧する機能です。

<ご注意>

「Revive_CHK」は、ケーブル類の接続や、すべての設定が完了し、正しく映像が送出されていることを確認した後に設定してください。それ以前に設定すると、ケーブル類の接続中や、操作中にXHEAD-2が再起動を繰り返してしまう場合があります。



off：信号の瞬断確認を行いません。安定した信号源で、静止画が多い映像向けです。
L1：信号の瞬断確認を行い、映像が正しく入力されていないとき強制的に再起動します。画面が一色で2分以上表示され続けると再起動します〔初期設定〕。
L2:L1の設定でも改善できない場合の設定です。静止画が2分以上続くと再起動します。

※本機能は、Webサーバーからは操作・設定できません。

※「Revive_CHK」の設定が「Off」でも、入力信号に頻繁に異常が確認された場合はXHEAD-2が再起動することがあります。

Color_Bar (カラー・バー)

XHEAD-2に映像信号が入力されないときに表示される「カラー・バー」を表示するかどうかを設定する機能です。

AndroidTV機能を搭載した一部の家庭用テレビで、XHEAD-2のカラー・バーが表示されていると、「特定の条件下でテレビが再起動を繰り返す」相性が発生しており、これらの症状を回避するために付けられた機能です。

通常は「On:カラー・バーを表示」です。

もし、「テレビが再起動を繰り返す症状」が発生したり、「テレビがカラー・バー映像を正しく表示できない場合」は「Off:カラーバーを非表示」に設定してください。なお、設定を変更した際は、必ずXHEAD-2の電源ボタンを使用して、XHEAD-2を再起動(「電源オフ(待機)」→「電源オン(入)」)を行ってください。



On：映像入力が無い時に、カラー・バー映像を表示(送出)します。

Off：映像入力が無い時に、カラー・バー映像を表示しません。RF信号が送出されません。

※本機能は、Webサーバーからは操作・設定できません。

※設定後の再起動の操作は、必ず「本体の電源ボタン」を使用して再起動操作を行ってください。

なお、電源ケーブルを挿抜するような再起動は絶対におやめください。

※電源ボタンが動作しないときは「Option」-「Power_Set」の設定を確認してください。

設定メニューの機能

Maintenance (メンテナンス)
メンテナンスの設定

「Maintenance」には、設定を初期化するなどの特殊な機能があります。

OFDM_Reset (オー・エフ・ディー・エム・リセット)

「OFDM_Reset」は、「Broadcast」、「EPG」、「CopyProtection」に関する設定、及び、Option内の「1080P_to_I」、「Encode_Delay」を工場出荷時の設定に初期化することができます。

OFDM_Reset
(Cancel)Ok

Cancel: リセットを中止します。

OK: リセットを実行します。

NETWORK_Reset (ネットワーク・リセット)

「NETWORK_Reset」は、「Network」、「Option (1080P_to_I、Encode_Delay、Key_Lockを除く)」の設定を初期化することができます。

NETWORK_Reset
(Cancel)Ok

Cancel: リセットを中止します。

OK: リセットを実行します。

All_Reset (オール・リセット)

「All_Reset」は、すべての設定を工場出荷時の設定に初期化することができます。ただし、日時設定は初期化されません。

All_Reset
(Cancel)Ok

Cancel: リセットを中止します。

OK: リセットを実行します。

※日時の設定を初期化するときは、本体からACアダプターを取り外した後、ボタン電池を取り外してください。

※「All_Reset」は、電源起動時のボタン操作でも実行可能です。手順は「91 ページ」を参照してください。

設定メニューの機能

MaintenancePass (メンテナンス・パスワード)

「MaintenancePass」は、メンテナンス用の特殊な機能です。特殊な利用環境でのサポートが必要になった場合に使用します。

弊社の指示が有る場合のみ利用できます。

MaintenancePass

Channel_Test (チャンネル・テスト)

「Channel_Test」は、容易にRF信号の出力を確認するための機能です。

テレビの持つ「信号レベル測定 (信号の受信検査)」機能や「信号測定器」などを組み合わせて使用します。任意のRFチャンネル(UHF帯などの物理チャンネルに)に正しくRF信号が出力されていることを簡単に確認したいときに使用します。

本機能でチャンネルを変更し「OK」ボタンを押すことで (アップロード操作無しで)、任意のRFチャンネル(VHF4～12/UHF13～62、C23～32の物理チャンネル)に放送波を一時的に出力できます。

本機能を終了すると「Channel_Set」で設定しているRFチャンネルの出力に戻ることができますが、「Upload (アップロード)」を要求されるため、必ずアップロードを行って (「OK」を選択して) ください。

Channel_Test
(13)

※「Upload (アップロード)」を実行しないと、本機を再起動するまでチャンネルが元に戻りません (「Channel_Set」で設定したチャンネルに戻りません)。このため、必ずアップロードを行ってください。

設定メニューの機能

Information (インフォメーション)
本体情報の表示

「Information」には、本体の情報や状態を表示する機能があります。

Firm_ver (ファーム・バージョン)

「Firm_ver」は、本機のファームウェアバージョンを確認することができます。



Operate_Time (オペレート・タイム)

「Operate_Time」は、本機の動作時間を確認することができます。



※動作時間は出荷されるまでの工場での検査時間や、検品の時間（及び修理を依頼した場合は修理の時間）が含まれます。

設定メニューの機能

Upload (アップロード)
OFDM IC 設定情報の更新

「Upload」は、制御 IC に関わる設定が変更された場合に使用します。

Upload (アップロード)

「Upload」は、OFDM 制御 IC に関わる設定が変更された場合に使用します。設定を OFDM 制御 IC に送信する機能です。

本機の放送にかかわる機能を設定した後は、必ず「Upload」を実行してください。

「Upload」機能はメイン・メニュー内にもありますが、本体のボタンで設定を変更した場合（Upload が必要な設定の場合のみ）、メニューを終了する際にも強制的に表示されます。

「Upload」を促すメッセージが表示されたときは「OK」を選択し本体の「OK」ボタンを押してください。アップロードが開始されます。

アップロード後は、一旦送出する信号が途切れるため、数秒間画面が点滅しますがご了承ください。

Cancel: 制御 IC へのデータ送信を中止します。

OK: 制御 IC へのデータ送信を実行します。



アップロード終了後の液晶画面の表示状態は下記のように異なります。

メイン・メニューの「Upload」を使用した場合：

アップロード後はメイン・メニューの「Upload」の項目表示に戻ります。

メニューを終了するには「メニュー」ボタンを 1 回押してください。

メニュー終了時に「Upload」を使用した場合：

アップロード後はメニューを終了した後、液晶画面右下に、しばらく「UP」の文字が表示されます。「UP」の文字が消えたらアップロード終了です。



アップロード中は液晶画面に「UP」の文字が表示されます。
「UP」の文字が消えたら作業は終了です。

※「Upload」をキャンセルすると、表示上の設定は変更されている（電源を切っても設定は残ったままとなる）が、実際には「OFDM 制御 IC に設定が反映されていない」という特殊な状態となります。この様な状態で放置するとトラブルの元となりますので、必ず Upload を実行してください。

※ Web サーバーの場合は Web ブラウザーの左上の「設定更新状況：」に「更新必要」という、「赤色の文字」のメッセージが表示されますので、更新ボタンをクリックしてください。

Web サーバーを使用するには

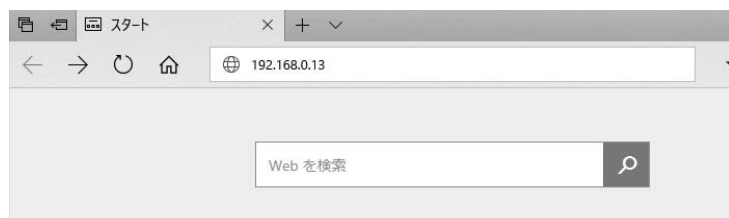
パソコンの Web ブラウザーを使用する

パソコンの場合は、市販の LAN ケーブルやスイッチング・ハブ、ルーターなどを使用し、本機の LAN 端子（イーサネット端子）に LAN ケーブルで接続することで、内蔵の Web サーバーを使用できます。

Step1: パソコンの接続方法は 40～41 ページの「方法 1」または「方法 2」、もしくは「方法 3」を参考にしてください。

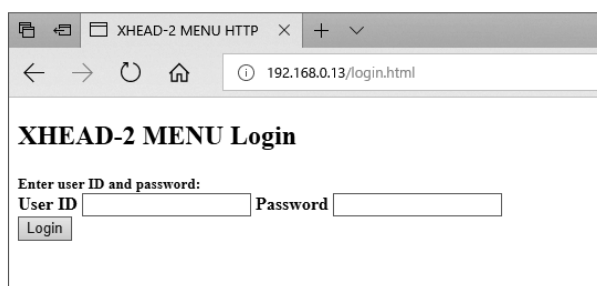
Step2: IP アドレスは XHEAD-2 本体の液晶画面の表示（42 ページ）でご確認ください。

Step3: Web ブラウザーの URL 入力欄に「192.168.0.XX」の様に XHEAD-2 の IP アドレスを入力した後、パソコンのキーボードの「Enter キー」を押します（以下は XHEAD-2 の IP アドレスが「192.168.0.13」の場合の入力例です）。



※ Microsoft 社の Web ブラウザー「Edge」を使用した場合の入力例です。

Step4: XHEAD-2 のログイン画面が表示されます。



Step5: 「UserID」と「Password」をパソコンのキーボードから入力します。

※工場出荷時のユーザー ID とパスワードは、どちらも「admin」です。

Step6: 「Login」ボタンをクリックしてログインして下さい。

※ごく希に、Web サーバーへのアクセスが正常に行えなかったり、表示のフレームが正しく表示されない場合があります。そのような時は、再度 Web サーバーへアクセスし、Web ページをリロードしてください。

Web サーバーを使用するには

「Login」が成功すると、以下の Web ページが表示されますので、設定の項目をマウスでクリックし、設定内容を変更してください。



各機能を設定した後は、必ず Web ページ左上にある「設定変更状況」を確認してください。「更新必要」と赤い文字で表示されている場合は、必ず「XHEAD-2 に設定を転送」ボタンをクリックしてください。

設定変更状況：更新必要

XHEAD-2に設定を転送

※「XHEAD-2 に設定を転送」ボタンは、ほとんどの設定変更でクリックする必要があります。設定を変更する度に「更新必要」の赤い文字を確認するようにしてください。設定を変更した場合は、「各項目の[設定]ボタン」→「XHEAD-2 に設定を転送」ボタンの順にクリックし、設定を XHEAD-2 本体に転送してください。

Web サーバーを使用するには

スマートフォンの Web ブラウザを使用する

スマートフォンなどの携帯端末は、有線で LAN に接続できない場合が多いため、XHEAD-2 の接続（有線接続）された LAN 環境と、それらを経由している無線 LAN（WiFi 対応の無線 LAN 対応ルーターなど）が必要です。

IP アドレスのご利用は、DHCP をお勧めします。

接続方法は 40～41 ページの「方法 1」または「方法 3」を参考にしてください。

以下は接続完了後の操作です。

Step1 :

スマートフォンを WiFi 接続可能な状態にします。

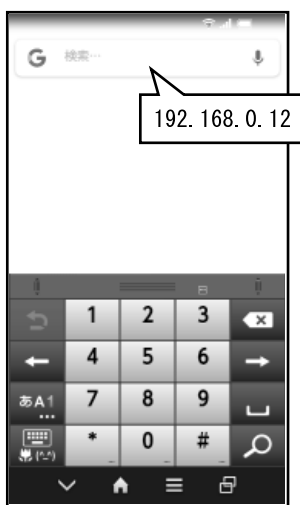
Step2 :

XHEAD-2 の IP アドレスを確認します(42 ページの本体液晶表示で確認可能です)。

Step3 :

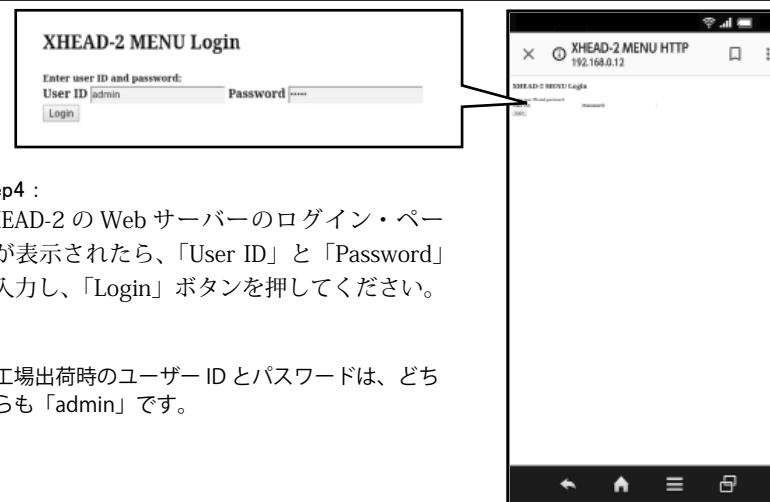
スマートフォンやタブレット端末の Web ブラウザの「URL 入力欄」、または「検索」の欄に XHEAD-2 の IP アドレスを入力します。

下記では XHEAD-2 の IP アドレスが「192.168.0.12」として説明します。



次ページへ

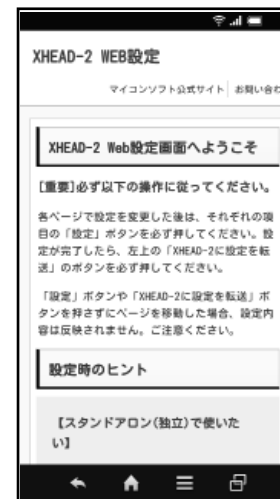
Web サーバーを使用するには



Step4 :

XHEAD-2 の Web サーバーのログイン・ページが表示されたら、「User ID」と「Password」を入力し、「Login」ボタンを押してください。

※工場出荷時のユーザー ID とパスワードは、どちらも「admin」です。



Step5 :

ログインが成功すると、「XHEAD-2 WEB 設定」のページが表示されます。

各機能を設定した後は、必ず「設定変更状況」を確認してください。「更新必要」と赤い文字で表示されている場合は、必ず「XHEAD-2 に設定を転送」ボタンをクリックしてください。

設定変更状況：更新必要

XHEAD-2に設定を転送



Step6 :

画面を下にスクロールさせ、操作したい「設定」をタップして設定作業を行ってください。

電子番組表の機能

XHEAD-2 は、地デジ放送の機能である電子番組表に対応しております。本機の電子番組表は簡易的なものですが、時間割は任意で調整できます。使用しているチャンネルの状態確認や、録画の開始などに利用できます。

電子番組表の表示例



※番組表の表示方式は受信機のメーカーや受信機の種類によって異なります。放送局が一つしかない場合でも、同じ放送局がたくさん表示される場合があります。
※最初の番組は本機が起動された時が開始の時間となります。

電子番組表に依存する録画時間の制限

ビデオレコーダーなどでは「6～8時間」以上の放送は録画ができないなど、メーカーの違いや、設計された世代によって制限があります。

これらの制限に対応するため、本機には「電子番組表 (EPG)」の番組の区切りを「Event_Time」で1～3時間程度に指定することをお勧めします。ご利用のレコーダーの制限にあわせて変更してください。

※録画中はXHEAD-2の設定を変更したり操作しないでください。

※録画の開始・終了及びその他の録画に関する機能や操作は受信機の機能に依存します。

※番組表の時間割り「Event_Time」の操作方法に関しては78～79ページをご覧ください。

電子番組表の機能

受信機で録画した番組を再生するには

受信機 (ビデオレコーダーなど) で録画された番組は、受信機の再生機能 (録画一覧など) から再生することができます。再生方法は受信機ごとに異なるため、受信機の取扱説明書をご覧ください。

録画した番組の取り扱いに関して (ダビングなど)

自主放送用の番組であっても、録画した番組を商業利用したり不特定多数の人や法人に配布する場合、またはインターネットなどで公開する場合は、映像や音声ソース元の著作権者に許可を得た上で、取り扱ってください。法律の範囲内で慎重にご利用をお願いいたします。

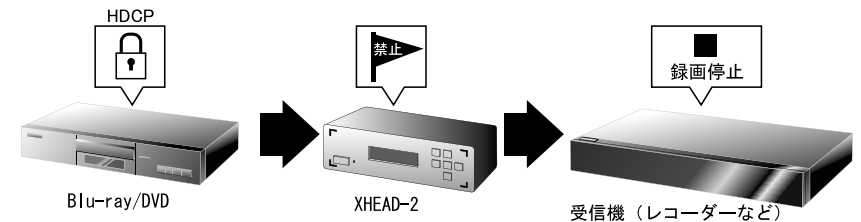
※ゲームの映像・音楽に関してもメーカーの意向や指針があるため、必ずご確認ください。

録画できない番組や録画が中断される番組があります

本機の自主放送の中には、受信機で録画できない番組があります。

例えば、XHEAD-2 に Blu-ray プレイヤーやレコーダー (DVD 含む) の映像を入力している場合です。これらの機器の映像出力は常に著作権保護 (HDCP) が「有効」の状態です。このため、ソース映像の著作権保護の有無にかかわらず、RF 信号に自動で録画禁止情報が付加されるため録画はできません。

また、録画開始時に著作権保護が無い場合でも、途中から著作権保護が加えられ場合は、受信機の機能によって録画が中断 (または一時停止) されます。



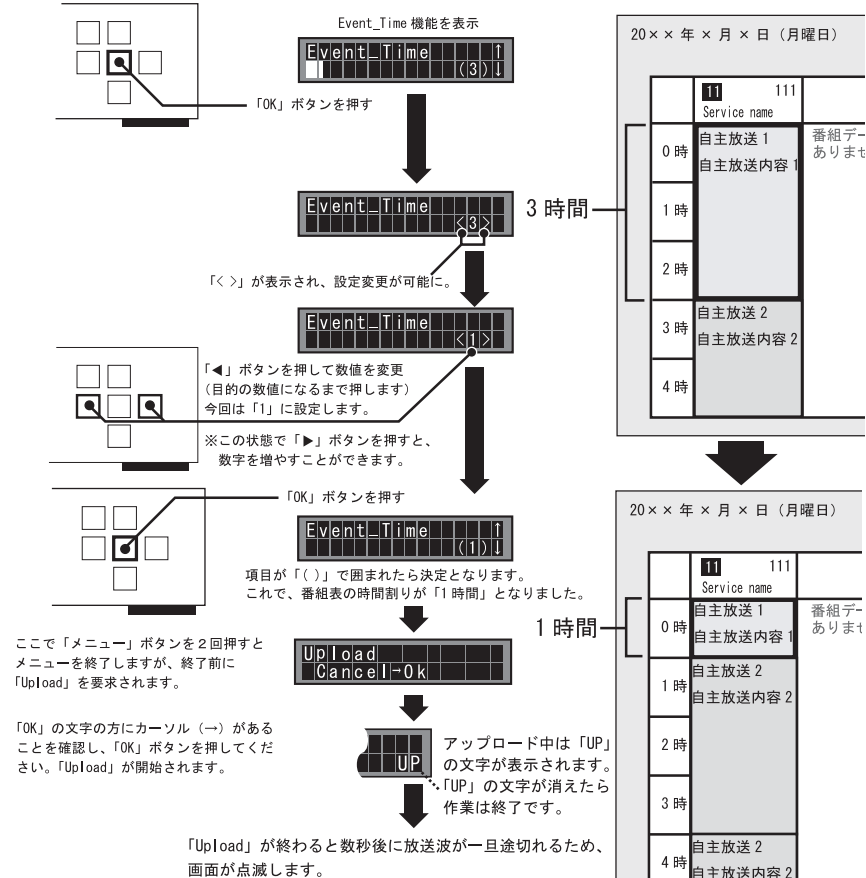
※ Blu-ray/DVD プレイヤー (及びこれらの機能を内蔵する AV 機器)、PlayStation3、ChromeCast、AppleTV、スマホ映像などは常に著作権保護が「有効」であるため、視聴はできますが、録画はできません。パソコンの場合は Blu-ray/DVD 再生時などに著作権保護が「有効」となります。
※ビデオレコーダーなどの地デジチューナーや BS/CS チューナーを使用して HDMI 経由で入力した場合も、ビデオレコーダーなどの著作権保護が「有効」であるため、録画禁止となります。
※著作権保護の無い HDMI 信号が入力された際に著作権保護を追加するには、63 ページの「CopyProtection」を参照してください。

※録画中に映像ソース (元映像の信号) が、なんらかの原因で乱れる、または瞬間的に途切れるなどした場合は録画が中断されます (ビデオレコーダーの機種により動作が異なります)。

電子番組表の機能

電子番組表 (EPG) の時間割りを変更してみよう

実際に本機のボタンを操作し、電子番組表の時間割り「Event_Time」を変更してみましょう。下記は「3時間 (初期設定)」の番組を「1時間」に変更する例です。下記の手順で設定を変更し、テレビやビデオレコーダーの電子番組表を確認してみてください。



※Upload後の液晶画面の表示は「メニュー終了時に要求されるUploadではメニューが終了します」、
「メインメニューのUploadを使用した場合は「UP」は表示されず「Upload」の項目表示に戻ります」。

※同様の操作で、「Event_Time2」も設定可能です。
※これらの設定はWebサーバーから行うこともできます。

電子番組表の機能

電子番組表に依存する録画の欠点と解決案

ビデオレコーダーの機種によっては、ビデオレコーダーのリモコンの「録画ボタン」を押すことで長時間でも録画できる機種もありますが、多くの機種では、「録画ボタン」が押されてから、電子番組表にある番組の終了時刻に録画を勝手に終了します。

このため、「今から1時間録画したい」と思っても、番組の残り時間が、後30分しか無い場合は、30分しか録画できないことになります。

これは、現在ご利用になっているビデオレコーダーなど受信機の仕様による正しい動作であることをご了承ください。

本機のようなOFDM装置は「時間割り=映像の送出期間」ではないために、この様ない違いが発生します。

なお、本機を操作可能な場合は、事前に録画したい時間や期間を決めておき、録画前に「Event_Time」で時間割りを変更することで、録画時間(期間)を設定する方法もあります。手間はかかりますが一つの解決方法です。

変更したはずの時間割りが更新されないときは？

電子番組表 (EPG) にかかわる設定を変更する際、信号を受け取るタイミングによっては、受信機の電子番組表が更新されない場合があります。

または、受信機の機種によって更新に時間がかかる場合があります。

このため、現在テレビなどに電子番組表を表示している場合は、設定変更後に一旦テレビ画面に表示している電子番組表の表示を終了し、再度番組表を表示してみてください。なお、それでも時間割りが更新されない場合は受信機を再起動してください。

「番組名+日時」で、何時放送の番組か分かる様にする

本機の場合 EPG 上の「番組名」は「自主放送」などの固定表示となり、ビデオレコーダーなどによる録画の際に録画した番組のタイトルが、すべて同じになってしまいます。

これを改善するために、「番組名」に番組開始の「日・時・分」を追加する機能があります。時間割りに基づいて自動作成される番組名の後に「日時」が自動で追加されます。

これにより、いつ放送・録画された番組か判別できるため、管理しやすくなります。この機能を利用する際は「EPG_REC_MARK (54 ページ)」を参照してください。

日時設定の手順

下記では、代表的な日時設定の方法を解説いたします。お客様の利用環境やお持ちの機材にあわせ、利用しやすい方法で設定してください。

日時は XHEAD-2 にボタン電池を挿入した後に設定してください。

本体のボタンを使用し、メニューから設定する (パソコンやスマートフォンの Web ブラウザーを使用しない)

設置する場所に、ネットワーク環境やインターネット環境はあるが、Web サーバーを利用するパソコンや携帯端末がない場合は、本体の液晶画面を見ながら、ボタン操作で設定が必要となります。

なお作業の際は、確認用に正確な時刻の時計をお手元にご用意ください。

※ボタン電池の寿命などで電池を交換する場合は、日時設定が初期化されます。この様な時は再度日時の設定が必要となります。

LAN を利用し NTP サーバーで自動設定する (推奨) (パソコンやスマートフォンは無いが、ネットワーク環境がある場合の設定)

本機の設置場所にインターネット環境がある場合は、LAN 経由で NTP サーバーと日時を簡単に同期することができます。

市販の LAN ケーブルを使用し、本機の LAN 端子 (イーサネット端子) とインターネットに接続されているスイッチング・ハブやルーターに接続してください。

接続方法は 40 ページの「方法 1」を参考にしてください。

念のため、メニューを操作し「Date/Time_Set」内の「Time_Set」の設定が「Server」に設定されていることを確認してください。



「Server」であることを確認

インターネットとの通信が正しく行われていれば、数分以内に日時が自動で更新されます。本体の液晶画面で確認してください (液晶画面に、日時を表示する方法は 42 ページ参照)。

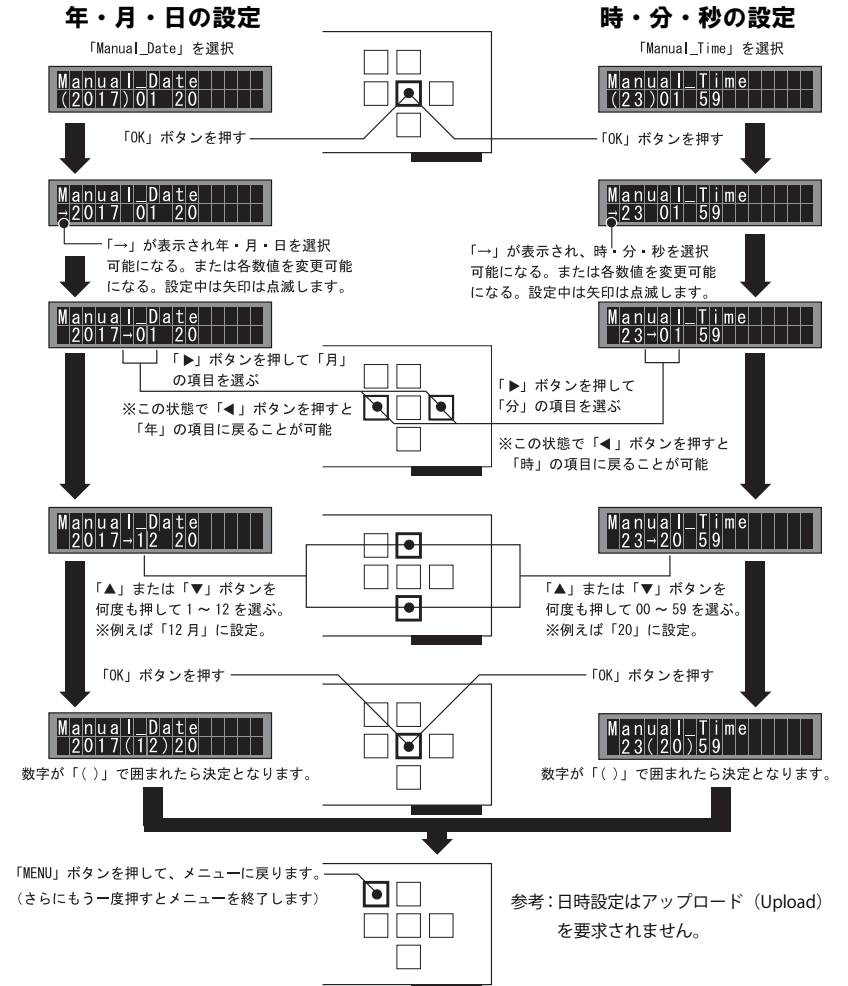
※ NTP サーバーの日時が反映されるためには数分かかる場合があります。
 ※ NTP サーバーは約一時間おきに日時の再確認作業を行います。
 ※標準の NTP サーバーで、いつまでも日時が反映されない場合は、他の NTP サーバーもお試しください (NTP サーバーの設定方法は 86 ~ 89 ページをご覧ください)。また、ネットワーク環境が特殊な場合は、ネットワーク管理者に相談してください。

日時設定の手順

■本体のボタン操作で、メニューから手動設定する。 (パソコンやスマートフォン、ネットワーク環境がない場合の設定)

本体のボタンで設定するには、数字を一字ずつ入力する必要があり、たいへん手間が掛かりますが、下記の操作を参考にして入力してください。

まず、メニューの「Date/Time_Set」内の「Time_Set」の設定を「Manual」に設定し「OK」ボタンを押します。その後、「Manual_Date」または「Manual_Time」を選択、OK ボタンを押し、下記の手順で日時を変更してください。



※時刻設定は、規定により実際の時刻と自主放送との差異が「± 500 ミリ秒 (0.5 秒)」以下でなければいけません。

日時設定の手順

パソコンや携帯端末の WEB ブラウザーから日時を転送する (パソコンやスマートフォンの Web ブラウザーを使用する)

インターネットに接続されていないネットワーク環境（または常時接続されていない）でも、LAN や WiFi 接続が可能であればパソコンやスマートフォンの日時情報を転送して設定することができます。

なお、ネットワーク環境に MAC アドレスによるアクセス制御を行っている場合はアクセスできないため、あらかじめネットワーク管理者に相談してください。

■ WEB ブラウザーで設定する（パソコンの日時を転送する） (パソコンや携帯端末と、設定のためのネットワーク環境はあるが、NTP サーバーを使用したくないとき [またはインターネットに常時接続したくない場合])

<パソコンの場合>

市販の LAN ケーブルを使用し、本機を接続してください。

- 接続方法は 40～41 ページの「方法 1」または「方法 2」もしくは、「方法 3」を参考にしてください（「方法 2」の場合は、手動でパソコンと XHEAD-2 の IP アドレスを設定してください。DHCP は使用できません）。
- IP アドレスは XHEAD-2 の液晶画面の表示（42 ページ）でご確認ください。
- Web サーバーへのログイン方法は 72～73 ページを参照してください。
- パソコンの日時が正確であることを確認してください。
- 次ページ（83 ページ）は接続と Web サーバーへのログインが完了した状態からの操作を解説します。

日時設定の手順

Step1: Web ブラウザーから①②③の順にクリックします。

The screenshot shows the 'XHEAD-2 WEB設定' interface. The breadcrumb is 'HOME > 日付・時刻設定'. The sidebar menu includes '放送設定', 'EPG設定', 'データ放送設定', 'ネットワーク設定', '日付・時刻設定' (circled 1), '著作権保護設定', and 'オプション設定'. The main content area has a '設定変更状況: 更新必要' section with a circled 5 button 'XHEAD-2に設定を転送'. Below is the '日付・時刻設定' section with instructions: '※番組表や番組情報を正しく表示するために、日時の設定は必須です。' and '※各項目設定後は項目の右にある「設定」ボタンを必ず押してください。' and '※「設定」ボタンを押した後に「XHEAD-2に設定を転送」ボタンを押してください。'. The 'NTPサーバー' section has 'NTP_Server' selected and a circled 2 button '設定'. Below that, the '日時' field is set to '2019/11/11 09:58:32' with a circled 4 button '設定'. At the bottom, the 'XHEAD-2に設定を転送' button is circled 5.

Step2: 「日時」の入力値を確認し、日時が正確であることを確認してください。

Step3: ④の設定ボタンをクリックした後、⑤の「XHEAD-2 に設定を転送」ボタンをクリックします。

Step4: XHEAD-2 の本体の液晶画面を見て、日時設定が正しく変更されていることを確認してください（操作は 42 ページ「液晶画面に表示されるステータス表示」参照）。

日時設定の手順

<スマートフォンの場合>

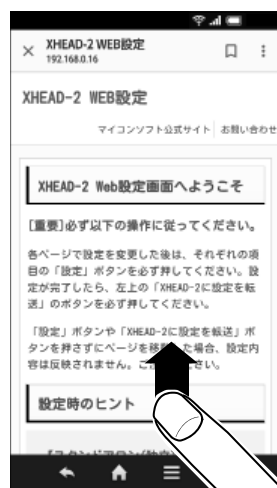
スマートフォンの Web ブラウザーを使用し、日時を設定します。

インターネットに接続されていない(または常時接続されていない)ネットワーク環境でも、LAN や WiFi 接続が可能であれば日時設定を転送して設定することができます。

なお、ネットワーク環境に MAC アドレスによるアクセス制御を行っている場合は接続できないため、あらかじめネットワーク管理者に相談してください。

- スマートフォンをご利用の場合、IP アドレスのご利用は、できるだけ DHCP での接続をお勧めします。
- 接続や操作は 40 ~ 41 ページの「方法 1」か「方法 3」を参照してください。
- Web ブラウザーへのログイン方法は 74 ~ 75 ページを参照してください。
- 下記は接続と Web サーバーへのログインが完了した状態からの操作を解説します。Step1 ~ 5 の順に操作してください。

※以下は Android 端末を使用した場合の例です。画面のデザインは OS の種類やバージョンによって異なる場合があります。

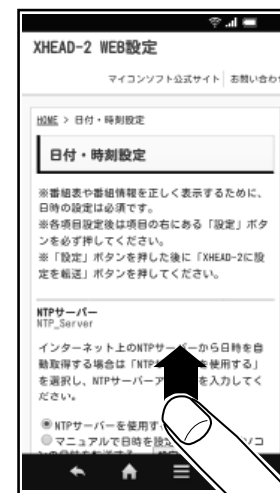


Step1 : ログインすると、「XHEAD-2 WEB 設定」のページが表示されます。ページを上方向にスクロールしてページを下に移動します。



Step2 : 「設定」の一覧から、「日付・時刻設定」の項目①をタップしてください。

次ページへ

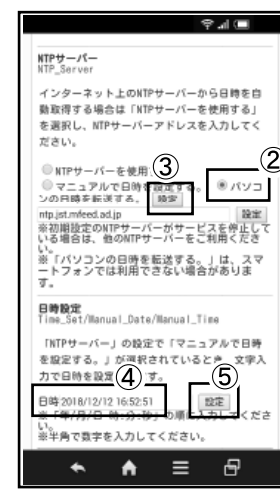


Step3 : 「日付・時刻設定」のページが表示されます。ページを上方向にスクロールしてページの下に移動します。



Step5 : ページを上方向にスクロールしてページを下に移動します。「XHEAD-2 に設定を転送」ボタン⑥をタップ。

日時設定の手順



Step4 : 「PC で日時を設定する」②をタップ。「設定」ボタン③をタップ。④の覧に正確な日時が表示されていることを確認。「設定」ボタン⑤をタップ。

※③や⑤の設定ボタンを押すとページがリロードされるため、ページの先頭が表示されます。ページをスクロールさせ、操作を続行してください。



XHEAD-2 本体の日時の表示を見て、スマートフォンの日時と同じであることを確認します。

NTP サーバー設定の変更方法

本機の NTP サーバー（時刻サーバー）には代表的な NTP サーバーが設定されておりますが、任意で NTP サーバーのアドレスを変更することもできます。

通常は初期設定の NTP サーバーをご利用いただきますが、NTP サーバー側のシステム変更やサービスの停止があった場合、別の NTP サーバーに接続したい場合は、IP アドレスや URL を変更する必要があります。

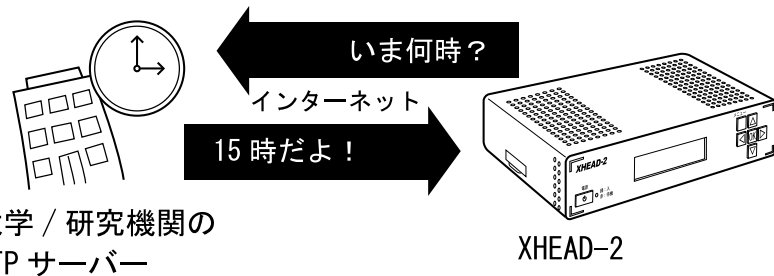
< NTP サーバーとは >

NTP とは、「Network Time Protocol」の略称で、日付や時刻をネットワーク経由で送信する方式のことです。NTP を提供するインターネット上のサーバーの事を、「NTP サーバー」と言います。

NTP サーバーは一部の大学や研究機関などが独自のシステムサーバーを設置して運営しているサービスです。

NTP サーバーは複数存在しており、電子機器の日時の同期に便利です。

ただし、NTP サーバーの運営側は、なんら責務はないため、運営側の都合でサーバーを停止したり URL や IP アドレスが変更される場合があります。その際は XHEAD-2 の NTP に関わる設定を変更するなどしてください。



< インターネットへの接続環境や LAN 環境が必要です >

NTP サーバーをご利用になるためにはインターネットの接続サービスや通信サービスを利用する必要があります。これらの通信サービスにかかる費用は別途必要となりますのでご了承ください。なお、長期間正確な日時を安定して維持するにはインターネットへの常時接続をお勧めします。

NTP サーバー設定の変更方法

■ Web サーバーを使用して NTP サーバー設定を変更する

ご利用の環境で LAN などのネットワーク接続がある場合は、本機の Web サーバーを利用して、Web ブラウザーで設定変更することができます（接続方法は 40～41 ページ参照）。

パソコンやスマートフォンの Web ブラウザーを利用します。

※スマートフォンの場合は無線 LAN（Wi-Fi）しか利用できないため別途無線 LAN 対応ルーターやポータブル・ルーターなどが必要です。

< パソコンの Web ブラウザーを使用する >

Step1 : ①②の順にマウスでクリックします。

Step2 : 初期設定とは異なる NTP サーバーを使用する場合は③の入力欄をマウスでクリックして、キーボードから新しい URL を入力し、④のボタンをクリックします（NTP サーバーに変更がない場合は「Step2」の操作は不要）。

Step3 : ⑤の「XHEAD-2 に設定を転送」ボタンをクリックします。

XHEAD-2 本体の液晶表示などで日時が正しく更新されたことを確認してください。

※本体の液晶表示で日時を確認する方法は、42 ページの「液晶画面に表示されるステータス表示」をご覧ください。

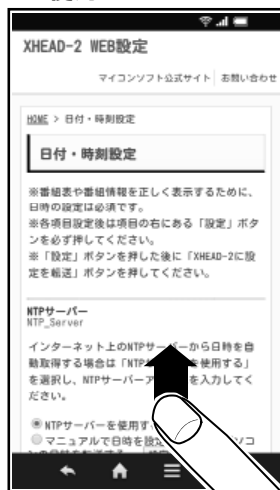


NTP サーバー設定の変更方法

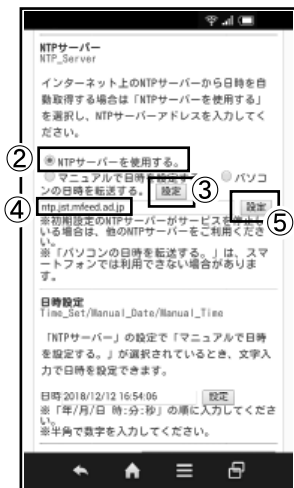
<スマートフォンの Web ブラウザーを使用する>



Step1: ①をタップします。



Step2: ページを上方向にスクロールし、ページを下に移動します。



Step3: ③をタップします。

Step4: ④をタップしてスマートフォンの文字入力で新しい URL を入力し⑤をタップします (NTP サーバーに変更がない場合は④⑤の操作は不要)

※③や⑤の設定ボタンを押すとページがリロードされるため、ページの先頭が表示されます。ページをスクロールさせ、操作を続行してください。



Step5: 画面を下にスクロールさせ「XHEAD-2に設定を転送」ボタン⑥をタップしてください。XHEAD-2がNTPサーバーから日時を取得するまでしばらく待つてから、本体の液晶表示で日時の更新を確認してください。通常は数分以内に日時が更新されます。

NTP サーバー設定の変更方法

■本体の液晶ディスプレイとボタンで NTP サーバー設定を変更する

パソコンやスマートフォンが手元に無い場合は、本体のボタンから直接サーバー名を設定することもできます。

ただし、文字や数字を一文字づつ入力する必要があり、たいへん手間が掛かりますが、44～45ページの操作(設定を変更してみよう2(「文字入力型」)の機能の設定を変更する))を参考にして入力してください。



NTP サーバーの URL

※初回に NTP サーバーからの日時が反映されるためには数分かかる場合があります。

なお、NTP サーバーによる設定は、一度設定されると、約 1 時間後に時刻の再確認を行います。なんらかの理由で NTP サーバーの日時情報を早急に再設定したい場合は、一旦本機の AC アダプターを取り外した後、再度接続し、本機を再起動してください。

※ネットワーク接続が正常であるのに、標準の NTP サーバーで、まったく日時が反映されない場合は、NTP サーバーが何らかの原因で休止している可能性があります。

このような時は、他の NTP サーバーの使用をご検討ください。

工場出荷時設定

メニュー操作による初期化方法

本機の設定変更を購入時の状態に戻したいとき、各機能ごとに初期化していると、たいへん時間や手間がかかります。

このため、本機には特定の機能に関する機能をまとめて初期化したり、すべて初期化する機能があります。

<放送設定のみを初期化する>

設定メニューの「Broadcast」、「EPG」、「CopyProtection」階層にある設定、及び Option 内の「1080P_to_I」と「Encode_Delay」の設定を工場出荷時の設定に初期化（リセット）するには「Maintenance」－「OFDM_Reset」を使用してください。「OFDM_Reset」の機能に関しては 68 ページも参照してください。

<その他の設定を工場出荷時の設定に初期化する>

設定メニューの「Network」、「Date/Time（日時設定を除く）」、「Option（1080P_to_I、Encode_Delay、Key_Lock を除く）」の階層にある設定を工場出荷時の設定に初期化（リセット）するには、「Maintenance」－「NETWORK_Reset」を使用してください。

「NETWORK_Reset」の機能に関しては 68 ページも参照してください。

※ネットワークに関わる設定もすべて初期化されるため、Web サーバー機能をご利用の場合はご注意ください。

※ログイン ID やパスワードを変更している場合は「admin」に初期化されます。

※「NETWORK_Reset」実行後は本機が再起動されます。

<すべての設定を工場出荷時の設定に初期化する>

「Maintenance」－「All_Reset」を使用してください。

ネットワーク設定を含め、日時設定以外のすべてを工場出荷時の設定に初期化します。「All_Reset」の機能に関しては 68 ページを参照してください。

※「All_Reset」実行後は本機が再起動されます。

※「Operate_Time」は初期化されません。

※日時設定は初期化されません。初期化したいときは、AC アダプターを取り外した状態で、本体からボタン電池を取り外して下さい。

工場出荷時設定

起動時の特殊なボタン操作

本機には、メニュー操作以外でも設定した内容を、工場出荷時の設定に初期化する（リセットする）ことができます。

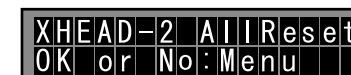
本機の電源が「切（オフ）」の状態（AC アダプターが接続されておらず通電されていない状態）から、下記操作を行ってください。

<設定を工場出荷時の設定に初期化する>

Step1：「OK ボタン」と「▼ボタン」を押しながら本体に AC アダプターを接続し、通電させてください。

Step2：「3 秒程度」経過したら「OK ボタン」と「▼ボタン」から指を離してください。

Step3：本体の液晶画面に下図のメッセージが表示されたら「OK ボタン」を押してください（参考：「Menu ボタン」を押すと初期化を中止できます）。



Step4：初期化が開始されると、下図のメッセージが表示されます。



Step5：初期化が終了すると、本体の電源が「スタンバイ（待機）」または「入（オン）」となります。

※初期化後の電源状態は、初期化前に「スタンバイ（待機）」または「入（オン）」であるかによって異なります。

初期化前に「スタンバイ（待機）」である場合は、「スタンバイ（待機）」となります。

初期化前に「入（オン）」である場合は、「入（オン）」となります。

※初期化を行うとネットワークの設定やパスワードなど、時刻以外のすべての設定が初期化されます。

※日時を初期化したいときは、AC アダプターを取り外した状態で、本体からボタン電池を取り外して下さい。

RF 信号の混合における留意点

RF 信号の混合は本製品のサポートに含まれないため、ご利用の際はお客様の自己責任となります。弊社ではお客様の設備に関してアドバイスは致しかねます。

なお、以下は一般的な RF 信号の混合における知識として参考までにご覧ください。よくあるお問い合わせに対して記載いたします。

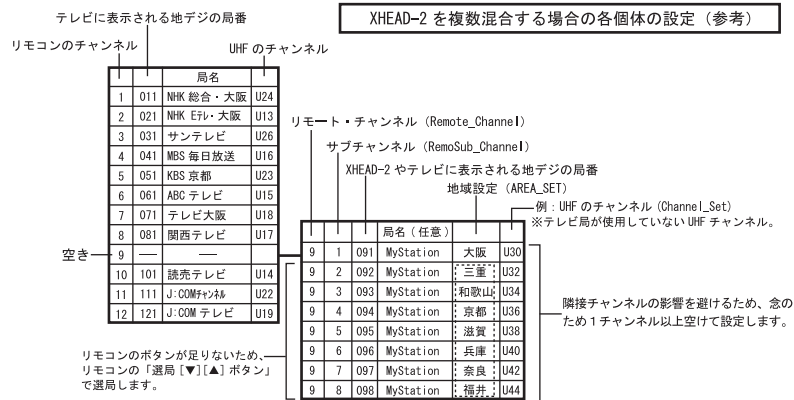
■何台まで混合できますか？

地デジ放送も混合したいのですが。

都心の一部を除き、多くの地域では受信機のリモコンの 1～12 の番号ボタン（チャンネル）に、少なくとも 1 チャンネルの空きがあります（これらに空きがない場合、XHEAD-2 は利用できません）。

下記は大阪地域でケーブルテレビのサービスが存在する地デジ放送のチャンネルを例に設定を行ってみます。XHEAD-2 はマルチチャンネルが使用できないため、サブチャンネルを使用した場合も 1 チャンネルのフルセグ放送（HD 放送）となります。

例えば XHEAD-2 を 8 台混合する場合は、少なくとも「1 個以上のリモート・チャンネル（リモコンの 1～12 の番号ボタンのうち、1 個以上）の空き」と、「8 局分の物理チャンネル（UHF/CATV チャンネル帯）の空きチャンネル」が必要です。下図の場合リモコンの「9」が空いていたため、サブチャンネル機能を活用し、8 台を混合できました。



092～098 は受信機の設定とは異なる「地域」を XHEAD-2 に設定する。
受信機のチャンネルスキャンで、うまく受信できない場合は、「地域」を変更するなど「試行錯誤」しながら、受信機のチャンネルスキャンを繰り返してください。
(受信機のチャンネルスキャンは「チャンネルの追加」ではなく必ず「全帯域のスキャン」または「UHF 帯のスキャン」で行ってください。)

- できるだけ、1 台の混合器で複数 RF 信号を混合できる混合器（4 入力 1 出力や 8 入力 1 出力の様な製品）を使用した方が、ノイズ混入や配線上のトラブルを低減することができます。
- アンテナ工事に実績のある設備業者様に相談しましょう。
マンションやホテルなどでご利用いただく際は地デジ信号と混合する場合は電子機器を取り付けるだけの技術では設置できません。必ずアンテナの測定器を持参・使用（検波）できる経験豊富なアンテナ設備業者様にご相談ください。なお、費用は別途かかるものとお考え下さい。
- アナログ放送の配線設備では対応できません。必ずデジタル化が完了している建物である必要があります（ケーブルの品質や設備設計がデジタル放送に対応している必要があります）。
- 館内に、すでに共聴システム（他社 OFDM）がある場合は本機と混在できないことがあります。
- 他社の OFDM や既存の地デジ放送局のサブチャンネルに XHEAD-2 を増設することはおやめください。
- VHF 帯は現在テレビ以外の通信で利用されておりますので、地デジと混合する場合は利用できません。

RF 信号の混合における留意点

■具体的にどんな混合が可能ですか？

RF 信号の混合は、原則設置場所の設備や配線品質及び、RF 信号の品質に影響されるため、どの様な接続が可能で、どの様な配線が不可能なのか？は明確にお答えできません。混合器が増えると混合が難しくなってきます。

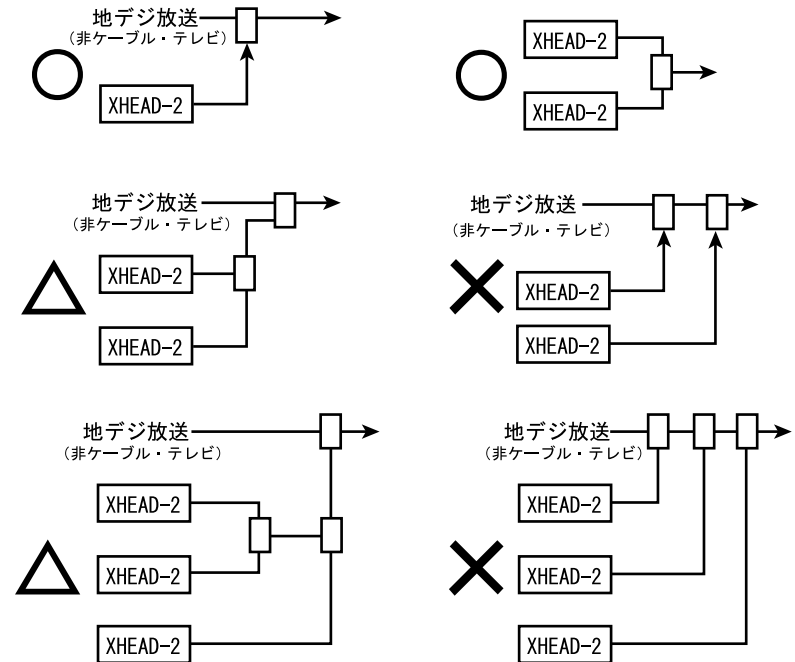
下図の配線図は、あくまでも説明用として参考までにご覧ください。

(簡易的な図であるためアンプやノイズ・フィルターは記載していません)

- ：ほぼ問題無くご利用いただけると思われまます。
- △：信号レベルの低下やノイズの増加が懸念されます。映らないない場合があります。専門の技術者が測定器を使用して調整・配線設計してください。
- ×：混合器が増えるため、信号レベルの低下やノイズの増加が懸念されます。全く映らなかつたり、特定の受信機や配線で映らない恐れがあります。この様な接続はお勧めできません。配線設計や技術者の技能によって映る場合はありますが、安定した長期運用には不安が残ります。

※本機を複数使用して混合するときは、複数の混合器を使用するよりも、1 台の混合器で複数 RF 信号を混合できる混合器を使用した方が、ノイズ混入や配線上のトラブルを低減することができます。

※地デジ放送の信号品質も影響します。



■どんな混合器を使用すれば良いですか？

具体的な製品名は提示できませんが、日本の大手アンテナ・メーカーの製品をご利用ください。また、地デジ対応の製品であることを確認してください。なお、複数 RF 信号を混合する場合は 1 台で複数混合できる混合器が便利です。

RF 信号の混合における留意点

■ Station Id (地域事業者識別 ID [ステーション ID]) とは何ですか？ 何番を使用すれば良いですか？

Station Id はチャンネルと同様に、他の放送と重複してはいけなな番号です。しかし、Station Id は地デジ・チャンネルや RF チャンネル (リモート・チャンネル) の様に公開されているものではありません。下記の様にご対応ください。

- ① 「XHEAD-2」と「受信機」を1対1 (閉じた環境) で接続する場合
→ 「14」
- ② 地デジ放送を混合しない、閉じた環境で「XHEAD-2」を2台以上を混合する
→ 通常は「14」だが重ならなければ他の番号でもよい。
- ③ 「地デジ (ケーブルテレビ無しの RF 信号、他社の OFDM 無し)」と「XHEAD-2 (1 台)」を混合する
→ 「14」
- ④ 「③」と同様の条件で「XHEAD-2 (2 台以上)」を混合する
→ 「14」

ただし、複数混合している XHEAD-2 の、それぞれの地域設定を異なる地域に設定する必要があります。

チャンネルスキャンで見つかる放送局の並びは受信機の機種 (チャンネル・スキャンのプリセット情報) によって異なる可能性があります。チャンネルが見つかる場合は視聴できます。見つからない場合は「地域」を別の場所に設定し、受信機のチャンネル・スキャンをやり直してみてください。詳しくは 92 ページをご覧ください。

Station Id が重複するとどうなるのですか？

XHEAD-2 を2台で混合している場合、重なった一方の XHEAD-2 のチャンネル (どちらかは分からない) を受信できなくなります (チャンネルスキャンしてもチャンネルを見つけれません)。ただし、上記④の設定 (地域を別の場所に設定) する場合はチャンネルスキャンでチャンネルを見つけられるようです。

■ 測定器は必要ですか？

混合の際は、RF 信号を検波する測定器が必要です。測定器で双方の RF 信号レベルを測定しながら作業を行う必要があります。XHEAD-2 の RF 信号レベルを、混合する場合、もう一方の RF 信号レベルと同じになる様調整する必要があります。

■ NHK などの既存地デジ放送局や、既存の OFDM の放送にサブチャンネルを追加すると映りません。

現在受信している地デジ放送 (論理チャンネル) はサブチャンネルを含め、それぞれの放送局がすでに利用している (または使用予定がある) ため、使用しないでください。XHEAD-2 を複数混合してサブチャンネルを利用する場合は、必ず XHEAD-2 (1 台目) の放送に対してサブチャンネルを追加してください。

■ 使用できる放送波の帯域に関して (VHF 帯の使用は要注意)

現在 VHF 帯はテレビ放送以外の試験電波や業務無線などに使用されているため、地デジ放送と混合される場合は、VHF 帯を使用しないでください。旧アナログ方式の OFDM で、「VHF 9ch」を使用していたお客様は特にご注意ください。

アース線を接続する

XHEAD-2 を安定して利用したい場合は、アース (接地) することをお勧めしています。

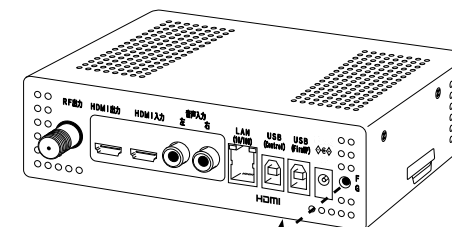
屋外の配線などから雷などの高電圧が回り込んで流入する恐れがあります。この様なとき、アース線でアース (接地) することで、本機や周辺の機器への故障・破壊などを軽減する効果があります。また電気的な動作が、より安定します。

アースの接続には下記の物が必要です

- 室内のアース端子
- アース線 (市販品：最適な長さのケーブル)
- 工具 (市販品：「+」ドライバー)

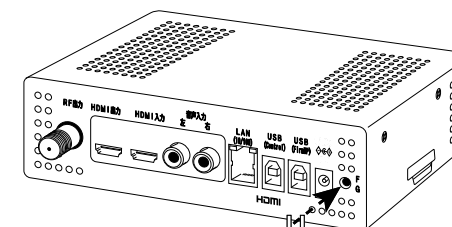
■ 本体の FG (フレームグラウンド) をアースに接続する

- 1、室内のアース端子を探します (アース端子が無い場合は利用できません)。
- 2、ドライバーを使用し、XHEAD-2 本体背面の「FG のネジ」を緩めます。



アース用ネジ

- 3、「アース用ネジ」と「XHEAD-2 本体のネジ穴 (FG)」の間に「アース線」を挟み込みます。
- 4、ドライバーを使用し、「FG のネジ」を絞めます。



アース用ネジ

アース線

仕様

本体仕様

入力	HDMI入力 (TypeA) 19pin (HDMI1.4) HDCP 1.4 映像：720x480p (59.94Hz) /1280x720p (59.94Hz) / 1920x1080i (59.94Hz) /1920x1080p (59.94Hz) RGB 8bit/YCbCr 4:4:4 8bit/YCbCr 4:2:2 8bit
	音声：リニア PCM 48kHz ステレオ (2ch) 16bit アナログ：ステレオ音声 (RCA 端子) 1 系統
出力	HDMI出力 (TypeA) 19pin (HDMI1.4) 入力からのパススルー出力 (アナログ音声は出力できません)
	RF出力 (F型コネクタ) 75 Ω 地上デジタル (ISDB-T) 任意の1ch 64 ~ 96dB μV VHF 4ch (173MHz) ~ 12ch (219MHz) C 23ch (225MHz) ~ 32ch (279MHz) UHF 13ch (473MHz) ~ 62ch (767MHz) フォーマット セグメント数：13 セグメント モード：Mode 3 キャリア変調：64QAM ガードインターバル：1/16 インターリーブ：自動切換え 符号化率：5/6 映像：MPEG-2 (Main@High) YUV 4:2:0 8bit VBR 720x480p/1280x720p/1920x1080i は入力と同じ解像度で送出。 1920x1080p (59.94Hz) は 1080i (インターレース) または 1080p (30p) に変換して送出。 音声：MPEG-2AAC LC 48kHz ステレオ (2ch) 16bit ※簡易 EPG 対応。 ※文字放送 (字幕放送) には対応しない。 ※ワンセグ放送には対応しない。 ※モノラル、サラウンドには対応しない。 ※マルチチャンネル放送には対応しない。 ※ BML のご利用には本機に対応した開発ツールが必要です。また BML で利用で きる容量には制限があります。
通信	USB 端子：アップデート専用 (CPU 用) USB2.0 (TypeB) USB 端子：制御用 (OFDM 変換 IC 用) USB2.0 (TypeB) LAN 端子 (RJ-45) 10BASE-T/100BASE-T：Web サーバー制御用
電源	DC 5V ~ 5.1V 2.3A (5.1V 時最大 11.73W) EIAJ Type2 AC アダプターより給電 時計用電池：CR2025 (3V)
寸法 / 重量	本体寸法：幅 188mm x 高さ 40.9mm x 奥行 112mm (ゴム足・端子・ボタン凸部を除く) 本体重量：約 440g (電池を除く)

※本体の重量は製造時期によって変化する場合があります。

仕様

AC アダプター仕様

電源出力	入力：AC100V 出力：DC 5.1V 2.3A (最大 11.73W) EIAJ Type2
重量	約 130g

※ AC アダプターの重量は製造時期によって変化する場合があります。

----- 「Broadband」と「EPG」に関わる文字入力の制限 -----

< Broadband >

Provider_Name の文字数制限：

半角 10 文字以内 (「アルファベット」、「数字」、「スペース " "」、
「ピリオド "."」、「アットマーク "@"」、「アンダーバー "_"」)。
または、全角で 5 文字以内 (全角と半角の混在はできません)。

< EPG >

Service_Name の文字数制限：

半角 10 文字以内 (「アルファベット」、「数字」、「スペース " "」、
「ピリオド "."」、「アットマーク "@"」、「アンダーバー "_"」)。
または、全角で 5 文字以内 (全角と半角の混在はできません)。

Event_Name、Event_Content、Event_Name2、Event_Content2 の文字数制限：

全角文字のみ使用可能

「Event_Name+Event_Content」+「Event_Name2+Event_Content2」の文字
数が「全角」で合計 37 文字以内であること。その範囲内で、

A:Event_Name+Event_Content が全角 27 文字以内であること

B:Event_Name2+Event_Content2 は「全角 37 文字 - A」の文字以内、
であること。

ただし B は全角で 27 文字を超えてはならない。

※「EPG_REC_MARK」で追加される日時の文字 (全角 13 文字) は番組名 (全角 37 文字) に含
まれます。このため、「EPG_REC_MARK」機能をご利用の際の文字制限は全角で、合計 24 文字
以内です。

※制限文字数を超過して入力された文字は表示されません。

※ Event_Name、Event_Content、Event_Name2、Event_Content2 の文字入力には全角のみ使用
可能です。半角は使用できません。全角と半角の混在もできません。

また、文字の入力には Web サーバーをご利用ください。本体ボタン操作での入力にはできません。

----- Web ブラウザーを使用する際の必須環境 -----

パソコン：Microsoft 社 Windows7/8/8.1/10 搭載パソコン

(有線 LAN 端子、または WiFi が利用可能である事。1024x768 ドット以上
の画面解像度)

スマートフォン：WiFi が利用可能な Android 端末、または iPhone

ブラウザ：Microsoft Internet Explorer 11、Microsoft Edge、Google Chrome、

Mozilla FireFox など

ネットワーク：有線 LAN 環境、または WiFi 環境とそれに接続された有線 LAN 環境が
あること。

トラブルと Q & A

本製品を使用する際に発生する事例や解決方法を記載いたします。

映像の問題

Q： HDMI 信号に変化があったり、解像度が変化するとき、テレビに「受信できません (E202)」や「チャンネルをスキャンしてください」などのメッセージが表示され、映像がしばらく映らなくなるのですが？

A： 映像信号がなんらかの要因で一瞬途切れると、映像や音声の変換処理が中断されてしまうため、一時的に RF 信号が無い状態になります。信号が途切れたとき、受信機からエラーメッセージが表示されますが、異常ではありませんので、映像が表示されるまでしばらくお待ちください。

Q： 画質・音質が悪い（ブロックノイズが多い、映像がなめらかに再生されない、フレームのドロップを感じたり、やちらつきが多い）などの症状が発生する。

A： 本製品の特性上、映像の入力解像度が高くなると、画質・音質の劣化が目立ちます。

Q： XHEAD-2 に 1080p 映像を入力したら、1080i で RF 出力されます。

A： XHEAD-2 の設定の「Option」内に「1080P_to_I」という設定があります。この設定を「OFF」に変更することで 1080p (30p：プログレッシブ) で出力可能です。なお、1080p は ISDB-T 方式の放送では一般的に使用されないため、受信機の機種によっては映らない場合があります。

Q： 映像が入力されていないとき、または HDMI ケーブルが取り外されたとき、カラーパターンが表示されないのですが？

A： HDMI 信号の入力が無くなっても、再度映像が入力されるか、電源が「切」または再起動されるまで、未表示または画面が真っ黒の状態となる場合があります。

Q： 480i 信号を入力したり送出することは可能ですか？

A： XHEAD-2 では 480i の入力や送出はできません。

Q： DVI 規格の信号を入力すると映らない、または表示が乱れるのですが？

A： XHEAD-2 は、HDMI 規格の信号にのみ対応しています。XHEAD-2 は、HDMI 規格特有の「AVI インフォメーション」という情報を使用していますが、DVI 信号にはこれが無く、仮に端子の形状が HDMI であっても信号が DVI 規格である場合は、XHEAD-2 が対応できません。

DVI 端子を持つパソコン、DVI 端子の監視カメラ（端子が HDMI であっても DVI 規格の映像の場合も含む）、特殊な業務用機器などを接続される場合は対応できないためご了承ください。

なお、XHEAD-2 に入力される映像のリフレッシュレート（垂直同期周波数）は、必ず「59.94Hz」である必要があります。

詳しくは 113 ページの「正しく送出できない例」を参照してください。

トラブルと Q & A

映像の問題

Q： しばらく動作していたのですが、突然映像が映らなくなりました。本体の電源が自動的に「待機（スタンバイ）」状態になったようです。

A： 本機を風通しの悪い場所に設置したり、機器の隙間に押し込んだりしていませんか？本機は発熱すると安全装置が働き、RF 出力や電源を自動停止します。この様な時は、設置環境を見直し、本機を再起動してください。

Q： 突然映像が映らなくなりました。画面が真っ黒な場合もあるし、送りが止まってしまい、テレビ画面に「E202」が表示されることがあるのですが？

A： 入力信号の瞬間的な途切れ（または乱れ）が頻繁にあるかのかもしれません。「Revive_CHK」を「L1」などに設定してみてください。詳細は、67 ページ「Revive_CHK」を参照してください。

Q： 映像信号に変化があるとき、画面の色がしばらく変色するのですが？（映像が「グリーン（緑）」、または「ピンク」になります。）

A： 映像のカラースペースが RGB または YCbCr（色差）に変化するとき、一時的に映像の変色が発生します。画面が正しい色で表示されるまで、少々時間がかかる場合があります。HDMI には「RGB モード」と「YCbCr（色差）モード」があるため、これらの切り替えの際に発生します。

Q： 主に静止画表示で使用するので 1080p で静止画だけ綺麗にできませんか？

A： Option の「1080P_to_I」を「Off」に設定し、プログレッシブで送出してみてください（動画表示能力は低下します）。ただし、受信機によって 1080p プログレッシブに対応しない機種がありますのでご注意ください。

Q： メディア・プレイヤーで繰り返し同じ映像を再生入力していますが、毎回同じシーンで映像が表示されなくなります（E202 が表示または、受信状態が悪くなりました、アンテナや接続を確認してください、と表示される）。

A： 繰り返し再生の際、一旦メディア・プレイヤー側の信号が途切れる場合があります。映像出力も一時的に停止します。また、複数のファイルを連続再生している場合はそれぞれのコンテンツの切れ目で同様の症状が発生します。

Q： パソコンを接続しているのですが、パソコンから音声が出力される際（パソコンの操作音も含む）や、動画などを再生する、または再生が終了した時、画面が点滅するのですが？（HDMI スルー出力は点滅しません）。

A： OS の世代や種類にもよりますが、昨今のパソコンでは、音声に関わる機能を利用するときのみ HDMI 端子から音声コーデックが出力され、それ以外の時は音声コーデックの出力が停止する様です。音声コーデックの変化を XHEAD-2 が認識するため、送出した信号に途切れが発生し、画面の点滅に至ります。これは仕様上の正しい動作であり回避することはできません。

→次ページへ続く

トラブルと Q & A

音声の問題

Q：XHEAD-2 に HDMI でデジタル音声を入力していますが、音声が聞こえません。映像は正常に表示されています。

A：本機の HDMI からの音声入力はニア PCM のみですが、音声ソース側の機器が MPEG-2AAC やサラウンドで音声を強制的に出力している場合や、設定の違いで未対応の音声コーデックが入力された場合、対応できないため音声を出力できません。

Q：アナログ音声を入力していますが、まったく音声が聞こえません。音声ソース元の機器から音声が出力されていることは確認済みです。

A：[原因その 1]

アナログ音声を出力している機器の端子がヘッドフォン用（またはイヤホン用）の音声を使用するとインピーダンスの違いで全く音声を出力できません。スマートフォンや携帯端末などのアナログ音声はヘッドフォン用のものしか無いためご注意ください。音声は、RCA 端子（赤と白の端子）を利用するか、パソコンのアナログ音声の場合はパソコンの設定を、ライン出力に設定してください。

[原因その 2]

HDMI に音声が無い場合（例えば監視カメラや業務機器などの様に無音か音声コーデックが無い状態）は XHEAD-2 がミュート（消音）状態になります。このため、アナログ音声を入力しても音声を出力できません。

Q：地デジに変換して送出した映像と音声が、元の映像や音声より遅延します。音声もエコーがかかったように聞こえます。

A：製品の特性上、変換された映像は 0.5 秒以上遅延します。これは OFDM 製品の特長です。また、テレビやビデオレコーダーのデコード処理の時間（機種によって時間が異なる）が必要なため、遅延は仕様上発生します。なお、音声にエコーがかかっている様に聞こえる原因は、この遅延が、実際に目の前で喋ったり、発している音とテレビなどから出力される音声にズレがあるためです。

Q：音質が悪いのですが。

A：音質は低下します。本製品の仕様上の制限です。

Q：画面の変化が激しいとき、音声が途切れることがあるのですが。

A：本機の変換 IC の性能により、動きの激しい映像などを処理する際、音声の処理が間に合わなくなることがあり、音声の途切れに至る場合があります。入力映像の解像度を 480p などに変更していただくことができれば音声が安定する場合があります。

トラブルと Q & A

受信機のリモコンの問題

Q：現在使用しているリモコンの番号（1～12）がすべて利用されています。このような時は、どのように設定すればよいですか？

A：リモコンの番号（1～12）がすべて利用されている環境では、本機をご利用いただけません。

Q：特定の受信機でチャンネル・スキャンすると、XHEAD-2 で設定したリモート・チャンネル（Remote_Channel）を正しく認識できません。

A：XHEAD-2 と受信機側の「地域設定」が同じであることを確認してください。もし間違った「地域設定」を行っている場合、受信機側で正しくチャンネルをスキャンできなかつたり、受信機の仕様によってリモート・チャンネルが XHEAD-2 の設定とは変わって識別されてしまう場合があります。

操作の問題

Q：本体のボタン操作で「Provider_Name」や「Service_Name」をすべて消すにはどうしたらいいですか？

A：本体のボタン操作（カーソルボタン）でカーソルを文字列の先頭に移動し、文字入力の操作で「スペース（空白）」を選択して OK ボタンを押してください。これにより、表示しているすべての文字を削除できます。

Q：本体のボタン操作で「Provider_Name」や「Service_Name」に「スペース（空白）」を使用できますか？

A：本体のボタン操作（カーソルボタン）でカーソルを文字列の任意の位置に移動し文字入力の操作で「スペース（空白）」を選択し OK ボタンを押してください。

Q：電源ボタンを押しても電源を「スタンバイ（待機）」にできません。または電源ボタンの反応が良くありません。

A：電源の不用意な操作を避けるため、電源の「スタンバイ（待機）」への操作は、電源ボタンを「1～2 秒」押し続けてください。なお、本体の「Power_Set」設定が「On」の場合は、通電中は常に電源オンとなるため電源ボタンは使用できません。

Q：本体のボタンを操作しても、操作ができません。

A：キー・ロック機能を使用していないですか？本体の液晶画面に「KL」の文字が表示されている場合はキー・ロックが使用中です。キー・ロックを解除してみてください。解除方法は「65 ページ」を参照してください。

Q：画質やチャンネルの設定を変更したのですが、RF 出力に反映されません。

A：設定変更後は「アップロード（Upload）」を実行してください。

トラブルと Q & A

XHEAD-2 を複数同時に使用 (RF 信号を混合) する際の問題

RF 混合器のご利用に際しては自己責任となるため、問題が発生した場合、弊社では対応できませんが、知識として下記の様にご説明します (92 ~ 94 ページもあわせてご覧ください)。

- Q: XHEAD-2 を 2 台使用して 2 チャンネルの運用を検討しています。しかし 2 台接続しても、どちらか一方のチャンネルを認識できません。
- A: 物理的な原因 (RF 信号) と、論理的原因 (地デジの仕組み) の二つの原因が考えられます。

< 物理的な原因 (RF 信号の干渉) >

隣接チャンネルの信号によるノイズの影響が考えられます。できるだけ 1 チャンネル以上空けてチャンネルを設定するように変更してみてください。例えば「13ch」、「15ch」の様に 1 チャンネルおきに空きチャンネルを選んで設定してみてください。もしくは映っているチャンネルの XHEAD-2 の出力レベルを少し下げてください。また、原因が混合器である可能性もあります。混合器は、地デジ対応の混合器をご利用ください。なお、混合器は弊社製品ではないため混合器使用におけるトラブルに関してはお答えできません。

< 論理的原因 (地デジの仕組みの制限) >

「地域事業者識別 ID (Station_Id)」の重複が原因である可能性があります。標準は「14」で、この数値は本来 XHEAD-2 の個体ごとに重なってはいけません。「サブチャンネル (Remo_Sub_Channel)」と「地域設定 (AREA_SET)」を変えて設定することで解決できる場合があります。94 ページの「Station Id (地域事業者識別 ID [ステーション ID]) とは何ですか? 何番を使用すれば良いですか?」をご覧ください。また、複数の XHEAD-2 で異なる「地域」を設定する方法は 92 ページを参考にしてください。

- Q: 事前の動作確認では正常に動作していたのですが、地デジ放送と混合した途端に表示が不安定になりました。この症状は VHF 帯でのみ発生します。
- A: VHF 帯は、現在テレビ以外の用途で利用されています。このため、地デジのアンテナからテレビ放送以外で使用されている電波が混入してしまい、テレビはこれをノイズとして認識します。地デジ放送と混合する場合は、VHF 以外の帯域 (UHF 帯または CATV 帯) をご利用ください。なお、UHF 帯のハイバンドは将来的に別のテレビ以外の用途で利用される可能性がありますので、長期にわたって UHF 帯を使用する場合は総務相の情報などを、十分確認するようにしてください。

録画の問題

- Q: ビデオレコーダーなどで録画ができません。
- A: 市販の DVD プレーヤーや Blu-ray プレーヤー (または一部のゲーム機などは) やスマートフォンの映像、メディアプレーヤーの映像信号は、著作権保護 (HDCP) が有効であるため本機では録画禁止で処理されます。また、著作権保護が無い信号や機器でも、本機の設定が「Prohibited」に設定されていると、著作権保護が有効になるため録画ができなくなります。

トラブルと Q & A

録画の問題

- Q: ビデオレコーダーなどで録画しようとする時「〇時間以上の番組は録画できません」とテレビ画面に表示され、録画を開始できません。
- A: ビデオレコーダーの仕様により、リモコンの「録画ボタン」を使用しても、多くの機種は、EPG 情報を元に録画処理を行います。このため、録画システム側のハードウェアやソフトウェア制限により、一定の時間 (例えば 6 時間や 8 時間) 以上録画できない場合があります。この様なときは、本機の「Event_Time」の設定を変更し、番組の時間割りを録画可能な時間 (例えば 1 ~ 3 時間程度) に設定してください。なお、機種によっては時間割りをまたいでの長時間録画ができない場合があります、これらの機種では一番組 (番組の終了時間まで) しか録画できません。

- Q: ビデオレコーダーなどで録画すると画質が著しく低下するのですが。
- A: ビデオレコーダーは放送波をそのまま (TS) 録画する高画質モードと、MPEG-4AVC など再圧縮 (録画時間を優先) する長時間録画モードがあります。ビデオレコーダーが長時間録画モードに設定されている場合は元映像よりも著しく画質が低下します。なお、ビデオレコーダーの機種仕様により、1080i 以外の解像度は長時間録画モードでしか録画できないことがあります。

チャンネルやサブチャンネルの問題

- Q: 480p 映像 (SD 映像) を使用して、複数のデジタル・チャンネル (サブチャンネル [マルチチャンネル]) を利用したいのですが。
- A: XHEAD-2 ではサブチャンネルの設定はできませんが、MPEG-2 エンコーダーが一系統しかないため、マルチチャンネルは利用できません。
- Q: 既存の地デジ放送を混合していますが、既存の放送局 (チャンネル) に XHEAD-2 でサブチャンネルを追加すると動作が不安定になります。
- A: XHEAD-2 で既存の地デジ放送や、既存の OFDM の放送チャンネルに、サブチャンネルを追加することはできません。本機を使用するには、必ずリモコンのチャンネル「1 ~ 12」で全く使用されていないチャンネル (サブチャンネルも未使用) が一つ必要です。なお、仮にテレビの既存のチャンネルをスキップ設定したり、他のリモコンのチャンネル番号に割り当てても、放送波に含まれるチャンネル情報は変化しないため、チャンネル・スキャン操作を行うときに同じチャンネルが二個存在してしまうこととなります。このため受信機は正しく認識できません。お客様の地域やケーブルテレビの放送番組表を見て、使用されているチャンネルと未使用のチャンネルを事前に把握するようにしてください。

- Q: RF チャンネル (物理チャンネル) の空きチャンネルが分かりません。
- A: 多くのテレビやレコーダーの機能では、RF チャンネルを確認することが困難です。このため、総務相の Web ページをご覧ください。測定器を使用する、または既存の放送サービスが導入されている施設ではそれらの管理者へお問い合わせください。

< 総務相の地デジ関連 Web ページ URL >

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/dtv/datashu.html

トラブルと Q & A

Web サーバーの問題

- Q： Web サーバーを使用するため LAN ケーブル（クロスケーブル）で直接パソコンと XHEAD-2 を接続していますが、Web サーバーにアクセスできません。
- A： XHEAD-2 の「DHCP」の設定を「MANUAL」に設定した後、パソコンの DHCP をオフに（パソコンの IP アドレスを手動で設定）してください。設定後、必ず「XHEAD-2」と「パソコン」を再起動してください。その後、XHEAD-2 の IP アドレスを確認して、パソコンの Web ブラウザーの URL に IP アドレスを入力してアクセスしてください。
なお、制御に使用するパソコンのネットマスクやその他の詳細設定をお客様側で独自に変更しているときは、これらも設定する必要があります。
-
- Q：「DHCP」の設定を「MANUAL」に設定していると「NTP サーバー」に接続できない様です。
- A：「DHCP」の設定を「MANUAL」に設定している場合は DNS が動作しないため、「NTP サーバー」のアドレスを URL ではなく、直接「IP アドレス」で指定してください。
本製品の仕様上の制限であるため、ご理解賜りますようお願いいたします。
-
- Q：ときどき、Web サーバーへのアクセスが正常に行えなかったり、Web 表示のフレームが正しく表示されない場合があります。
- A：Web ページをリロードするなどしてください（Windows の場合はブラウザ表示でキーボードの「F5」を押す）。
-
- Q：Web サーバーにアクセスできません。パソコンと XHEAD-2 のネットワーク設定は DHCP を使用しています。IP アドレスも間違っていない。
- A：接続ケーブルなどの接触不良が無いことを確認した後、室内のネットワークを管理しているネットワーク管理者にご相談ください。
-
- Q：Web サーバーをパソコンの Web ブラウザーで操作しているのですが、表示スタイルがスマートフォン用のものになってしまいました。
- A：スマートフォン用のデザインで操作を行っていただくか、ブラウザのウィンドウ表示の水平方向（横）のサイズを広げてみてください。
-
- Q：XHEAD-2 とパソコンをクロス型 LAN ケーブルで直接接続しているとき、「ログイン」や「設定」、「XHEAD-2 に設定を転送」の操作で Web ブラウザーにエラーや Web ページが見つからないなどの表示がされてしまうのですが？
- A：クロス型 LAN ケーブル使用時は、このようなエラーが発生しやすくなります。Web ページをリロードするなどしてください（Windows の場合はブラウザ表示でキーボードの「F5」を押す）。
-
- Q：DHCP を使用していますが、数日間経過すると Web サーバーにアクセスできなくなりました。設置した時と IP アドレスが変わっている様です。
- A：DHCP をご利用の場合、IP のリース期間が終了すると、Web サーバーの IP アドレスが変化する場合があります。このため DHCP をご利用の場合で、本機が数日以上連続稼働している場合は、LAN 経由での制御を行う（Web サーバーを使用する）前に、本体前面の液晶画面で最新の IP アドレスを確認してください。

トラブルと Q & A

番組表に関する問題

- Q：番組のジャンル（コンテンツ：Content_Set または Content_Set2）のさらに細かい分類を変更したいのですが？
- A：コンテンツにはジャンルごとに詳細な分野の情報を持ちますが、本機で設定できるのは番組のジャンルの選択までとなっております。それ以下の詳細設定はできません。
-
- Q：電子番組表や時間割りがまったく表示されません。
- A：本機の日時を正しく設定していますか？
電子番組表の運用には日時が必須です。本機にボタン電池を挿入し、日時を正しく設定してください。
-
- Q：特定の機器でのみ電子番組表を表示できません。
- A：一部の受信機で電子番組表を正しく表示なかったり、表示に時間が掛かる場合があります。

本体の液晶表示の問題

- Q：本体の液晶画面で「Provider_Name」や、「Service_Name」の文字がおかしくなります（または「-カンジ CODE -」と表示されます）。
- A：Web サーバーから「Provider_Name」や、「Service_Name」に全角文字を入力すると、この様な表示となります。地デジの方式上「Provider_Name」や、「ServiceName」に全角を無理矢理入力することは可能ですが、XHEAD-2 では半角英数文字のみ対応としております。
「Provider_Name」や「Service_Name」には半角英数文字をご利用ください。

ワンセグの問題

- Q：ワンセグの送出を行いたいのですが。
- A：XHEAD-2 は 13 セグメントで送出していますが、ワンセグ放送には対応していません。

VHF 帯の利用の問題

- Q：VHF 帯の 4ch ~ 12ch を利用したいのですが、受信機でチャンネル・スキャンしても放送局（XHEAD-2 の送出チャンネル）が見つかりません。
- A：地デジは本来 UHF 帯で利用されるため、VHF 帯への対応は受信機側の仕様依存します。受信機側の仕様をご確認ください。
なお、VHF 帯やケーブルテレビ帯（C チャンネル）を使用している場合はテレビでチャンネル・スキャンする際の「全帯域のスキャン」を行ってください。
- Q：VHF 帯の 4ch ~ 12ch を利用していますが、不規則に表示したり、表示しなかったりします。なお、地デジ放送も混合して使用しています。
- A：VHF 帯の 4ch ~ 12ch は現在、テレビ放送以外の用途で利用されています。このため、地デジを混合した際、これらの信号（テレビ放送以外の信号）を混合器が混合してしまい、受信機が正しく受信できません。
地デジ放送などを混合している場合は VHF 帯を使用しないでください。

トラブルと Q & A

他の機器との組み合わせなどの問題（相性など）

弊社で事前に確認されている相性の発生する機器や症状を記載いたします。

Q：HDMI 分配器や切替器（スイッチャー）を経由して入力すると、映像が点滅したり、変色、または正しく表示されません。またビデオレコーダーで録画すると録画が停止してしまいます。

A：原則として HDMI 分配器や切替器（スイッチャー）を接続した際の動作保証は致しかねます。一旦これらの装置は外して動作をご確認ください。

Q：RF 分配器や混合器を使用すると画面が乱れる様になりました。解決策はあるでしょうか？

A：RF 信号は分配器や混合器を使用すると信号のレベルが下がります。市販の地デジ用 RF 増幅器（電源を使用するもの）を使用してみてください。

Q：特定の場所やケーブルで使用すると画面が乱れたり、正常に映らないことがあります。

A：RF ケーブルは「地デジ対応」の配線ですか？また、長期間放置された古いケーブルを使用している場合は、配線内部の金属が腐食している可能性があります。新しい RF ケーブルを使用するなどして試してみてください。住宅やビルなどで配線が古い場合は設備業者様にご相談ください。

Q：2 画面表示可能なテレビ（特定のメーカー）で同じテレビ映像（XHEAD-2 のチューナー映像）を同時表示すると、画面がちらついたり、乱れがちになるのですが？

A：720p などプログレッシブのチューナー映像では、2 画面表示の際、正常に表示されない場合があります。恐らくテレビ側で想定していないものと思われるので映像ソースは 1080i でご利用ください。

Q：メディアプレイヤーを XHEAD-2 に接続したところ、映像が映らない、または数十分経過すると映像が点滅したり、映らなくなります。

A：メディアプレイヤーが HDMI 規格を遵守していない、または映像信号のリフレッシュレートが 59.94Hz ではない可能性があります。

Q：映像に変化のない静止画（掲示板の様な画面）を表示し続けると画面が乱れ始めるのですが？特定のメーカーのテレビでのみ発生するようです。

A：テレビの特定のメーカーのテレビではこの様な相性が発生します。テレビのメーカーを変えるなどの工夫が必要です。

Q：マイクロソフト社のゲーム機 Xbox シリーズの 480p 映像を入力していますが、映像がまったく表示されません。

A：通常 480p は 720x480 ピクセルですが、同機の解像度は 640x480 ピクセルを使用していると考えられ表示できません。

→次ページへ続く

トラブルと Q & A

他の機器との組み合わせなどの問題（相性など）

Q：東芝社のビデオレコーダー VARDIA シリーズや旧型の REGZA シリーズで、リモート・チャンネルが、別の番号に設定されてしまうのですが？

A：東芝社のビデオレコーダーなどをご利用の場合、XHEAD-2 で設定したリモート・チャンネルと違う番号が設定されてしまう場合があります。これは、ビデオレコーダーなどにあらかじめ登録されているご利用の地域の放送局一覧内に、すでに使用されているチャンネルがあり、重なっている場合に発生します。リモコンの番号ボタンが重ならないように自動で割り付ける機能が動作していると考えられます。XHEAD-2 とビデオレコーダー側の地域設定が同じになるように設定してください。

Q：1080p (30p) で RF 出力すると、映像が表示されないのですが？

A：ナナオ社、ドウシヤ社、ティーズネットワーク社（ドン・キホーテ販売品）の地デジ対応テレビまたはディスプレイでは地デジ放送で 1080p (30p) を表示できないことを確認しています。受信機の仕様上の制限と考えられます。同機以外にも同様の仕様制限を持つ機種が市場や住宅にある可能性があります。また、W チューナーの受信機や（2 画面表示できるテレビを含む）では、二つのチューナーのうち、一方が 1080p (30p) の受信に対応できない場合があります。

Q：特定の機器と接続したとき HDMI 信号を入力できません。テレビに接続すると映像が出力できます。

A：アナログ映像出力と HDMI 映像出力（デジタル）を両方持つ機器を接続される際、これまでアナログ映像出力を使用している機器を XHEAD-2 に接続すると HDMI 接続を自動認識できず、映像を出力しない場合があります。このような時は、一旦機器を本機から取り外し、テレビの HDMI 端子に直接接続し HDMI 出力に切り替えてから XHEAD-2 に接続してください。

Q：特定の地デジ・チューナー（HDMI 出力を持つ簡易型のチューナー）と接続すると数十分後に映像が点滅したり、音声途切れるなどするのですが。

A：地デジ・チューナーごとに下記の様にご対応ください。

●ピクセラ社「PIX-SMB400」の対処方法

「PIX-SMB400」のファームウェアを最新版にアップデートしたのち、チューナー側の設定メニューを操作し、リフレッシュレート（垂直同期周波数）を「59.94Hz」に設定してください（ファームウェア・アップデート後、チューナー側を再起動すると自動で設定される場合もあります）。

●エスケーネット社業務用テレビチューナー「SK-TVB」の対処方法

「SK-TVB」は、HDMI 出力のリフレッシュレート（垂直同期周波数）が、「60Hz」のみ（59.94Hz は未対応）であるため XHEAD-2 に接続して使用することはできません（2020 年 10 月現在：弊社調査）。

→次ページへ続く

トラブルと Q&A

その他の問題

Q：以前使用していた XHEAD-2 と比べ、メニューの設定機能が減っているのですが？
 A：本製品に使用されているファームウェア Ver.2 以降では、旧ファームウェア (Ver.1) に比べて、画質が向上したため、画質調整は不要とされ、画質調整 (MPEG-2 圧縮 [Encode]) に関わる機能のほとんどが削除されました。また「DP」というフレームのドロップのメッセージ表示など、画質以外にも削除された機能や名称が変更になった機能があります。

詳しくは、弊社 Web ページにてファームウェアの更新履歴をご覧ください。

メンテナンスに関して

Q：Web サーバーで XHEAD-2 の設定データをパソコンに保存したいのですが？
 A：原則、長期間管理・維持をされる場合は「110～112 ページ」の手書きによる書類保存をお勧めしますが、Web サーバーからパソコンのファイル形式 (Windows 用) で設定データを保存することも可能です。下図を参考に Web サーバーの「メンテナンス」から、設定データのダウンロード、もしくは復元を行ってください。

＜設定のバックアップ＞

ここをクリックすると XHEAD-2 の設定データをファイルとしてパソコンにダウンロードできます (ファイル名: EEP.dat)。
 参考：ファイルの保存先はブラウザの設定に依存します。



＜設定の復元＞

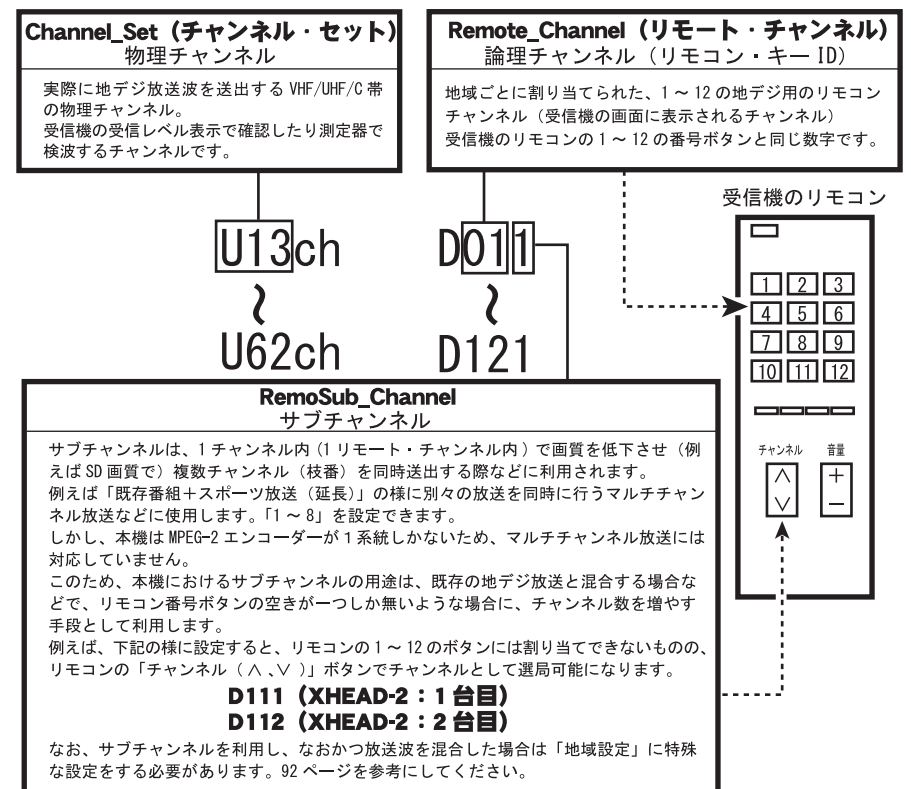
「参照」からパソコン上にバックアップした設定データ (EEP.dat) を選択し、XHEAD-2 へ復元します (パソコン上の「EEP.dat」ファイルを選択後、「Upload」ボタンをクリック、最後に「XHEAD-2 に設定を転送」ボタンをクリックしてください)。

ご注意：本体のファームウェアをアップデートしている場合、古いファームウェア (ファームウェアをアップデートする前の XHEAD-2) で保存した設定データ「EEP.dat」は、復元に利用できません。また、新しいファームウェアの設定データを古いファームウェアで使用することもできません。

トラブルと Q&A

放送波を送る物理チャンネルと、リモコンのチャンネル番号の違い

Q：「UHF などの物理チャンネル (Channel_Set)」と「リモート・チャンネル (Remote_Channel)」の違いが分かりません。
 A：地デジ放送波はデジタルの放送ですが、放送はアナログ放送時に使用されていた「UHF 帯」などのアナログ放送波を利用しています。このため、「Channel_Set = 実際に放送波を送る物理チャンネル」と「Remote_Channel = リモコンで選局する 1～12 のチャンネル (及びそのサブチャンネル)」を設定する必要があります。チャンネルの構成は下図をご覧ください。



※本機では UHF 帯の他に VHF 帯 (4～12ch)、C 帯 (23～32ch) の物理チャンネルでも送出可能ですが、VHF 帯は現在テレビ放送以外の用途で利用されているため注意が必要です。
 ※サブチャンネルのチャンネル利用は受信機の仕様によって動作が異なる場合があります。
 ※本機のサブチャンネルはフルセグメントでの送出となり、マルチチャンネルによる送出はできません。

(付録) 設置記録メモ

この「設置記録メモ」はお客様がエンドユーザー様の情報を管理するためにご利用ください。修理などの後は設定が工場出荷時の設定に初期化されるため、再設定ができるようにメモすることをお勧めします。また、XHEAD-2を複数使用している場合は、その台数分記録を残します。なお、このメモは個人情報を含むため、修理などの際、弊社へお送りいただく必要はありません。記載された内容は、お客様にて管理してください。※ 110～112 ページはコピーするなどしてご利用ください。

設置日 (工事日・導入日)	年 月 日	
設置業者名 (御社名)		
設置・保守担当者名 (実作業担当者)	氏名：	電話：

設置先施設名		
施設先管理法人名		
施設先管理連絡先	氏名：	電話：

製品シリアル番号				
用途	<input type="checkbox"/> 館内サイネージ	<input type="checkbox"/> 製造装置管理用	<input type="checkbox"/> 校内放送	<input type="checkbox"/> 延長用
	<input type="checkbox"/> 講演会/講習会	<input type="checkbox"/> 監視カメラ	<input type="checkbox"/> イベント用	<input type="checkbox"/> ホテルサービス
	<input type="checkbox"/> その他 ()			
ネット接続 (LAN)	<input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> インターネット	<input type="checkbox"/> イントラネット (インターネットなし)	
その他	<input type="checkbox"/> 常時NTPサーバーを利用 (インターネット経由の時刻設定)			

Broadcast (ブロードキャスト)

Channel_Set (チャンネル・セット)	ch ※ RF チャンネル	
Provider_Name (プロバイダー・ネーム)	プロバイダ名：	
Remote_Channel (リモート・チャンネル)	リモコンのチャンネル番号： ※地デジチャンネル	
RemoSub_Channel (リモート・サブ・チャンネル)	サブ・チャンネル番号：	
AREA_SET (エリア・セット)	地域名：	
Station_Id (ステーション・アイディー)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Output_Level (アウトプット・レベル)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：

(付録) 設置記録メモ

EPG (イー・ピー・ジー)

Service_Name (サービス・ネーム)	サービス名：	
EPG_REC_MARK (イー・ピー・ジー・レック・マーク)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Content_Set (コンテンツ・セット)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Event_Time (イベント・タイム)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Event_Name (イベント・ネーム)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Event_Content (イベント・コンテンツ)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Content_Set2 (コンテンツ・セット 2)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Event_Time2 (イベント・タイム 2)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Event_Name2 (イベント・ネーム)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：
Event_Content2 (イベント・コンテンツ 2)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容：

Network (ネットワーク)

IP_Address (アイ・ピー・アドレス)	手動設定の際の IP アドレス	<input type="text"/>
DHCP (ディー・エイチ・シー・ピー)	<input type="checkbox"/> DHCP 自動	<input type="checkbox"/> MANUAL (手動)
Sub_Netmask (サブ・ネット・マスク)	手動設定の際のサブ・ネットマスク	<input type="text"/>
MAC_Address (マック・アドレス)	<input type="text"/>	
Gateway (ゲートウェイ)	手動設定の際のゲートウェイ	<input type="text"/>
AUTONEGOTIATION (オートネゴシエーション)	<input type="checkbox"/> ON (自動)	<input type="checkbox"/> OFF
ログイン情報	ユーザー ID：	
	パスワード：	

Date/Time (デート・タイム)

Time_Set (タイム・セット)	<input type="checkbox"/> Server	<input type="checkbox"/> Manual
NTP_Server (エヌ・ティー・ピー・サーバー)	NTP サーバーを手動で設定した際の URL や IP	

(付録) 設置記録メモ

CopyProtection (コピー・プロテクション)

CopyProtection (コピー・プロテクション)	<input type="checkbox"/> NONE	<input type="checkbox"/> COPY_ONCE	<input type="checkbox"/> Prohibited
---------------------------------	-------------------------------	------------------------------------	-------------------------------------

Option (オプション)

Audio_Input (オーディオ・インプット)	<input type="checkbox"/> HDMI	<input type="checkbox"/> Analog	
LCD_Set (エル・シー・ディー・セット)	<input type="checkbox"/> AUTO_Off	<input type="checkbox"/> ON	
Power_Set (パワー・セット)	<input type="checkbox"/> Standby	<input type="checkbox"/> ON	
1080P_to_I (1080 ピー・トゥー・アイ)	<input type="checkbox"/> OFF	<input type="checkbox"/> ON	
Key_Lock (キー・ロック)	<input type="checkbox"/> OFF	<input type="checkbox"/> ON	
Encode_Delay (エンコード・ディレイ)	<input type="checkbox"/> 初期設定	<input type="checkbox"/> 変更 設定内容 :	
STREO/BILINGUAL (ステレオ/バイリンガル)	<input type="checkbox"/> STREO	<input type="checkbox"/> BILINGUAL	
Revive_CHK (リヴァイヴ・チェック)	<input type="checkbox"/> Off	<input type="checkbox"/> L1	<input type="checkbox"/> L2
Color_Bar (カラー・バー)	<input type="checkbox"/> On	<input type="checkbox"/> Off	

Firm_ver (ファームウェア・バージョン)

シリアル No (製造番号)

Ver.	Serial No.
------	------------

メモ

上記以外にも、お客様で変更された設定がある場合 (工場出荷時設定ではない場合) は別紙にメモすることをお勧めします。製品や担当者が代わっても対応できるように心がけましょう。

BML のご利用に関して

< BML コンテンツに関して >

XHEAD-2 では映像や音声と共に任意で BML によるデータ放送 (文字や画像の情報) を送出することが可能です。データ放送送出時にはテレビのリモコンの「d」ボタンを押すことで、データ放送を利用できます。

データ放送に使用できる BML コンテンツは本機に対応した開発ツールで作成する必要があります。BML コンテンツは、パソコンの Web ブラウザーを使用して本機にアップロードすることができます。

なお、BML コンテンツのデータ容量には制限がありますのでご了承ください。BML コンテンツに関する詳しいご質問は弊社へお問い合わせください。

※ BML コンテンツは XHEAD-2 の仕様範囲内で作成する必要があります。他社製 OFDM 用に作成された BML コンテンツは仕様の違いなどにより、動作しない場合があります。

不明な点は弊社へお問い合わせいただき、技術担当とご相談ください。

※弊社では BML コンテンツの作成は受注しておりません。BML コンテンツはお客様にて作成されるか、BML 専門の制作会社様などにご相談ください。

※ BML サービスを開始・終了 (停止) する際は一時的に送出した信号が途切れます。

正しく送出できない例

59.94Hz 対応の HDMI 機器を接続してください

放送に関わる機器は、映像信号のリフレッシュレートが 59.94Hz である必要があります。本機の HDMI 入力端子へ接続される機器も 59.94Hz である必要があります。しかし、見かけ上は 59.94Hz に対応していることを確認できないことが多いため、お手数でも接続したい機器のメーカーにお問い合わせいただき、映像のリフレッシュレートが、59.94Hz 対応であることをご確認ください。

市販のメディアプレイヤーや、一部の Android 対応地デジチューナー (エスケープ社製など)、一部のスイッチャーでは、59.94Hz に対応しないものがあります。

59.94Hz に未対応の機器 (例えば 60Hz 対応の機器) を接続すると、送出とのタイミングズレが生じ、受信しているテレビなどにおいて「数十分使用していると映像の点滅や乱れ」、「音声の途切れ」、「著しい映像や音声の遅延」が発生します。

簡易地デジチューナーや信号が不安定な機器にご注意ください

簡易地デジチューナーや BS チューナーは、設備上の問題や、雨天などで受信状況が悪化すると、HDMI 信号が瞬間的な停止 (瞬停) することがあります。

この様な状況が発生すると希に XHEAD-2 が正しく HDMI 信号を変調できなくなる場合があります。音声は出力されるものの、映像が真っ黒であったり、乱れた映像が送出され続ける場合があります (市販の安価な HDMI 切替器でも発生する場合があります)。この様な時は「Revive_CHK」機能 (67 ページ) をご利用ください。

修理の依頼方法

お問い合わせ頂いてもお答えできないご質問

誠に恐れ入りますが、下記のような疑問や相談に関しては、弊社へお問い合わせいただきましても回答できません。ご了承ください。

- お客様の施設や設備に依存した問題、及び設備側の機器の変更によるトラブル。
(弊社ではお客様のご利用環境やご利用時の条件を把握できないため)
- 著作権に関するご相談やトラブル。
- 既存放送信号(地デジ放送など)との混合に関するご相談やトラブル。
- 修理中の代替機に関するご相談(弊社では代替機をご用意できません)。
- 弊社以外の機器やケーブルの長さなどに関するお問い合わせ。
(ケーブル延長などに関してはケーブルの品質やご利用環境に依存するため、弊社がケーブル延長時の信号品質を保証することはできません。お客様側にて測定器などで測定し、評価を行ってください。)
- 23 ページに記載された機器や環境でご利用の際のお問い合わせ。

修理をお受けできない製品

- 改造・分解された製品(本体に故意に穴を開けたり、基板への改造、配線などの変更や切断、基板だけの状態や、他の機器に組み込んでいる場合も含む)。
- 本体の「シリアル番号シール(製造番号シール)」や「MAC Address シール」が、はがされているもの。
- あきらかに雷で焼けたり、破損などで原形をとどめないもの、水没したもの(買い替えなどをご検討ください)。
- ご購入後、数年期間が経過し、サポート期限が過ぎている場合。
(修理ご依頼前にお問い合わせいただき、修理が可能であるかご確認ください)。

出張修理や出張サポートは受け付けておりません

本製品は業務用機器ではありません。民生用の製品であるため、故障時はお客様が取り外し作業を行っていただき、弊社まで宅配便などでお送りいただくこととなります。弊社からお客様の元に出張して修理するサービスは行っておりません。

修理時に設定は工場出荷時の設定に初期化されます

ご購入後、お客様が設定された様々な設定内容や調整は、正しい修理・検査を行うため、弊社で全て工場出荷時の設定に初期化いたします(電池を外す必要がある場合は、日時なども初期化されます)。弊社では、これらの設定を、お客様がご利用になっていた時の状態に戻すことはできません。

このため、修理で送付される前に、必ず各種設定の記録を取り、再設定ができるようにしてください。本書の110～112ページをコピーするなどして、設定などをメモするようにしてください。(メモはお客様が保管し製品ご返却後にお客様にて再設定していただくこととなります)。

<修理を依頼する前に>

事前にご連絡ください

- 修理をご依頼いただく際は、事前に弊社 Web ページのサポートフォームからご連絡いただくか、お電話などでご相談ください。また、ご連絡いただく前に、本書(取扱説明書)を手元にご用意ください。
- お問い合わせ前に Q&A(98～109 ページ)をご覧ください該当症状が無いか確認しましょう。
- お手数ですが、本機に接続している機器を、他の機器に変更しても同じ問題が発生するか確認してみてください。本機以外の機器や接続環境に依存した不具合ではない事を確認しましょう。
- 現在接続している機器のメーカー名や機器の型番をメモし、弊社へ正しくお伝えください。
- どれくらいの期間使用し、いつ頃問題が発生したか確認しておきましょう。
- お電話の際はできるだけ本機を操作可能な状態(場所)からご連絡ください。

修理の依頼方法

製品の修理をご依頼の際は、下記の手順で弊社へご依頼ください。

サポートにかかる費用に関して

<送料>

初期不良期間内(購入後2週間以内)の場合は弊社にて送料を負担可能ですが、送付前に必ずお電話や弊社 Web ページなどからご連絡いただき、弊社の了解を得てください(事前のご連絡がない場合は受け取りをお断りする場合があります)。初期不良期間を過ぎての修理ご依頼の場合は、事前に症状や修理依頼のご連絡をいただいた後、発送時の送料はお客様ご負担にてお送りください。ご返却時の送料は原則弊社が負担いたします。

<修理にかかる費用>

製造上の問題などによって初期不良と認められた場合は、保証規定に基づき無償修理または正常品と無償交換させていただきます。なお、保証期間を過ぎてからの修理や、保証期間内であっても、故障の原因が、輸送、天災、及びお客様の取り扱いミスや間違った使用方法で発生した故障・破損の場合は費用を請求させていただきます。

<弊社がお支払いできない作業費用>

弊社へ至るまでに発生した作業費用や手数料、運搬費用、人件費はお支払いできません。

お送りいただく物

- お電話などで事前にご連絡いただいた場合でも、症状や、発生状況、接続している機器の型番などを詳しく記載された書面を添付してください。
- お買い上げいただいて間もない場合は、原則、付属品やパッケージ(箱)などすべてをお送りください。ご購入後、期間が経過している場合で、パッケージなどが無い場合は必ず「本体」と「AC アダプター」をお送りください(AC アダプターは消耗品であるため長期間の利用で機能が低下しやすい部品です)。
- 原因が弊社以外の部分にあると推測される場合には、事前にご相談の上、お客様の機器やケーブルなどをお借りする場合があります(ご相談の上、借用可能な場合のみ)。

<梱包はしっかりと>

衝撃で破損しやすい製品です

本機は基板部にヒートシンク(熱を拡散する部品)がシールなどで取り付けられている部分があり、強い衝撃や振動を与えると外れてしまう恐れがあります。また、本体ケースはプラスチックと金属の組み合わせで作られているため、強い衝撃や振動で破損する恐れがあります。原則、ご購入時のパッケージ(梱包箱やインナー)をにて梱包したうえで、梱包・送付することをお勧めしますが、購入後期間が経過してパッケージが紛失している場合は、お客様にてご用意いただいた送付用の箱(ダンボール箱など)に入れてご送付ください。なお、梱包は静電気の発生しないクッションなどでくるんで衝撃を緩和してください(緩衝材に発泡スチロールや静電気を帯びる発泡材は使用しないでください)。箱(ダンボール箱など)に梱包する際、製品と箱の間に隙間などができない様、やわらかい緩衝材(新聞やチラシを「ボール状」に丸めた物)などを詰めてください。

<製品内容のお問い合わせ・修理のご相談窓口は>

お問い合わせの電話番号は本書の最終ページ(裏表紙)をご覧ください。

初めて地デジ用 OFDM を使用し、既存の地デジ放送も混合されるお客様へ

XHEAD-2 と地デジ放送を混合してご利用されるお客様のために、本書では参考として混合のノウハウなどを記載している部分があります。しかしながら、XHEAD-2 には本来地デジ放送との混合機能は内蔵しておりません。地デジ放送との混合に関しては、お客様のご用意された混合器や資材を用い、お客様独自の設備環境に依存いたしますので、放送波の混合に関しては本機の「保証範囲」には含まれないことをご理解ください。

なお、地デジ放送との混合には、設置場所の配線状態や放送状況（空きチャンネル及びケーブルテレビなどの放送状況）を十分に把握し、地デジ対応 OFDM の取り扱いに詳しい技術者などに相談しながら作業を進めるようにしてください。また、アナログ放送時代の OFDM を本製品に置き換える場合は、アナログ放送と地デジ放送の仕組みの違いを十分に把握した上で、作業を行っていただく必要があります。

地デジ放送との混合時の設定手順は、弊社 Web ページにてアドバイス資料（PDF）を掲載しておりますので、まずはそちらをご参照（または印刷）してご利用ください（参照にはパソコンが必要です）。

< 製品内容・修理のお問い合わせ先 >

マイコンソフト・ユーザー・サポート係

※本書では説明しきれない設定手順や、よくあるお問い合わせなどの解決方法は、弊社 Web ページにて掲載している場合があります。電話いただく前に、弊社 Web ページをご確認ください。

Web ページ URL

<http://www.micomsoft.co.jp/>

電話番号：06-6203-2827

お問い合わせ可能な時間

営業日の

午前 9：00～11：45

午後 13：00～17：30

株式会社電波新聞社・マイコンソフト事業部

〒541-0045 大阪府大阪市中央区道修町 3-2-6

ウエムラビル 4F

※土・日・祝日及び国が定める休日は営業していません。

※年末年始の営業日は弊社 Web ページにてご確認ください。

※不具合などでご相談の場合は、本機に接続されている機器名などをお伺いします。

お手数ですが、本機の入力 / 出力端子に接続している機器のメーカーと型番をメモするなどした後、弊社へ問い合わせください。

※お問い合わせの際は、本書をお手元にご用意ください。

※修理を依頼される場合は、事前にお電話などでご相談ください。

※お急ぎでないお客様は、弊社 Web ページのお問い合わせフォームをご利用ください。

< 販売・流通に関するお問い合わせ先 >

株式会社 電波新聞社（販売管理部）

〒141-8715 東京都品川区東五反田 1-11-15

TEL 03-3445-8201（ダイヤルイン）

< 商標に関する記述 >

- HDMI、HDMI ロゴ及び High Definition Multimedia Interface は HDMI Licensing.LLC の商標または、登録商標です。
- その他、本書に記載された商品名及び会社名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。
- 本文中では、TM、® マークは基本的に明記していません。